



実務家科目



ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	中平 了悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55% 試験 ・ レポート ・ 課題 ・ 提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分) 		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55%</p> <p>試験・レポート・課題・提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55%</p> <p>試験・レポート・課題・提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	後期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	塚田 博教		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教經典『仏説無量寿經』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55%</p> <p>試験 ・ レポート ・ 課題 ・ 提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分)</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	後期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	本多 彩		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55%</p> <p>試験 ・ レポート ・ 課題 ・ 提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分)</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	釋 大智		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教經典『仏説無量寿經』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	赤井 智顕		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。 ・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分） 		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	○
ディプロマ・ポリシー-3	○	ディプロマ・ポリシー-4	◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見詰め、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想 第2回 宗教とは何か 第3回 宗教の種々相 第4回 ブッダの生涯と苦の自覚 第5回 縁起思想について 第6回 空の思想について 第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土 第8回 浄土思想：中国浄土教思想 第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ 第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の教え：他力について 第12回 現代社会と仏教：概説 第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から 第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50% 試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。 ・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分） 		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見詰め、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想 第2回 宗教とは何か 第3回 宗教の種々相 第4回 ブッダの生涯と苦の自覚 第5回 縁起思想について 第6回 空の思想について 第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土 第8回 浄土思想：中国浄土教思想 第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ 第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の教え：他力について 第12回 現代社会と仏教：概説 第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から 第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50% 試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。 ・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分） 		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期/後期
授業科目名	大学と地域社会		
英訳科目名	University and Regional Society		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>いま、日本の大学は、大学の中だけで教育や研究を行うだけではなく、そのことを通して、社会や地域に対して貢献することが大きな役割であるとされるようになってきています。大学にたくわえられた豊かな知識や技術を広く世界や日本全体、とくにそれぞれの大学が位置する地域社会に提供し、それぞれの地域社会の発展や振興に寄与するのが、現在の大学の重要な使命となっているのです。</p> <p>それでは、私たち相愛大学は、大学が位置している大阪府や大阪市、そして実際にキャンパスがある住之江区や中央区に対して、これまでどのような役割を果たしてきたのでしょうか、またどのような役割をこれから果たしていこうとしているのでしょうか。</p> <p>このようなことを考える時には、まず相愛大学がどのような精神で設立され、どのような方針で大学の使命を果たそうとしているのかを正しく理解したうえで、相愛大学の教育や研究、地域貢献の考え方と、具体的な内容を知るとともに、地元大阪府大阪市、そして中央区や住之江区の現状、地元と大学の現在の関係について認識を広めていくことが重要となります。</p> <p>この科目は、相愛大学の歴史、相愛大学の地域社会に関する教育・研究・地域貢献の現状を、大学の立場から学ぶとともに、地元の実情と、地元のさまざまな立場からの大学に対する見方や考え方を認識し、大学と地域とのよりよい共生や連携を発展させるために、地元の方々の協力も得て、提供されるものです。</p>		
到達目標	相愛大学の歴史と地域への貢献、地域の経済・社会・文化のさまざまな現状や課題について十分に理解でき、そのことを自分で他者に対して正しく説明できるようになる。		
授業計画	第1回 授業内容と進め方の説明 第2回 相愛大学のあゆみ 第3回 日本の大学と社会 第4回 相愛大学と社会 第5回 相愛大学の研究と社会 第6回 相愛大学の社会貢献 第7回 音楽学部の教育研究と地域社会 第8回 人文学部の教育研究と地域社会 第9回 人間発達学部の教育研究と地域社会 第10回 大阪の経済社会文化の現状と課題 第11回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅰ 第12回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅱ 第13回 地元の保育・教育界の現状Ⅰ 第14回 地元の保育・教育界の現状Ⅱ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	毎回、授業の後で復習としてレポートを作成することにします。 各回のレポートの評価点を合計した点数を成績とします。 ・授業への参加態度 20% ・授業内容の理解度 80%		
失格条件	欠席回数が5回をこえた場合（6回欠席すれば失格です）。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この授業は、復習を重視します。毎回、授業の後で、所定の用紙に、授業のまとめ（約100字）と授業の感想（よく分かった所、印象に残った所、難しかった点、気付いた点など、約100字）、あわせて約200字を記し、提出してください（所要時間4時間）。提出日時、提出場所等詳細については、1回目の授業時に説明します。		
課題へのフィード バック	毎回提出するレポートについて、それぞれの回の担当者から、到達目標とその達成度、理解不足の部分の内容などの意見を出して頂き、その概要を最終授業日のまとめで紹介するとともに、ポータルサイトで履修者に向けて周知します。		
教科書	不使用。基本的に毎回授業資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	各回の授業中に、必要があれば紹介します。		
その他	特になし		
備考	この授業の第10回、第11回、第12回は自治体の管理職（住之江区長、中央区長、大阪市経済戦略局の局長）を外務講師として招き、行政責任者としての実務経験をもとに授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A02	期間	前期/後期
授業科目名	大学と社会		
英訳科目名	Soai University and Society		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	○
ディプロマ・ポリシー-3	○	ディプロマ・ポリシー-4	◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この科目には、二つの大きな目的があります。一つ目は、相愛大学はどのような大学なのかを在學生に皆さんに正しく理解していただき、相愛大学生であることの自覚をもって大学生生活を有意義に過ごしていただく一助とすることです。二つ目は、相愛大学をふくめ、日本の大学は今どのような状況にあり、どのような役割を期待されているかを社会との関係でとらえ、大学生としてどのように社会と関わるのかを、受講生一人一人に考えていただくことです。</p> <p>いま、日本の大学は、大学の中だけで教育や研究を行うだけではなく、そのことを通して、社会や地域に対して貢献することが大きな役割であるとされるようになってきています。大学にたくわえられた豊かな知識や技術を広く世界や日本全体、とくにそれぞれの大学が位置する地域社会に提供し、それぞれの地域社会の発展や振興に寄与するのが、現在の大学の重要な使命となっているのです。</p> <p>そのために、まず相愛大学がどのような精神で設立され、どのような歴史をもっているのか、教育や研究、社会貢献についてどのような体制と方針で大学の使命を果たそうとしているのかを正しく理解していただく必要があります。それと同時に、今日本の社会全体はもちろん、相愛大学が位置する地元大阪府大阪市、そして中央区や住之江区の現状、地元と大学の現在の関係について認識を広めていくことが重要となります。</p> <p>この科目は、相愛大学の建学の精神と歴史、現在の教育・研究・地域貢献の具体的な現状を、大学の立場から学ぶとともに、地元地域の実情と、地元のさまざまな立場からの大学に対する見方や考え方を認識し、大学と地域とのよりよい共生や連携を進展させるために、地元の方々の協力も得て、提供されるものです。</p>		
到達目標	相愛大学の歴史と現在および社会に果たしている役割、地域の経済・社会・文化のさまざまな現状や課題について十分に理解でき、そのことを自分で他者に対して正しく説明できるようになる。		
授業計画	第1回 授業内容と進め方の説明 第2回 相愛大学のあゆみ 第3回 日本の大学と社会 第4回 相愛大学と社会 第5回 相愛大学の研究と社会 第6回 相愛大学の社会貢献 第7回 音楽学部の教育研究と地域社会 第8回 人文学部の教育研究と地域社会 第9回 人間発達学部の教育研究と地域社会 第10回 大阪の経済社会文化の現状と課題 第11回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅰ 第12回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅱ 第13回 地元の保育・教育界の現状Ⅰ 第14回 地元の保育・教育界の現状Ⅱ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	毎回、授業の後で復習としてレポートを作成することにします。 各回のレポートの評価点を合計した点数を成績とします。 ・授業への参加態度 20% ・授業内容の理解度 80%		
失格条件	欠席回数が5回をこえた場合（6回欠席すれば失格です）。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この授業は、復習を重視します。毎回、授業の後で、所定の用紙に、授業のまとめ（約100字）と授業の感想（よく分かった所、印象に残った所、難しかった点、気付いた点など、約100字）、あわせて約200字を記し、提出してください（所要時間4時間）。提出日時、提出場所等詳細については、1回目の授業時に説明します。		
課題へのフィードバック	毎回提出するレポートについて、それぞれの回の担当者から、到達目標とその達成度、理解不足の部分の内容などの意見を出して頂き、その概要を最終授業日のまとめで紹介するとともに、ポータルサイトで履修者に向けて周知します。		
教科書	不使用。基本的に毎回授業資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	各回の授業中に、必要があれば紹介します。		
その他	特になし		
備考	この授業の第10回、第11回、第12回は自治体の管理職（住之江区長、中央区長、大阪市経済戦略局の局長）を外部講師として招き、行政責任者としての実務経験をもとに授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A01	期間	前期/後期
授業科目名	キャリアデザイン論/キャリアデザイン		
英訳科目名	Career Design Theory/Career Design		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この講義は、建学の精神を在学生活の中で行動によって表現し、いずれ社会に出て活躍する「プロフェッショナル」のフィールドでも踏襲して実践する人物になるための要素を体系的に学びます。講義形式の授業の中に、教員と学生または学生同士のコミュニケーションなどを取り入れ、社会との関わりを強く意識します。		
到達目標	周囲に対する働きかけを行えること いろいろなコミュニケーションを実践できること 教養を得る人格を備えること 思考と洞察の能力を高めること これらの素養を通して、卒業後の進路（働くフィールド）を設計すること		
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 変化について -変化をとらえる、変化のあとの世界を描く 第3回 洞察について -物事を見極める、複眼で考える 第4回 コミュニケーションについて -優れたコミュニケーション 第5回 自分の魅力について -自分自身、人間的魅力 第6回 将来を考えることについて* -ディスカッション（全体） 第7回 リーダーシップについて -スタイル、役目、課題など 第8回 決断について -情報、知識 第9回 ネットワーク・人脈について -仕事、人物、接点、他者 第10回 モラル・ルールについて -道徳、正義 第11回 現場感覚について -情報、アイデア、理論と実践 第12回 これからの仕事について* -ディスカッション（全体） 第13回 教養について -学力、学業、語学 第14回 私の役目について -将来のフィールドとは 第15回 周囲と他者への関わり -プロフェッショナルとして		
評価方法 (合計100%)	本授業の意義を理解し、授業への参加態度、授業内課題・レポート、発表等を含め、積極的に取り組んだかを総合的に評価します。具体的な評価割合は以下のとおりです。 1. 授業内パフォーマンス評価（コミュニケーション、課題、発言、リアクションなど） 50% 2. レポート評価（レポート作成への取組み姿勢や文章力など） 50%		
失格条件	1. 欠席5回以上は失格とします。 2. 30分超の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1. 各回のテーマについて理解を深め、自身の将来設計に役立てること。課題について調べること。（1時間） 2. 自分が社会とどのように関わっていくのかという視点を持つために、世の中のトピックや身の回りの生活環境から情報を常にインプットしておくこと。（1時間）		
課題へのフィードバック	・リアクションペーパーの返却 ・リアクションペーパーに関するフィードバックやコミュニケーション ・質疑に対する受講者シェア型の応答など		
教科書	指定する教科書はありません。板書などに必要なノートやファイルは各自準備してください。		
著者名			
出版社			
参考書	適宜、授業内で指示します。また、ポータルで公開する場合がありますので、常にアクセスできるようにしておいてください。		
その他	ポータルによる教材配信をする場合があります。ポータルへのアクセスが常にできる状態にしておいてください。		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A01	期間	前期
授業科目名	キャリアデザイン論(子)/キャリアデザイン(子)		
英訳科目名	Career Design Theory/Career Design		
担当教員名	直島 正樹、木村 久男、中井 清津子、松島 京		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	子どもを支援する専門職である保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をめざすにあたり、基本的な知識を身につけ、感性を養う。子ども発達学科での4年間の学びの第一段階として、将来の進路選択について考える契機として欲しい。		
到達目標	①保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の仕事・役割に関する基本的な知識を習得できる。 ②将来の進路選択のために必要な基本的知識を身につけ、今後の学びの姿勢についての考えを深めることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業の進め方・留意点・評価方法等 第2回 子どもと自然①：相愛大学の自然環境を活用した学習（概要） 第3回 子どもと自然②：相愛大学の自然環境を体験 第4回 子どもと自然③：自然環境を活用した学習に関するまとめ 第5回 分野別学習①（幼稚園）：幼稚園教諭の仕事・資質について 第6回 分野別学習②（保育所）：保育所における保育士の仕事・資質について 第7回 分野別学習③（施設）：施設における保育士の仕事・資質について 第8回 分野別学習④（小学校）：小学校教諭の仕事・資質について 第9回 分野別学習⑤：分野別学習のまとめ 第10回 今後の現場実習に向けて①：実習について（概要・目的） 第11回 今後の現場実習に向けて②：書類作成について 第12回 今後の現場実習に向けて③：実習先の理解（実習先別） 第13回 今後の現場実習に向けて④：実習記録について（文章作成上の基本的事項） 第14回 今後の現場実習に向けて⑤：実習記録について（実習先別） 第15回 まとめ（半期の振り返り）		
評価方法 (合計100%)	受講状況【積極的参加、マナー等】40% 課題【授業内課題等】60%		
失格条件	以下、2つのいずれかにあてはまる場合、失格とする。 ①出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合 *20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ②課題等が指定通りに提出できなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内で学んだ内容および関連するものについて、自身で積極的に調べ、意見をまとめておくこと（予習時間：2時間・復習時間：2時間）。		
課題へのフィード バック	・授業内課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントする。 ・最終課題については、ポータルサイト等を通じて、全体に向けてコメントする。		
教科書	①『保育所保育指針解説』（厚生労働省） ②『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） ③『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省） *その他、必要に応じてプリント類を配布する。		
著者名	①厚生労働省②文部科学省③内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①②③すべてフレーベル館		
参考書	適宜紹介する。		
その他	①私語等は謹んで意欲的に授業に参加すること。授業態度等の改善が見られない場合、単位認定を行わない場合もある。 ②今後の現場実習に向けての基本的な学習も行う。1年次開講科目（集中講義）である「保育・教育実践学習」も必ず履修すること。 ③指定したテキストは、他の授業でも使用するため、必ず購入すること。		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島） 小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村） 幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	キャリアデザイン演習		
英訳科目名	Career Design Practices		
担当教員名	碓 ともみ		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	社会で大切な「社会人基礎力」を養い、個々人が「なぜ働くのか、どう生きていくのか」を自立的にキャリア形成が出来る様になることを目標とする。自己分析で自分の強みを把握し自己理解を探索し、計画的に将来に向けた準備をする。また、他者との協働作業から人との関わりを学び考えていく。更に、労働市場や雇用形態を学び、職業理解を深めていく。		
到達目標	自立的・主体的にキャリアつくり上げていくことを学ぶ。 単に個々人やグループで考えるだけでなく、パフォーマンスを組み入れ協働意識を高めていくことで、自己理解と共に他者理解を深めていくことのできる。 また、社会に出るためのビジネスマナーを体得できる。		
授業計画	第1回 プロローグ キャリアデザインとは何か 第2回 社会人基礎力 第3回 企業のしくみ（大企業・中小企業・ベンチャー企業） 第4回 現在の労働市場・雇用形態（職業理解） 第5回 働く意義 第6回 自己理解（自分の強みを知ろう） 第7回 他者理解（他者の考えを知る） 第8回 モチベーション論とリーダーシップ論 第9回 ビジネスマナー（丁寧な挨拶、日本語、一般教養） 第10回 多様な働き方（ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ） 第11回 キャリア理論（計画された偶発性） 第12回 グループワーク①（ケースから学ぶ課題解決型学習） 第13回 キャリアアンカー 第14回 キャリアプランニング（アクションプランをつくる） 第15回 理解度確認チェックとまとめ		
評価方法 (合計100%)	理解度(40%) 授業の参加態度 (20%) 中間レポート (20%) グループワーク・プレゼンテーション力(20%) 総合的に判断します。		
失格条件	1.全授業の3分の1以上の欠席(4回まで) 2.30分超の遅刻は欠席とし、遅刻は3回で1回の欠席と考える。（早退も遅刻と同様） 3..評価基準の割合が単位認定割合に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回の授業で発言やコメントを求めることがあります。新聞などで労働市場に関心を持って生活してください。 また、講義中に取り上げる項目に対して、自分の考えを発表できるようにまとめておくこと。 1.課題のレポートへの事前準備（予習時間 3時間） 2.グループワークでの課題に対しても学習（予習・復習時間 3時間） 3.理解度確認テストのための学習（復習時間 3時間）		
課題へのフィードバック	・授業理解度や課題のフィードバックは、授業中もしくはポータルサイトを使用して全体にコメントします。		
教科書	特に使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	「受かる」就活女子レッスン 碓ともみ 幻冬舎ルネッサンス ISBN978-4-7790-0844-3		
その他	1.ワーク、発表には積極的に参加すること（ワークはグループごとに評価）。 2.ワークなど指示以外の私語・携帯電話使用 厳禁。 3.アクティブラーニング実施。 4.中間レポートなどの提出期日は厳守。 5.授業の流れは1回目に説明。必要に応じプリントを配布します。 6.理解度テストは参考書からも出題予定です。		
備考	キャリアコンサルタントとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	インターンシップ実践		
英訳科目名	Internship Practice		
担当教員名	碓 ともみ		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	満足いく就職をするためにインターンシップ（就業体験）を経験しておくことは、「働く意義」や「志望企業」を明確にするものとして有意義である。インターンシップの必要性、業界研究、エントリーシートの書き方、ビジネスマナーまで幅広く知ることができ、グループワークやアクティブラーニングを通して、インターンシップに行く前の準備に役立つ実践的な授業を展開する。		
到達目標	インターンシップを応募する前に意義を知り、準備をしていくことで、自信を持って志望企業先に応募することができ、その後の自律的な就職活動を円滑に進めていくための礎となる。また、自己表現力を磨きをかけ、社会人としての振る舞い（ビジネスマナー）を学ぶことができる。		
授業計画	第1回 インターンシップの目的と必要性 第2回 組織と個人（社会との関わり） 第3回 業界・業種を知る（情報収集力） 第4回 インターンシップへの応募書類 第5回 エントリーシートの書き方 第6回 自己表現力①（自己PR） 第7回 自己表現力②（志望動機） 第8回 企業が求める人材 第9回 採用管理(面接を知る) 第10回 ビジネスマナー（服装・身だしなみ・あいさつ） 第11回 ビジネスマナー（会話術、自己紹介） 第12回 ビジネスマナー（会社でのマナー） 第13回 ビジネスマナー（丁寧な日本語） 第14回 インターンシップ計画書 第15回 まとめと総括		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% グループワーク・発表 20% 中間レポート 20% 課題レポート 20% インターンシップ計画書 20%		
失格条件	1.全授業の3分の1以上の欠席(4回まで) 2.30分超の遅刻は欠席とし、遅刻は3回で1回の欠席と考える。（早退も遅刻と同様） 3.評価基準の割合が単位認定割合に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	志望する企業をホームページなどで情報収集をすること（90分） 参考書を予習として事前に目を通しておくこと。（90分） 自己の経験を棚卸して自己理解をしておくこと。（90分）		
課題へのフィード バック	毎時の授業の振り返り、レポートなどについては、授業中もしくはポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	特に使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	「受かる」就活女子レッスン 碓ともみ 幻冬舎ルネッサンス ISBN978-4-7790-0844-3		
その他	1.授業の流れは第1回目に説明します。 2.授業は基本的にパワーポイントを使用して進めていきます。 3.中間レポート・課題レポート・インターンシップ計画書の提出期限厳守。期限や形式は授業中に説明します。4.アクティブラーニング実施。 5.インターンシップは「自分で決める」「大学学生支援センター活用」などご自身で決めてください。 6.課題レポートのテーマは参考書を使用します。		
備考	キャリアコンサルタントとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC200A10	期間	前期/後期
授業科目名	生活の中の数学		
英訳科目名	Mathematics in Daily Life		
担当教員名	魚住 義介		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	◎
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>数学の考え方や基本的構造を学びます。 話題の中心は整数の性質です。数学の得意な学生や反対に苦手な学生でも数学に興味を持てるように話し進めたいと思います。</p>		
到達目標	<p>人々のこれまでの暮らしの中から数や数学が生まれて来たことに気付くこと。 また、数学の考え方の合理性を学ぶこと。</p>		
授業計画	<p>第1回 数の誕生 第2回 一対一対応 第3回 整数の基本的な性質 第4回 分数や小数の誕生 第5回 合同式その1 第6回 合同式その2 第7回 合同式その3 第8回 合同式その4 第9回 合同式その5 第10回 合同式その6 第11回 集合論の初歩 第12回 確率の考え方 第13回 テストの実施 第14回 順列・組み合わせ 第15回 予備</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>①試験 (60%) ②小テスト (30%) ③授業への参加態度 (10%) 試験は授業の13回目に予定しています。 小テストは毎回の授業で実施します。 授業への参加態度は授業中の発言や発表を評価します。</p>		
失格条件	出席回数が10回未満の場合は失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	問題意識をもって授業に臨んでください。復習を十分におこなって試験に臨んで下さい。		
課題へのフィード バック	小テスト(10回または5回)実施の予定。 その返却時にそれまでの内容を再説明することで理解の充実を図りたい。		
教科書	授業で配布するプリントを使用するので教科書は指定しません。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特に無し		
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B01	期間	前期/後期
授業科目名	人権教育		
英訳科目名	Human Rights Education		
担当教員名	葛目 巴恵子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>子どもたちは社会の不安定な中で、自分の存在を否定されかねない状況におかれています。子どもたちに自分を大切にできる力を育てるのが人権教育の最大のテーマです。具体的には、仲間を大切にできる力を育て、人々が誠実に生きている姿を伝え、子ども達の自尊感情を育てる教育を、現実の学校教育の場の実践から学び、人々の生きている姿から学びます。</p> <p>さらに、学校だけでなくさまざまな場面で子どもと出会い指導者となっていく皆さんの、人権感覚を高めていく授業を目指します。</p>		
到達目標	<p>人権とは何かを具体的課題につなげて説明できる。</p> <p>人権教育の課題を説明できる</p> <p>学習課題である人権上のテーマについて自分の考えで述べる事が出来る。</p>		
授業計画	<p>第1回 シラバス アンケートをとる</p> <p>第2回 NHKスペシャルのビデオを観る</p> <p>第3回 スペシャルのいきさつ</p> <p>第4回 6年2組の子どもたち</p> <p>第5回 好きな先生、嫌いな先生について</p> <p>第6回 いじめ・体罰</p> <p>第7回 いじめの問題と子どもの人権のDVDを観る</p> <p>第8回 名前の由来を考える</p> <p>第9回 障害児教育についてのDVDを観る</p> <p>第10回 被爆者への暴言平和への願い</p> <p>第11回 中国（小皇帝の涙）を観る（DVD）</p> <p>第12回 子どもへのメッセージ七夕の願い</p> <p>第13回 子どもの問題行動</p> <p>第14回 保護者との関係</p> <p>第15回 まとめ、テスト</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（発言、聴く姿勢、資料ノートの整理）50%</p> <p>試験 50%</p>		
失格条件	<p>欠席は4回まで</p> <p>試験を受けない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習プリントを配られたときはあらかじめ読んで、自分なりの考えをノートに記入しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>配布プリントは整理し、講義ごとに、自分なりの考えをまとめておくこと。（毎週1時間）</p> <p>新聞等で講座のテーマに関連すること、自分とのかかわりで問題意識を持っていることは整理しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>建前でなく本音でものを考える習慣をつけてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>今起こっている社会の出来事の中で、授業で取り上げた課題を通して、人権について考えてみる。</p> <p>毎授業の感想を書き、それぞれの意見を出し合う。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B01	期間	前期
授業科目名	人権教育		
英訳科目名	Human Rights Education		
担当教員名	葛目 巴恵子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>子どもたちは社会の不安定な中で、自分の存在を否定されかねない状況におかれています。子どもたちに自分を大切にできる力を育てるのが人権教育の最大のテーマです。具体的には、仲間を大切にできる力を育て、人々が誠実に生きている姿を伝え、子ども達の自尊感情を育てる教育を、現実の学校教育の場の実践から学び、人々の生きている姿から学びます。</p> <p>さらに、学校だけでなくさまざまな場面で子どもと出会い指導者となっていく皆さんの、人権感覚を高めていく授業を目指します。</p>		
到達目標	<p>人権とは何かを具体的課題につなげて説明できる。</p> <p>人権教育の課題を説明できる</p> <p>学習課題である人権上のテーマについて自分の考えで述べる事が出来る。</p>		
授業計画	<p>第1回 シラバス アンケートをとる</p> <p>第2回 NHKスペシャルのビデオを観る</p> <p>第3回 スペシャルのいきさつ</p> <p>第4回 6年2組の子どもたち</p> <p>第5回 好きな先生、嫌いな先生について</p> <p>第6回 いじめ・体罰</p> <p>第7回 いじめの問題と子どもの人権のDVDを観る</p> <p>第8回 名前の由来を考える</p> <p>第9回 障害児教育についてのDVDを観る</p> <p>第10回 被爆者への暴言平和への願い</p> <p>第11回 中国（小皇帝の涙）を観る（DVD）</p> <p>第12回 子どもへのメッセージ七夕の願い</p> <p>第13回 子どもの問題行動</p> <p>第14回 保護者との関係</p> <p>第15回 まとめ、テスト</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（発言、聴く姿勢、資料ノートの整理）50%</p> <p>試験 50%</p>		
失格条件	<p>欠席は4回まで</p> <p>試験を受けない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習プリントを配られたときはあらかじめ読んで、自分なりの考えをノートに記入しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>配布プリントは整理し、講義ごとに、自分なりの考えをまとめておくこと。（毎週1時間）</p> <p>新聞等で講座のテーマに関連すること、自分とのかかわりで問題意識を持っていることは整理しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>建前でなく本音でものを考える習慣をつけてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>今起こっている社会の出来事の中で、授業で取り上げた課題を通して、人権について考えてみる。</p> <p>毎授業の感想を書き、それぞれの意見を出し合う。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B03	期間	前期
授業科目名	市民性（シティズンシップ）育成論		
英訳科目名	Citizenship Education		
担当教員名	長谷川 精一、奥野 浩之、大橋 忠司、生駒 佳也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>従来より、日本社会は均質性が高いとされ、近年では一部の人々によって、日本「固有」の美点を自画自賛するような説が声高に叫ばれている。しかし、そのような説とは逆に、社会的経済的变化の中で、日本社会には異文化の要素が入るとともに、地域的、社会的、経済的な格差が拡大し、社会の多様化、複合化が進んでいる。このような状況の下で、様々な背景をもつ人々が差別・偏見を許さない社会的公平への信念をもち、互いの人権・人格を尊重し合うことが、今後の社会を展望する上で不可欠である。地球規模で人類全体の状況を理解し考慮するユニバーサルな視点と、自分が今そこで生きる地域の状況を理解し考慮するローカルな視点との両方もち、複眼的な思考ができる市民の存在が重要となっているのである。</p> <p>本講義では、4人の教員によるオムニバス形式で授業を展開し、批判的思考に基づいて、真摯な対話を通じて新しい社会の形成に積極的に参加するという、能動的な意味での市民性をどのように育成していくべきかについて、受講生のみなさんと共に考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>①市民性（シティズンシップ）とその育成に関する課題が理解できる。</p> <p>②社会的・倫理的責任を担う主体的・能動的な市民として、どのように行動するべきかを説明できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業のガイダンス（長谷川）</p> <p>第2回 現代的課題としての市民性（シティズンシップ）育成（長谷川）</p> <p>第3回 生涯学習者としての市民（生駒）</p> <p>第4回 地域社会構成者としての市民（生駒）</p> <p>第5回 生涯学習社会と地域社会への参加（生駒）</p> <p>第6回 市民としての社会参加：具体例から考える（生駒）</p> <p>第7回 日本国憲法における人権保障と市民性（奥野）</p> <p>第8回 日本国憲法の国民主権主義とポリティカル・リテラシーの育成（奥野）</p> <p>第9回 学校教育における市民性（シティズンシップ）育成（大橋）</p> <p>第10回 教科教育と市民性育成（大橋）</p> <p>第11回 「総合的な学習の時間」と市民性育成（大橋）</p> <p>第12回 「特別活動」と市民性育成（大橋）</p> <p>第13回 「特別の教科 道徳」と市民性育成（大橋）</p> <p>第14回 これからの教育への展望と市民性育成（大橋）</p> <p>第15回 授業のまとめ（長谷川）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>提出課題60%</p> <p>授業への参加態度40%</p>		
失格条件	<p>①出席が授業回数の2/3を満たさない場合 (20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする)</p> <p>②私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業内容に基づいた、提出課題の作成を、十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間）をかけた取り組みを、（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。</p>		
課題へのフィード バック	<p>授業で課題へのフィードバックを行う。</p>		
教科書	<p>特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>本授業では、講義形式に加えて、グループワークを行う。また、受講者の関心と理解度、受講生数に応じて計画を一部変更することがある。</p>		
備考	<p>教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（大橋）</p>		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B04	期間	前期
授業科目名	共生社会論		
英訳科目名	Inclusive Society		
担当教員名	沼田 潤、大橋 忠司、田中 敏正、奥 忠憲		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	人間は様々な文化的・社会的背景を有している。例えば、民族、使用言語、ジェンダー、出身地、障がいの有無、病気の有無、経済的状況などが挙げられる。そして、多様な文化的・社会的背景を有する他者と共に、安心して生きていくことができる共生社会を実現していくことが今日的な重要課題として考えられるようになってきている。共生社会の実現に向けて、どのような問題があるのか、どのような取り組みが行われているのかを理解して、自らがどのように行動すべきかを考えていくことが欠かせない。本講義では、4人の教員によるオムニバス形式で授業を展開し、共生に関して多角的な観点から考察し、今後どのように共生社会を実現していくべきなのかを考える上での視点について受講生のみなさんと共に考えていきたい。		
到達目標	①共生に関する課題が理解できる。 ②共生社会の実現に向けてどのように行動すべきが説明できる。		
授業計画	第1回 授業のガイダンス（沼田） 第2回 共生とは：偏見・差別を越えた共生社会に向けて（沼田） 第3回 心身の障がいに対する理解（田中） 第4回 障がいのある人々が直面する諸課題（田中） 第5回 障がいのある人々と共生する社会を目指して（田中） 第6回 共生社会の構築における基本的人権の重要性（奥） 第7回 日本国憲法における基本的人権の保障（奥） 第8回 現在の日本社会における労働をめぐる諸問題と共生社会への展望（奥） 第9回 学校教育における共生への課題と取り組み（大橋） 第10回 共生社会を目指す学校教育：教科教育に焦点を当てて（大橋） 第11回 共生社会を目指す学校教育：総合的な学習の時間・特別活動に焦点を当てて（大橋） 第12回 共生社会を目指す学校教育：「特別の教科 道徳」に焦点を当てて（大橋） 第13回 共生社会を目指す学校教育：インクルーシブ教育の理念と実践（大橋） 第14回 共生社会を目指す教育への展望（大橋） 第15回 授業のまとめ（沼田）		
評価方法 (合計100%)	提出課題60%、授業への参加態度40%		
失格条件	①出席が授業回数の2/3を満たさない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする） ②私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内容に基づいた、提出課題の作成を、十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間）をかけた取り組みを行う。（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。		
課題へのフィード バック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	本授業では、講義形式に加えて、グループワークを行う。また、受講者の関心と理解度、受講生数に応じて計画を一部変更することがある。		
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（大橋） 社会福祉施設での実務経験をもとに、この授業を進めます。（田中）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A02	期間	前期
授業科目名	図書館概論		
英訳科目名	Introduction to Library and Information Science		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>この科目は図書館司書の資格を取りたい人が最初に受ける科目です。ただ、2019年度に1回生の人は、共通教育科目として、司書の資格を目指していない人も受けることができます。1回生の人はこの授業を受けていく中で、司書の資格を取るかどうか決めてもらえればと思います。</p> <p>まず、「図書館の思い出」を思い出してもらいます。学校の図書室以外は全く思い出せない人がいるかもしれません。</p> <p>次に司書になるにはどうすればいいかを説明します。実は終身雇用の司書になるのは簡単ではありません。図書館で働いている司書はパートやいわゆる契約社員が多いのです。なぜそのような状況になっているのか、日本の図書館の状況を説明します。</p> <p>その後、「なぜ税金を使って図書館を無料で使えるようにしているのか、図書館とは何なのか」や「マンガを図書館でどの程度買うべきか」「電子書籍の時代に図書館は何をしようとしているのか」などを説明し、「図書館は今後どうなっていくのか」を皆さんといっしょに考えていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館・学校図書館(図書室)・大学図書館の違いを説明することができる。 ・図書館司書の資格を取るには、司書として働くにはどうすればいいか説明することができる。 ・図書館が無料で利用できる理由を説明することができる。 ・司書がどのようなところに注意しながら仕事をしているか、一般人の判断と司書の判断の違いを説明することができる。 		
授業計画	<p>第1回 図書館の体験の共有</p> <p>第2回 司書になるには</p> <p>第3回 図書館の意義と役割</p> <p>第4回 図書館の歴史</p> <p>第5回 図書館の機能と種類</p> <p>第6回 図書館のサービス</p> <p>第7回 図書館のコレクション</p> <p>第8回 図書館の情報組織化</p> <p>第9回 図書館のネットワーク</p> <p>第10回 電子書籍時代の図書館</p> <p>第11回 図書館利用教育と情報リテラシー</p> <p>第12回 図書館経営</p> <p>第13回 図書館と博物館の違い</p> <p>第14回 知的自由と図書館の自由</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>学期途中でのレポート課題：50%</p> <p>試験：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>大学に来るたびに相愛の図書館の中に入ってください。図書館について学ぶのですから、本を読むことの他に、図書館内のどういうところに何があるのかや、司書さんはどういう仕事をしているのか、など、図書館の仕組みを週に1回は観察してみてください。また、市立図書館など、他の図書館に実際に行って見てくることも必要です。図書館が出てくる小説やマンガを見て、現実との違いを考えるのもいいことです。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・図書館の見学・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	今まど子・小山 憲司 編著『図書館情報学基礎資料』樹村房, 2016, 978-4883672660		
その他	授業の中ではただ聞くだけでなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	DC305A13	期間	前期
授業科目名	日本音楽史		
英訳科目名	History of Japanese Music		
担当教員名	福本 康之		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ー
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ー
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講では、日本の伝統音楽を題材に、その具体的なあり方や日本人の音楽観を学ぶことを目的とする。 具体的には、単に音楽そのものにとどまらず、関連する様々な文化ジャンル（演劇や宗教儀礼など）にも視野を広げ、可能な限り日本の伝統文化という枠組みのなかで、日本の伝統音楽というものについて、今日的視点をも加えて考えてみたい。		
到達目標	現代日本において非日常的な文化となってしまった日本の伝統音楽が、自らの音楽活動の一助となることができる。		
授業計画	第1回 「日本音楽」について考える 第2回 日本音楽の歴史1ー古代 第3回 日本音楽の歴史2ー中世 第4回 日本音楽の歴史3ー近世 第5回 日本音楽の歴史4ー現代 第6回 日本音楽のジャンル1ー宗教音楽：雅楽・声明など 第7回 日本音楽のジャンル2ー舞台音楽：能楽・歌舞伎・文楽など 第8回 日本音楽のジャンル3ー声の世界 第9回 日本音楽のジャンル4ー楽器の世界 第10回 日本音楽のジャンル5ー伝統邦楽の枠組みを超えて 第11回 日本音楽の理論について 第12回 日本音楽の記譜法について 第13回 日本音楽を取り巻く社会状況について 第14回 現代の日本音楽を考えるー西洋音楽が日常の音楽言語となった現代における日本音楽の諸相について 第15回 再び「日本音楽」について考えるー授業で得た知識や経験をもとに、もう一度「日本音楽」とは何かを考える		
評価方法 (合計100%)	以下の2点による。 1) 授業への参加態度（出席、参加状況）：40% 2) 試験：60%		
失格条件	試験を受けなかった者は失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	はじめて聴くことになる楽曲が多いと思いますので、授業の前後、楽曲が耳に馴染むよう、繰り返し聴くことをおすすめします。日本音楽全般を対象とするので、予習段階では、各回の講義内容について、基礎的な予備知識について確認することが理解の助けになると思います（約30分）。 授業の後の復習では、映像や音源を用いて、日本音楽に馴染むことを心がけてください（約150分）。なお、機会があれば実際に、コンサートなどの現場に足を運ぶことをおすすめします。		
課題へのフィードバック	課題提出後の授業で全体に向けてコメントします。		
教科書	図解 日本音楽史		
著者名	田中健次		
出版社	東京堂出版		
参考書			
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	DC305A04	期間	前期/後期
授業科目名	常磐津 I		
英訳科目名	Japanese Traditional Music (Tokiwazu I)		
担当教員名	常磐津 都哉蔵		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> -	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>【概要】</p> <p>①三味線音楽の1ジャンルである「常磐津」という流派を通して「三味線音楽」を総括して進めていく。</p> <p>②日本の文化の1つ、三味線音楽を外国の人々に紹介できる人材をも養成する講義でありたい。</p> <p>【ポイント】</p> <p>①三味線音楽は西洋の音楽のように楽譜は使わない。では、どうして歌えるのか。練習を通してその基本を教える。</p> <p>②中世の能、近世の歌舞伎等も常識程度は理解を深めておきたい。</p>		
到達目標	日本の三味線音楽の歌唱は、洋楽のように譜面によって歌うものでなく、ある一定の法則をマスターして歌うものですが、この授業では初歩的ながらその状態を必ず熟練します。		
授業計画	<p>第1回 イ、歌の練習 口、三味線音楽の歴史①</p> <p>第2回 イ、歌の練習 口、三味線音楽の歴史②</p> <p>第3回 イ、歌の練習 口、三味線音楽の歴史③</p> <p>第4回 イ、歌の練習 口、三味線音楽の緒流派①</p> <p>第5回 イ、歌の練習 口、三味線音楽の緒流派②</p> <p>第6回 イ、歌の練習 口、三味線音楽の緒流派③</p> <p>第7回 イ、歌の練習 口、楽器の説明①</p> <p>第8回 イ、歌の練習 口、楽器の説明②</p> <p>第9回 イ、歌の練習 口、楽器の説明③</p> <p>第10回 イ、歌の練習 口、調絃の仕方①</p> <p>第11回 イ、歌の練習 口、調絃の仕方②</p> <p>第12回 イ、歌の練習 口、調絃の仕方③</p> <p>第13回 イ、歌の練習 口、歌と三味線の関係</p> <p>第14回 イ、歌の練習 口、三味線音楽と現代社会</p> <p>第15回 イ、歌の練習とアンケート提出</p> <p>※前期、後期共</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 60% 試験(実技) 40%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・講義全日数の1/3以上欠席したもの ・テストを受けなかったもの 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・三味線の音に反応して歌うことを目的とするため、予習として家で歌章を記憶してくることを義務づける。 ・教室では100%音に反応することを目的とする。 		
課題へのフィード バック	だいたいシラバス通りの授業は出来たと思います。最終日のテストも三味線の音をとれて歌えたと思うが、もっと解らないことを質問してくれると深いところで理解を得られるのだが、どうすればよいか課題です。		
教科書	歌本あるいは符本コピーしたものを提供します		
著者名			
出版社			
参考書	なし		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽はすべて感性の世界ですが三味線音楽は楽譜を使わないため、より感性を求めます。 それは、反復練習してのみ養われるもののため出席を最重視します。 ・三味線の練習をする人は、本講の期間中左の人差し指、中指、薬指の爪を長く伸ばさないように。 		
備考	常磐津節での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	常磐津Ⅲ		
英訳科目名	Japanese Traditional Music (Tokiwazu Ⅲ)		
担当教員名	常磐津 都哉蔵		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この時間は日本の三味線について理解を深めていきたい。</p> <p>【ポイント】</p> <p>①三味線の歴史と楽器の説明</p> <p>②三味線の練習</p> <p>③三味線の音とその歌唱法</p>		
到達目標	日本の三味線音楽の歌唱は、洋楽のように譜面によって歌うものでなく、ある一定の法則をマスターして歌うものですが、この授業では初歩的ながらその状態を必ず熟練します。		
授業計画	<p>第1回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係①</p> <p>第2回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係②</p> <p>第3回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係③</p> <p>第4回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係④</p> <p>第5回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑤</p> <p>第6回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑥</p> <p>第7回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑦</p> <p>第8回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑧</p> <p>第9回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑨</p> <p>第10回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑩</p> <p>第11回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑪</p> <p>第12回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑫</p> <p>第13回 イ、三味線の練習 口、三味線と歌との関係⑬</p> <p>第14回 イ、三味線の練習 口、アンケート提出</p> <p>第15回 イ、三味線の練習 口、発表会のリハーサル (発表会)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 60%</p> <p>試験(実技) 40%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・最終日の試験を受けなかったもの。 ・講義全日数の1/3以上欠席したもの。 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	三味線の音に反応して歌うことを目的とするため、予習として家で歌章を記憶していただくことを義務づける。教室では、100%音に反応することを目的とする。		
課題へのフィード バック	だいたいシラバス通りの授業は出来たと思います。最終日のテストも三味線の音をとれて歌えたと思うが、もっと解らないことを質問してくれると深いところで理解を得られるのだが、どうすればよいか課題です。		
教科書	歌本あるいは符本コピーしたものを提供します		
著者名			
出版社			
参考書	なし		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽はすべて感性の世界ですが、三味線音楽は楽譜を使わない為、より感性を求めます。それは、反復練習してのみ養われるもののため出席を最重視します。 ・三味線の練習をする人は、本講の期間中左の人差指、中指、薬指の爪を長く伸ばさないように。 		
備考	常磐津節での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	常磐津 V		
英訳科目名	Japanese Traditional Music (Tokiwazu V)		
担当教員名	常磐津 都哉蔵		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この時間は日本の三味線について理解を深めていきたい。</p> <p>【ポイント】</p> <p>①三味線の歴史と楽器の説明</p> <p>②三味線の練習</p> <p>③三味線の音とその歌唱法</p>		
到達目標	日本の三味線音楽の歌唱は、洋楽のように譜面によって歌うものでなく、ある一定の法則をマスターして歌うものですが、この授業では初歩的ながらその状態を必ず熟練します。		
授業計画	<p>第1回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係①</p> <p>第2回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係②</p> <p>第3回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係③</p> <p>第4回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係④</p> <p>第5回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑤</p> <p>第6回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑥</p> <p>第7回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑦</p> <p>第8回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑧</p> <p>第9回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑨</p> <p>第10回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑩</p> <p>第11回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑪</p> <p>第12回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑫</p> <p>第13回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑬</p> <p>第14回 イ、三味線の練習 □、アンケート提出</p> <p>第15回 イ、三味線の練習 □、発表会のリハーサル (発表会)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 60%</p> <p>試験(実技) 40%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・最終日の試験を受けなかったもの。 ・講義全日数の1/3以上欠席したもの。 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	三味線の音に反応して歌うことを目的とするため、予習として家で歌章を記憶してくることを義務づける。教室では、100%音に反応することを目的とする。		
課題へのフィード バック	だいたいシラバス通りの授業は出来たと思います。最終日のテストも三味線の音をとれて歌えたと思うが、もっと解らないことを質問してくれると深いところで理解を得られるのだが、どうすればよいか課題です。		
教科書	歌本あるいは符本コピーしたものを提供します		
著者名			
出版社			
参考書	なし		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽はすべて感性の世界ですが、三味線音楽は楽譜を使わない為、より感性を求めます。それは、反復練習してのみ養われるもののため出席を最重視します。 ・三味線の練習をする人は、本講の期間中左の人差指、中指、薬指の爪を長く伸ばさないように。 		
備考	常磐津節での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	常磐津Ⅶ		
英訳科目名	Japanese Traditional Music (Tokiwazu Ⅶ)		
担当教員名	常磐津 都哉蔵		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この時間は日本の三味線について理解を深めていきたい。</p> <p>【ポイント】</p> <p>①三味線の歴史と楽器の説明</p> <p>②三味線の練習</p> <p>③三味線の音とその歌唱法</p>		
到達目標	日本の三味線音楽の歌唱は、洋楽のように譜面によって歌うものでなく、ある一定の法則をマスターして歌うものですが、この授業では初歩的ながらその状態を必ず熟練します。		
授業計画	<p>第1回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係①</p> <p>第2回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係②</p> <p>第3回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係③</p> <p>第4回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係④</p> <p>第5回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑤</p> <p>第6回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑥</p> <p>第7回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑦</p> <p>第8回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑧</p> <p>第9回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑨</p> <p>第10回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑩</p> <p>第11回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑪</p> <p>第12回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑫</p> <p>第13回 イ、三味線の練習 □、三味線と歌との関係⑬</p> <p>第14回 イ、三味線の練習 □、アンケート提出</p> <p>第15回 イ、三味線の練習 □、発表会のリハーサル (発表会)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 60%</p> <p>試験(実技) 40%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・最終日の試験を受けなかったもの。 ・講義全日数の1/3以上欠席したもの。 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	三味線の音に反応して歌うことを目的とするため、予習として家で歌章を記憶していただくことを義務づける。教室では、100%音に反応することを目的とする。		
課題へのフィード バック	だいたいシラバス通りの授業は出来たと思います。最終日のテストも三味線の音をとれて歌えたと思うが、もっと解らないことを質問してくれると深いところで理解を得られるのだが、どうすればよいか課題です。		
教科書	歌本あるいは符本コピーしたものを提供します		
著者名			
出版社			
参考書	なし		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽はすべて感性の世界ですが、三味線音楽は楽譜を使わない為、より感性を求めます。それは、反復練習してのみ養われるもののため出席を最重視します。 ・三味線の練習をする人は、本講の期間中左の人差指、中指、薬指の爪を長く伸ばさないように。 		
備考	常磐津節での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	音響学 A		
英訳科目名	Acoustics and Recording A		
担当教員名	能美 亮士		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>	ディプロマ・ポリシー2	<技能>
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義では、音楽の視点から電気音響工学を概観するとともに、これらの技術を援用する際に生じるさまざまな現象や問題を論理的に解説する。		
到達目標	電気音響工学の基礎知識を広く学べるとともに、音や音楽に電気音響テクノロジーを援用する際、論理的に運用できる。		
授業計画	第1回 音楽と電気 第2回 モノフォニックとステレオフォニック 第3回 モノラルとバイノーラル 第4回 音の拡声とスピーカー（種類の解説） 第5回 音の拡声とスピーカー（動作原理の解説） 第6回 音の收音とマイクロフォン（種類の解説） 第7回 音の收音とマイクロフォン（動作原理の解説） 第8回 音の拡声とアンプリファイヤ（種類の解説） 第9回 音の拡声とアンプリファイヤ（動作原理の解説） 第10回 音声用ケーブル（種類の解説） 第11回 ミキシングコンソール 概論 第12回 ミキシングコンソール プリアンプ・イコライザー 第13回 ミキシングコンソール AUX・フェーダー・PAN 第14回 試験 - 内容理解の確認 - 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度 70% ・試験 30%		
失格条件	4回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・講義で紹介する文献・資料に関して、事前に目を通しておくこと（予習2時間） ・講義で習得した技術について、学校や身の回りにある音響機器、およびソフトウェアなどを用いて熟知すること（復習2時間）		
課題へのフィード バック	試験後の授業にて解答の解説を行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適時指示します。		
その他	特になし		
備考	音響エンジニアとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	音響学B		
英訳科目名	Acoustics and Recording B		
担当教員名	能美 亮士		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>	ディプロマ・ポリシー2	<技能>
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義では、音楽の視点から電気音響工学を概観するとともに、これらの技術を援用する際に生じるさまざまな現象や問題を論理的に解説する。		
到達目標	電気音響工学の基礎知識を広く学べるとともに、音や音楽に電気音響テクノロジーを援用する際、論理的に運用できる。		
授業計画	第1回 アナログ音声信号とデジタル音声信号 第2回 ビットとサンプリング周波数 第3回 音の解像度 ハイレゾリューションとローレゾリューション 第4回 音楽の複製 第5回 無線と有線 第6回 音の音色 第7回 ノイズと歪み 第8回 フィールド・レコーディングとスタジオ・レコーディング -音楽と空間- 第9回 音像定位 第10回 音声の圧縮 第11回 音量 Loudness War 第12回 マスタリングの役割 第13回 録音物のアーカイブとサウンド・リペア 第14回 試験 -内容理解の確認- 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度 70% ・試験 30%		
失格条件	4回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・講義で紹介する文献・資料に関して、事前に目を通しておくこと（予習2時間） ・講義で習得した技術について、学校や身の回りにある音響機器、およびソフトウェアなどを用いて熟知すること（復習2時間）		
課題へのフィード バック	試験後の授業にて解答の解説を行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適時指示します。		
その他	特になし		
備考	音響エンジニアとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CM408A08	期間	後期
授業科目名	現代音楽概説Ⅱ/現代音楽概説B		
英訳科目名	Survey of Modern Music B		
担当教員名	山根 明季子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ー
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ー
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この時間は現代音楽、西洋芸術音楽における特に思想面を中心に学び、楽譜や音源を視聴しつつ知性を深める。つくることに対する自らの視点をより深く、より個々に根ざして各々が持てるようになることを目的とし、多様な作品を知り、先例に対する個々の感性と向き合う。		
到達目標	自身の価値観と既存作品との関係を自律的に築いていくためのより広く深い視点が獲得できる。		
授業計画	第1回 ガイダンス：日本の西洋音楽受容 第2回 トータルセリエリスム 第3回 ミュージックコンクレート、電子音楽 第4回 クラスタ、多様主義 第5回 統計音楽、引用 第6回 アメリカ実験音楽、偶然性、アレアトリー 第7回 フルクサス、即興 第8回 ドローン、ミニマル音楽 第9回 楽器の拡張、特殊奏法 第10回 ミュージックシアター 第11回 非西欧の語法 第12回 スペクトル学派 第13回 プログラミング、アルゴリズム音楽 第14回 コンセプチュアリズム 第15回 まとめ：課題発表		
評価方法 (合計100%)	毎回の提出物 50% 最終課題 50%		
失格条件	6回以上の提出物未提出。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業に興味を持った作家や作品があれば、楽譜、音源、実演、著作に触れ掘り下げていくと良いです。全てを詳しく調べる必要はなく、惹かれるもの、惹かれないもの、各々自身の創作との距離感をはかり関係を築く時間を作ると良いと思います。		
課題へのフィード バック	毎回の提出物は最終授業時にフィードバックをつけてお返しします。 また、毎回の授業時間でも随時、安全に議論ができる場をつくれます。 最終課題は個別にフィードバックを行います。		
教科書	不使用。毎回配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	作曲専攻の演習ですが、現代音楽に関心のある全ての学生の受講を歓迎します。		
備考	作曲家としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（作曲専攻卒業生に限る）		

ナンバリング	CM407A06	期間	後期
授業科目名	管弦楽法		
英訳科目名	Orchestration		
担当教員名	山根 明季子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> -
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	管弦楽法（オーケストレーション）を取り扱う。 基本的な記譜法や、実演までの仕組みから、 今日に至るまでの管弦楽曲の技法と思想に触れて学ぶ。		
到達目標	管弦楽総譜を書く力を身につけることができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス：オーケストラとは何か 第2回 組織と編成 第3回 ハイドンと実習 第4回 ムソルグスキーと実習 第5回 ストラヴィンスキーと実習 第6回 ウェーベルンと実習 第7回 ベンデレツキと実習 第8回 ジョン・ケージと実習 第9回 課題実習（1） 第10回 課題実習（2） 第11回 課題実習予備 第12回 パート譜制作 第13回 実演前のチェックと提出 第14回 試演実習 第15回 フィードバック		
評価方法 (合計100%)	課題の評価 100%		
失格条件	課題未提出の場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	ご自分に合った管弦楽法参考書を1冊は所有するのが良い。 また、興味を惹く作品があればスコアを自分の手で書き写すことがとても勉強になります。		
課題へのフィード バック	各授業で行うワークには個別にフィードバックをつけてお返しします。 最終課題は数回にわたって添削助言、意図と技法をめぐって議論を行います。		
教科書	不使用。必要に応じて配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	ゴードン・ヤコブ（著）管弦楽技法 音楽之友社 伊福部昭（著）管弦楽法 音楽之友社		
その他	特になし。		
備考	作曲家としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT407A01	期間	前期
授業科目名	音楽療法の基礎A		
英訳科目名	Division of Music Therapy A		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	音楽療法を専門に学ぶ上で必要な基礎的知識や理論、理念について学んでもらう。様々な実際のセッションの映像も見ながら、ディスカッションを交えて進める。 積極的な授業参加を期待する。		
到達目標	専門に関する基本事項・用語を自分の言葉で適切に説明することができる。 専門に関する関心を広げ、主体的に考えたことを口頭および文章にて表現できる。		
授業計画	第1回 音楽療法の基礎用語 第2回 音楽の心理的・社会的・生理的働きについて 第3回 音楽療法の歴史の変遷 第4回 子供の成長と音楽 (1) 胎児期～生後6か月 第5回 子供の成長と音楽 (2) 生後6か月～1歳 第6回 子供の成長と音楽 (3) 1歳～4歳 第7回 子供の成長と音楽 (4) 5歳～ 第8回 音楽療法の基礎的臨床理論 (受容と同質の原理) 第9回 音楽療法の基礎的臨床理論 (人間性心理学) 第10回 音楽療法の基礎的臨床理論 (セラピストの資質) 第11回 音楽療法の基礎的臨床理論 (山松方式) 第12回 対象者の理解と臨床(知的障害) 第13回 対象者の理解と臨床(自閉症スペクトラム①) 第14回 対象者の理解と臨床(自閉症スペクトラム②) 第15回 理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 内容確認試験 60% レポートなど 20%		
失格条件	試験を受けなかった場合 3分の1以上の欠席		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	授業中に疑問に思ったこと、興味を持ったことは積極的に自分で調べるように。 また、授業中に紹介した参考図書やサイトなど言われたことは必ず目を通すように (予習・復習の学修時間の目安：4時間)		
課題へのフィード バック	課題提出、発表後に各自に授業時にコメントします。 試験終了後に全体へ向けてコメントします。人数によっては個別で対応します。		
教科書	授業時にプリント配布		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介する		
その他	なし		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	MT407A02	期間	後期
授業科目名	音楽療法の基礎B		
英訳科目名	Division of Music Therapy B		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	音楽療法を専門に学ぶ上で必要な基礎的知識や理論、理念について学んでもらう。様々な実際のセッションの映像も見ながら、ディスカッションを交えて進める。 積極的な授業参加を期待する。		
到達目標	人と人を繋ぐ音楽の役割に関心を持ち、その可能性について考察することができる。 対象者について理解を深め、専門的基礎的事項を説明することができる。 音楽療法とは何であるか、を自分の言葉で説明できる。		
授業計画	第1回 対象者の理解と臨床（アスペルガー症候群） 第2回 対象者の理解と臨床（学習障害 AD／HD） 第3回 対象者の理解と臨床（ダウン症・脳性まひ） 第4回 対象者の理解と臨床（脳性まひ・失語症） 第5回 対象者の理解と臨床（精神疾患の診断分類） 第6回 対象者の理解と臨床（鬱） 第7回 対象者の理解と臨床（統合失調症） 第8回 対象者の理解と臨床（不安障害） 第9回 対象者の理解と臨床（PTSD） 第10回 記憶のシステムと認知症 第11回 対象者の理解と臨床（アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症） 第12回 対象者の理解と臨床(その他の認知症) 第13回 研究発表会 第14回 まとめ 第15回 理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 試験 60% レポートなど 20%		
失格条件	試験を受けなかった者 授業を3分の1以上欠席		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	授業中に疑問に思ったこと、興味を持ったことは積極的に自分で調べること。 また、授業中に紹介した参考図書やサイトなど言われたことは必ず目を通すこと。（1週間にかける予習・復習の学修時間：4時間）		
課題へのフィードバック	課題の提出、発表時、全体へ向けてコメントします。 試験終了後は全体へのコメントをしますが、人数によっては個別に対応します。		
教科書	授業時にプリント配布		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介		
その他	なし		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	MT408A04	期間	前期
授業科目名	臨床即興 I		
英訳科目名	Clinical improvisation I		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ー
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	即興によるアンサンブルを中心にしながら、音楽療法士に必要な感性のトレーニングを主な目的とする。実際に楽器に触れて音作りをしながら、自己の内的経験を吟味してもらい、他者との交流を目指した音。音楽の在り方について検討・考察しながらすすめる。		
到達目標	それぞれの楽器の持つ特質を知る。 即興のための様々な基本的な旋法を理解し、一定の枠の中で旋律的応答ができる。 打楽器や声を使って即興的にコミュニケーション的な音楽を作ることができる。 自分が感じたことを口頭や文章で適切に表現できる。		
授業計画	第1回 小物楽器を使って即興コラボレーション 第2回 即興アンサンブル (ペンタトニック・民謡音階) 第3回 即興アンサンブル (ドリアン・イオニア) 第4回 即興アンサンブル (リディアン・フリギア・スパニッシュ) 第5回 即興アンサンブル (ミクソリディア・エオリア) 第6回 トーンチャイムを使ってのコンダクティング (ホールトーン) 第7回 ドラムサークル (リズムフリー・枠あり即興・コンダクティング) 第8回 ペア即興 第9回 自由即興 (無調整・セミトーン) 1 第10回 自由即興 2 第11回 メロディーベルの即興コンダクティング・既成曲コンダクティング 第12回 メロディーベルの即興コンダクティング・既成曲コンダクティング 続き 第13回 既成曲+即興 第14回 既成曲+即興 続き 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業参加態度50% 提出物 50%		
失格条件	課題の未提出 3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で習ったスケールを含めてピアノ練習 (毎日最低90分) 授業時の内容をノートに記録しておく (次回の授業時にチェックします) (復習2時間) 出された実技課題は必ず練習して実践できるようにしておくこと。		
課題へのフィード バック	実践において指導 個別にレポート課題にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介		
その他	鍵盤ハーモニカのパイプを各自用意すること		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	MT408B05	期間	後期
授業科目名	臨床即興Ⅱ		
英訳科目名	Clinical improvisation Ⅱ		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	臨床即興Ⅰの応用編。 Nordoff-Robbinsの『こどものためのプレイソング』日本語版を用いてロールプレイを行う。 曲に込められた療法的意義や音・音楽の在り方、歌詞の内容などを考察しながら、臨床的に展開させつつ実践に必要な基礎的技術を習得することを目指す。さらに、既成曲を用いて、臨床用にアレンジする基本的な力も身につけていただく。		
到達目標	目的に合わせて創造的にプレイソングを使用できる。 目的に合わせて既成曲をアレンジし、独自の楽譜を作成できる。 セラピストとしての基本的臨床技術を使うことができる。		
授業計画	第1回 Nordoff-Robbinsの『子供のためのプレイソング』日本語版から、担当曲分担。 グリーティングソングの合同作曲 第2回 分担曲からロールプレイ 1 第3回 前回の仕上げ 第4回 分担曲からのロールプレイ 2 第5回 前回の仕上げ 第6回 分担曲からのロールプレイ 3 第7回 前回の仕上げ 第8回 分担曲からのロールプレイ 4 第9回 前回の仕上げ 第10回 分担曲からのロールプレイ 5 第11回 前回の仕上げ 第12回 既成曲のアレンジメント・ロールプレイ 1 第13回 前回の仕上げ 第14回 既成曲のアレンジメント・ロールプレイ 2 第15回 総仕上げ		
評価方法 (合計100%)	課題取り組み度 70% 授業参加態度 30%		
失格条件	作品の未提出 3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	ペアで進めるので、必ず互いに相談して合わせておくように ピアノが弾けていない場合は授業の進行に支障をきたすため、よく練習しておくように。 ピアノの練習毎日最低1時間 アドバイスを受けたところの修正、練習(2時間) 新しい課題の準備(2時間)		
課題へのフィード バック	実践において対応		
教科書	子どものためのプレイソング		
著者名	ノードフロビンス音楽療法士の会 訳		
出版社	音楽之友社		
参考書	なし		
その他			
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	臨床即興Ⅲ		
英訳科目名	Clinical improvisation Ⅲ		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ー
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	臨床即興Ⅱに引き続き、実践に必要な基礎的技術を習得することを目指す。		
到達目標	既成曲を目的に合わせてアレンジできる。 セラピーにおけるグループワークのための自作曲・アレンジメント曲を制作し楽譜にする。 セラピストに必要な基本的技能を使用することができる。		
授業計画	第1回 グリーティングソングの共同作曲 第2回 既成曲の臨床用アレンジメントとロールプレイ1 第3回 前回の仕上げ 第4回 既成曲の臨床用アレンジメントとロールプレイ2 第5回 前回の仕上げ 第6回 既成曲の臨床用アレンジメントとロールプレイ3 第7回 前回の仕上げ 第8回 既成曲の臨床用アレンジメントとロールプレイ4 第9回 前回の仕上げ 第10回 マイブレイソングの制作と発表 ロールプレイ1 第11回 マイブレイソングの制作と発表 ロールプレイ2 第12回 マイブレイソングの制作と発表 ロールプレイ3 第13回 セッションの組み立て1 第14回 セッションの組み立て2 第15回 セッションの組み立て3		
評価方法 (合計100%)	課題達成度 70% 授業参加態度 30%		
失格条件	作品の未提出 授業を3分の1以上欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	ペアで進めるので、必ず互いに相談して合わせておくように。(1時間) ピアノが弾けていない場合、授業の進行に支障をきたすので伴奏はよく練習しておくこと。(毎日最低90分) 授業時に指導を受けた内容は必ず次のリプレイに反映できているように吟味考察練習しておくこと(4時間)		
課題へのフィード バック	個別に対応します		
教科書	授業時にプリント配布		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介		
その他	なし		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT408C03	期間	後期
授業科目名	音楽療法演習		
英訳科目名	Music Thrapy seminar		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	平行して行われている音楽療法実習での学びと、これまでの授業での学びをリンクさせて、より現場と密接した実践的内容の指導を行う。また、履修者が関心を持つテーマに沿って研究発表を行う。		
到達目標	音楽療法の臨床における基礎的実践力を身に付け、知識と技法を発展させる。 専門における自分の興味や必要を自覚し、積極的にそれらを追及できる。		
授業計画	第1回 インテークセッションに向けて 第2回 グループワークの楽曲選び 第3回 グループワーク応用 1 第4回 グループワーク応用 2 第5回 現場における適用 1 第6回 現場における適用 2 第7回 セッションの言語化 第8回 プロセスの吟味 第9回 セラピストの自己吟味 1 第10回 セラピストの自己吟味 2 第11回 周辺領域の研究発表 第12回 周辺領域の研究発表と検討 第13回 実習の報告書の書き方 第14回 実習のまとめ 第15回 全体のまとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 課題取り組み度 50% レポート提出 20%		
失格条件	作品の未提出 3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業の始まるまでに、必ず楽器などの準備を整えておくこと。 出された課題は、次回までにきちんと練習し、ワークが滞りなく行えるよう努力すること。また、調べものは、納得するまでとことん調べるように。(3時間)		
課題へのフィードバック	全体へ向けてコメントします。		
教科書	プリント配布		
著者名			
出版社			
参考書	授業時の紹介		
その他	なし		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT408B01	期間	集中
授業科目名	音楽療法実習 I		
英訳科目名	Clinical Work I		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ー	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ー
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> △	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	将来、音楽療法の専門家として臨床に携わるに先立って必要な社会体験をテーマとする。 5日間終日実習。内容は業務の観察参与及び介護支援とする。		
到達目標	支援者としての行動や意識を自覚し、対象者への関心を広げ、さらなる学習意欲を持つことができる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習事前指導（前期授業開始時に連絡） 2 福祉関連施設における5日間の実習 3 実習事後指導（実習終了後に連絡） 4 レポート 		
評価方法 (合計100%)	実習出席 80% 実習レポート10% 実習先評価10%		
失格条件	実習実施期間3日以上欠席 レポートの未提出		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	高齢者領域に関する対人援助法などをよく復習してのぞむように（予習2時間） 実習終了後決められた期日までにレポートを提出。体験したことをよく吟味・考察して書くように（5時間）		
課題へのフィード バック	個別に対応します		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	必要時に紹介する		
その他	なし		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT408C01	期間	後期
授業科目名	音楽療法実習Ⅱ		
英訳科目名	Clinical WorkⅡ		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ー	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ー
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> △	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>高齢者施設にてグループセッションを継続的に行う。</p> <p>また、実習生はセラピストとして決まったグループを各自担当する。Co-Thとしても同様である。</p> <p>毎回セッション終了後に学内に戻り、検討会を行って報告書を作成し、次のセッションへの準備を行う。</p> <p>2回に1度の割合で学内授業を行い、VTRの記録をもとに更に検討を深め吟味考察してもらう。</p>		
到達目標	<p>現場における体験を通して、音楽療法の対象者の理解を深めるとともに、臨床に必要な基礎的技術を習得する。</p> <p>音楽療法で関わる際の観点を習得し、セッションの内容を自己吟味できる。</p> <p>吟味・考察した結果を文章や口頭で適切に表現できる。</p>		
授業計画	<p>実習日程は9月に施設職員との打ち合わせ時に決定。</p> <p>担当教員はスーパーバイザーとして毎回同行し、現場指導を行う。</p> <p>場合によってはCo-Thとしても関わる。</p> <p>第1回 クライアントとの顔合わせ、施設見学</p> <p>第2回 実践</p> <p>第3回 実践</p> <p>第4回 学内検討、フィードバック</p> <p>第5回 実践</p> <p>第6回 実践</p> <p>第7回 学内検討、フィードバック</p> <p>第8回 実践</p> <p>第9回 実践</p> <p>第10回 学内検討、フィードバック</p> <p>第11回 実践</p> <p>第12回 実践</p> <p>第13回 学内検討、フィードバック</p> <p>第14回 実践</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業・実習取り組み度 70%</p> <p>提出物 30%</p> <p>* 授業・実習取り組み度には記録作業の取り組み度が含まれる。</p>		
失格条件	実習を3回以上欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>実習検討会では映像記録をもとに行うので、毎回必ずきちんと記録を見直してのぞむように。記録作成 (2時間)</p> <p>次のセッションの準備 (3時間)</p>		
課題へのフィード バック	上記の通り検討会を行います		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介		
その他	なし		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT408C02	期間	前期
授業科目名	音楽療法実習Ⅲ		
英訳科目名	Clinical Work Ⅲ		
担当教員名	石村 真紀		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ー	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ー
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> △	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>重度知的障害者施設にて個人セッションを継続的に行う。 また、実習生は各自1人ずつ決まったクライアントを担当する。 毎回セッション終了後に秒刻みのインデックス（記録）を作成し、それをもとに学内での検討を行う</p>		
到達目標	<p>現場における体験を通して、音楽療法の対象者の理解を深めるとともに、臨床に必要な基礎的技術を習得する。 音楽療法で関わる際の観点を習得し、セッションの内容を自己吟味できる。 吟味・考察した結果を文章や口頭で適切に表現できる。</p>		
授業計画	<p>実習日程は9月に施設職員との打ち合わせ時に決定。 担当教員はスーパーバイザーとして毎回同行し、現場指導を行う。 場合によってはCo-Thとしても関わる。 第1回 クライアントとの顔合わせ、施設見学 第2回 実践 第3回 実践 第4回 学内検討、フィードバック 第5回 実践 第6回 実践 第7回 学内検討、フィードバック 第8回 実践 第9回 実践 第10回 学内検討、フィードバック 第11回 実践 第12回 実践 第13回 学内検討、フィードバック 第14回 実践 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業・実習取り組み度 70% 提出物 30% *授業取り組み度とは、授業参加度のみならず、記録作業の取り組み度が含まれる。</p>		
失格条件	実習を3回以上欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>実習検討会では映像記録とインデックス・サマリーをもとに行うので、毎回必ずきちんと仕上げてのぞむように。記録作成（4時間）。なお、記録が取れていない場合は次回の現場実習に行けないこともある。 次のセッションの準備（1時間）</p>		
課題へのフィードバック	個別に対応		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介		
その他	なし		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT408A01	期間	前期
授業科目名	音楽療法概論		
英訳科目名	Outline of Music Therapy		
担当教員名	後藤 浩子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ー
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>音楽療法を実践するにあたり、倫理観をもつことが必要とされる。</p> <p>それは、対象者・クライアントのプライバシーを守るといふことにとどまらず、セラピストの責任や技能・研究・公開に関して、さらに他の専門機関との関係まで幅広く求められる倫理である。</p> <p>この講義では、音楽療法の倫理を中心に学ぶが、広く、対人援助職の倫理・臨床心理士の倫理などからも学んでいく。</p> <p>また、具体的な事例を通して学んでいく。</p>		
到達目標	<p>音楽療法における倫理をしっかりと把握することができる。</p> <p>対人援助職としての倫理観をもてるように考えていくことができる。</p> <p>いろいろな場面での対応を考える素地をつくることことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 倫理とは何か なぜ、倫理的規範が必要か</p> <p>第2回 いろいろな音楽療法（1）音楽療法の種類</p> <p>第3回 いろいろな音楽療法（2）個人療法</p> <p>第4回 いろいろな音楽療法（3）集団療法</p> <p>第5回 音楽療法学会の倫理綱領（1）理解する</p> <p>第6回 音楽療法学会の倫理綱領（2）具体例を知る</p> <p>第7回 臨床心理士倫理綱領</p> <p>第8回 対人援助職の倫理</p> <p>第9回 具体的な事例を通して考える（1）児童の事例</p> <p>第10回 具体的な事例を通して考える（2）成人の事例</p> <p>第11回 具体的な事例を通して考える（3）高齢者の事例</p> <p>第12回 具体的な事例を通して考える（4）健康づくりとしての音楽療法の事例</p> <p>第13回 ロールプレイ</p> <p>第14回 ロールプレイまとめ</p> <p>第15回 内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（30%）毎回のレポート提出（30%）及び最終授業時の内容理解の確認（40%）などで総合的に評価する		
失格条件	全授業の3分の1以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>参考文献や配布プリントを用いてすすめていくので、事前によく読んでおくこと</p> <p>また、授業内で理解したり、体験したことを理論と結びつけておくこと</p> <p>日常、生活している中で、音楽療法についての記事やニュースに目を向け、新聞などの切り抜きをして、興味や関心を具体化しておくことも望ましい。</p>		
課題へのフィードバック	毎回提出するレポートにコメントをつけて返却する。		
教科書	日本音楽療法学会倫理ハンドブック		
著者名	日本音楽療法学会 倫理ハンドブック編集委員会		
出版社	日本音楽療法学会 〒105-0013 東京都港区浜松町1-20-8 浜松町1丁目ビル6階 ☎電話 03-5777-6220 FAX 03-5401-0337		
参考書	<p>松本和雄監修・小原依子編著 『音楽療法士のための心理学』 朱鷺書房</p> <p>村本詔司 『心理臨床と倫理』 朱鷺書房</p> <p>山松質文 『音楽療法へのアプローチ』 音楽之友社</p>		
その他	場合によっては、施設などに行き、実際に対象者と触れ合う機会をもつ。		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	MT408A02	期間	前期
授業科目名	臨床医学各論 I		
英訳科目名	Clinical Medicine I		
担当教員名	畠中 剛久		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> △	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	音楽療法を実践するにあたり必要な医学知識を学び、将来実践するにあたり臨床の場でその知識をどのように活かして行くべきか考えていきます。		
到達目標	音楽療法を実践する上で必要な基礎医学知識を習得し、臨床で役立てることができる。		
授業計画	①基礎的な医学知識 ②各種疾患の特性と音楽療法の応用		
評価方法 (合計100%)	授業への参加（参加状況）30% 期末に行うレポート評価70%		
失格条件	正当な理由なくして出席率60%未満の場合は失格とします。 前期・後期に評価として行うレポートの未提出の場合は失格とします。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	日頃から社会問題や医学的問題に興味を持ち、積極的に授業に参加してください。		
課題へのフィード バック	レポート評価や講義など疑問の思うところは、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特にありません。		
備考	医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT408B02	期間	後期
授業科目名	臨床医学各論Ⅱ		
英訳科目名	Clinical Medicine Ⅱ		
担当教員名	畠中 剛久		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	音楽療法を実践するにあたり必要な医学知識を学び、将来実践するにあたり臨床の場でその知識をどのように活かして行くべきか考えていきます。		
到達目標	音楽療法を実践する上で必要な基礎医学知識を習得し、臨床で役立てることができる。		
授業計画	①基礎的な医学知識 ②各種疾患の特性と音楽療法の応用		
評価方法 (合計100%)	授業への参加（参加状況）30% 期末に行うレポート評価70%		
失格条件	正当な理由なくして出席率60%未満の場合は失格とします。 前期・後期に評価として行うレポートの未提出の場合は失格とします。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	日頃から社会問題や医学的問題に興味を持ち、積極的に授業に参加してください。		
課題へのフィード バック	レポート評価や講義など疑問の思うところは、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特にありません。		
備考	医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT407A04	期間	前期
授業科目名	臨床心理学 I		
英訳科目名	Clinical Psychology I		
担当教員名	後藤 浩子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	音楽療法を行う際に活用できる視点、および種々の技法を学ぶ。 援助者として他者をより理解するための行動観察法や評価法を学ぶ。さらに、交流分析やコミュニケーション論を学ぶことにより、自分に向き合い、自分を知るという体験をする。 その過程で、自己理解の促進と他者を思いやる柔らかな感性を育成し、よき音楽療法士としての土台をつくる基礎となるように学ぶ。		
到達目標	心理臨床としての音楽療法を理解することができる。 交流分析の理解をすることができる。 エゴグラムを体験して、自分を理解することができる。 非言語コミュニケーションを理解することができる。		
授業計画	第1回 臨床心理学とは 第2回 臨床心理学の中での音楽療法の位置づけ 第3回 心理療法としての音楽療法 第4回 来談者中心療法について 第5回 交流分析について (1) 交流分析とは 第6回 交流分析について (2) エゴグラム 第7回 交流分析について (3) 自己理解・他者理解 第8回 交流分析について (4) 心の栄養について 第9回 カウンセリングについて (1) カウンセリングとは 第10回 カウンセリングについて (2) カウンセリング場面をみる 第11回 ストレスについて (1) ストレスとは 第12回 ストレスについて (2) ストレスマネジメント 第13回 コミュニケーション論 第14回 非言語コミュニケーションとしての音楽療法 第15回 まとめ マインドマップの作成		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 (30%) 毎回のレポート提出 (30%) 及び最終授業時まとめの作成 (40%) などで総合的に評価する		
失格条件	授業の3分の1以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	参考文献などを読む (1時間) 対象者について理解するための学習をする (1時間)		
課題へのフィード バック	毎回提出するレポートにコメントをつけて返却します。		
教科書	『音楽療法士のための心理学』		
著者名	松本和雄監修・小原依子編著		
出版社	朱鷺書房		
参考書	『TEG第2版』 金子書房 神谷美恵子 『こころの旅』 みすず書房 服部祥子 『精神科の子育て』 論』 新潮社		
その他	場合によっては、施設などに行き、実勢に対象者の様子を見て、倫理について体感する機会をもつ。		
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	MT407B04	期間	後期
授業科目名	臨床心理学Ⅱ		
英訳科目名	Clinical PsychologyⅡ		
担当教員名	後藤 浩子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	音楽療法を行う時に有用な心理的援助技法を学ぶ。 実際に、アートセラピーやイメージ療法などを体験する。		
到達目標	アートセラピーを体験して、理解することができる。 音楽療法との共通点や相違点などを理解することができる。 心理的援助方法を音楽療法の実践にどのようにいかすか、事例をとおして考えることができる。		
授業計画	第1回 音楽療法を行う際に活用可能な心理療法を学ぶ 第2回 心理療法の理論とカウンセリング技法 第3回 カウンセリングの体験 第4回 アートセラピーについて（1）種類 第5回 アートセラピーについて（2）事例 第6回 絵画療法について 第7回 箱庭療法について 第8回 スクイグル法について 第9回 音楽療法における即興演奏について 第10回 風景構成法について 第11回 コラージュ療法について 第12回 リラクゼーションについて（1）統合リラクゼーションについて 第13回 リラクゼーションについて（2）調整的音楽療法について 第14回 音楽療法と絵画療法との共通点・相違点 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（30%）毎回のレポート提出（30%）及び最終授業時の内容理解の確認（40%）などで総合的に評価する		
失格条件	授業の3分の1以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	さまざまな技法をみにつけられるよう、資料を読み、復習をする。（1時間） また、絵画療法に使うものを準備する。（1時間） 音楽療法とアートセラピーの共通点や相違点を感じられるように、体験を自分のものとして感じられるようにする。（2時間）		
課題へのフィード バック	毎回提出するレポートにコメントをつけて返却する。		
教科書	『音楽療法士のための心理学』（臨床心理学Ⅰで用いたもの）及び配布プリント		
著者名	松本和雄監修・小原依子編著		
出版社	朱鷺書房		
参考書	杉浦京子 『臨床心理学講義』 朱鷺書房		
その他			
備考	音楽療法士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	集中
授業科目名	マンガ・アニメ音楽文化論		
英訳科目名			
担当教員名	江崎 慎平		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ー
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ー
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では商業アニメーションがどう制作されてゆくか、作り手がどのような問題意識をもっているか、といった内容を入力に、多種多様な世界のアニメーション表現について触れる。その表現の豊かさ、可能性を考察することで、日本の「アニメ」がジャンルに過ぎないことが見えてくるはずだ。 又、実写等、映像作品一般についても取り上げる。中でも、特に音楽と映像との関係について考える。たくさんの映像作品を鑑賞することになるが、積極的・能動的思考をしてもらいたい。		
到達目標	この授業では、映像に対する豊かな視野を獲得することをめざし、次の項目を達成目標とする。 ①商業アニメーションの制作についての工程や考え方の知識を身につけることができる。 ②高畑作品の特徴について、基本的な知識を得ることができる。 ③造詣を深め、ジャンルへの可能性を考えることができる。 ④特に音楽と映像の関係について考え、両者がどのような効果を持っているかという知識を身につけることができる。		
授業計画	<p>第1回 はじめに。授業ガイダンス。 ・アニメーションを演出する、とはどういうことなのか。</p> <p>第2回 高畑勲研究 ・アニメーション作品における音の力の実際。 ・主観的映像と客観的映像。その音楽について。</p> <p>第3回 多彩なアニメーション表現 ・各国のアニメーションと日本のアニメーションの違い</p> <p>第4回 音楽が先行する映像、「ミュージッククリップ」というジャンルから ・ミシェル・ゴンドリー ・アニメーションのミュージッククリップ</p> <p>第5回 ドキュメンタリー研究 ・原一男（知らないことを知る作品） ・森達也（知っていることに新たな視点を与える作品）</p> <p>第6回 実写作品研究「息子の部屋」 ・映画において、「音や音楽の処理が優れている」とはどういうことか。</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度50% レポート提出50%		
失格条件	出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	アニメーション、並びに映画等映像作品に興味がある生徒が望ましい。		
課題へのフィード バック	毎時のレスポンスシートについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	アニメーション監督としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	AP408A02	期間	集中
授業科目名	舞台スタッフ演習		
英訳科目名	Practice of Stage Management		
担当教員名	衣川 絵里子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>	ディプロマ・ポリシー2	<技能>
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>舞台芸術公演に関わる様々なプロセスを疑似体験しながら、アートマネジャーや舞台技術スタッフの仕事を学ぶ。特に、アートマネジャーは現場で非常に多くの知識と多種多様なスキルが必要とされる特殊な職業である。本番を迎えるまでに経た多くのプロセスは座学を通して学び、公演本番を通じて「ナマモノ」である舞台芸術の現場に触れる。</p> <p>この授業では2019年8月に西宮市フレンテホールで開催される「クラシック音楽謎解きミステリー“音楽探偵パッハの事件録”」の本番を、スタッフとして疑似体験する演習形式の授業である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術公演を通して、その企画・制作・運営のプロセスを知ること ・舞台芸術公演における舞台の企画・設計、道具製作、照明・音響技術や衣装など、プロフェッショナルの仕事に触れて各分野の仕事を知ること ・公立文化施設において地域に開かれた劇場を目指す舞台芸術公演の在り方を理解すること ・公演の目的を理解し、戦略的な制作着眼点に基づくアートマネジャーの仕事を知ること 		
授業計画	<p>*この授業はすべて西宮市フレンテホールで開講する（開講場所までの交通費は自己負担）</p> <p>*授業日時については設定の日時と変更になるため、履修者には5月末までに開講日時を連絡する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・公立文化施設のミッション～劇場法を軸に～ ・企画の考え方～目的と戦略をもって～ ・アーティストとの関わり ・予算の考え方 ・資金調達 ・広報 ・チケット販売と集客 ・著作権 ・舞台技術 ・レセプション ・運営～タイムマネジメントとスケジュール～ ・本公演の開催 ・ふりかえり 		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加度（参加状況と発言）60%</p> <p>最終レポート 40%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が3分の2以上に満たない場合 ・最終レポートを提出しない場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>課題は特に出さないが、様々な舞台芸術公演へ積極的に出かけ、どういった目的で開催されているかを自分なりに掘り下げ、理解を深めることを望む（授業時間の2倍程度）</p>		
課題へのフィード バック	<p>最終レポートについては、ポータルサイト等を通じて、全体に向けてコメントする</p>		
教科書	授業毎にプリント配布		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて適宜紹介		
その他	授業の進捗具合によって、シラバスを変更する可能性がある		
備考	文化施設スタッフとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	AP407A03	期間	後期
授業科目名	舞台芸術概論		
英訳科目名	Survey in Performing Arts		
担当教員名	衣川 絵里子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ー	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ー
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術の歴史や日本と海外における舞台芸術について理解を深めること ・舞台芸術をとりまく環境について理解を深めること ・舞台芸術の可能性について自ら考えること <p>以上を目的とする。</p> <p>学内での授業は講義だけでなく、グループワークも取り入れるので、授業内での積極的な発言を求める。また、学外でのフィールドワークにおいて、現場視察や公演鑑賞の機会を設けるので、積極的に参加するように。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術の歴史や日本と海外における舞台芸術について理解を深めること ・舞台芸術をとりまく環境について理解を深めること ・舞台芸術の可能性について自ら考えること ・自分から積極的に舞台芸術を鑑賞すること（特に個人の趣向外のジャンル） 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> *フィールドワークの訪問先はオリエンテーションで発表する *視察先への交通費や入場料などは自己負担とする *フィールドワークは2時間続けて実施するため、オリエンテーションで時間調整をする <p>第1回 オリエンテーション 第2回 舞台芸術とは 第3回 舞台芸術の歴史①日本からアジアを中心に 第4回 舞台芸術の歴史②欧米を中心に 第5回 日本の舞台芸術①江戸時代以前 第6回 日本の舞台芸術②明治維新以後 第7回 海外の舞台芸術 第8回 舞台芸術をとりまく環境①劇場 第9回 舞台芸術をとりまく環境②制作 第10回 フィールドワークに向けて 第11回 フィールドワーク① 第12回 フィールドワーク② 第13回 フィールドワーク③ 第14回 フィールドワーク④ 第15回 舞台芸術の未来</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加度（参加状況） 50% 授業内提出物 20% 最終レポート 30%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が3分の2以上に満たない場合（30分を越える遅刻は欠席、遅刻3回で1回の欠席とする） ・最終レポートを提出しない場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	普段から様々な公演へ積極的に出かけ、授業で学んだことを掘り下げ、理解を深めることを望む また、フィールドワークの下準備として事前に課題を与えるので、取り組んだ上で授業に参加することを望む（授業時間の2倍程度）		
課題へのフィードバック	授業内提出物については、必要に応じて全体にコメントする		
教科書	授業毎にプリント配布		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて適宜紹介		
その他	授業の進捗度合いによって、シラバスを変更する可能性がある		
備考	文化施設スタッフとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	アートマネジメント研究		
英訳科目名			
担当教員名	衣川 絵里子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解>	ディプロマ・ポリシー-2	<技能>
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力>	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度>
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	ゼミ形式とフィールドワークを併用しながら、関西を中心とするアートマネジメントの「今」を掘り下げていく。アートマネジメントを、成熟した社会を実現するために芸術と社会の関係を探求していくことだと考える場合、その方法論は「時間」「場所」「人」によって大きく変化する。この授業では「教育普及」「社会包摂」を中心に、アートマネジメントの現場に触れながら調査・分析・考察し、それぞれの方法論に迫りたい。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アートマネジメントの現場を訪れ、その実態を知ること ・現場視察をもとに分析・考察し、現在のアートマネジメントに関する理解を深めること 		
授業計画	<p>*フィールドワークの訪問先はオリエンテーションで発表する *視察先への交通費や入場料などは自己負担とする *フィールドワークは2時間続けて実施するため、オリエンテーションで時間調整をする</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 アートマネジメントとは 第3回 教育普及型アートマネジメントとは 第4回 フィールドワーク① 第5回 フィールドワーク② 第6回 フィールドワーク①②のふりかえり 第7回 社会包摂型アートマネジメントとは① 第8回 社会包摂型アートマネジメントとは② 第9回 フィールドワーク③ 第10回 フィールドワーク④ 第11回 フィールドワーク③④のふりかえり 第12回 フィールドワーク⑤ 第13回 フィールドワーク⑥ 第14回 フィールドワーク⑤⑥のふりかえり 第15回 アートマネジメントの可能性と課題</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加度（参加状況） 50% 授業内提出物 20% 最終レポート 30%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が3分の2以上に満たない場合（30分を越える遅刻は欠席、遅刻3回で1回の欠席とする） ・最終レポートを提出しない場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	現地視察の下準備として事前に課題を与えるので、取り組んだ上で授業に参加することを望む (授業時間の2倍程度)		
課題へのフィード バック	授業内提出物については、必要に応じて全体にコメントする		
教科書	授業毎にプリント配布		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて適宜紹介		
その他	授業の進捗度合いによって、シラバスを変更する可能性がある		
備考	文化施設スタッフとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	AP407A07	期間	前期
授業科目名	録音の技術と表現/レコーディング・エディットA		
英訳科目名	Recording & Editing A		
担当教員名	能美 亮士		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	音楽に電気音響テクノロジーが援用されるようになり1世紀以上が経過している。本講義では、録音の基礎的な技術を習得するとともに表現手段としての可能性を考察する。		
到達目標	録音音楽の基礎技術である「録音」と「再生」を深く理解するとともに、録音・再生・編集・検聴それぞれの工程で必要となる基礎知識を身につけることができる。		
授業計画	第1回 音楽と録音技術の歴史 第2回 録音音楽の再生 - モノフォニックとステレオフォニック - 第3回 ポータブル・レコーダー - 機能・名称・用語の解説 - 第4回 ポータブル・レコーダー - 録音（楽器） - 第5回 ポータブル・レコーダー - 録音（環境音） - 第6回 ポータブル・レコーダー - 編集 - 第7回 検聴 第8回 DAW（Digital Audio Workstation） - レコーディング・システムの解説 - 第9回 DAW（Digital Audio Workstation） - トラックング - 第10回 DAW（Digital Audio Workstation） - マイクング - 第11回 DAW（Digital Audio Workstation） - 編集 - 第12回 DAW（Digital Audio Workstation） - ミキシング - 第13回 DAW（Digital Audio Workstation） - マスタリング - 第14回 試験 - 内容理解の確認 - 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度 70% ・試験 30%		
失格条件	4回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・講義で紹介する文献・資料に関して、事前に目を通しておくこと（予習2時間） ・講義で習得した技術について、学校や身の回りにある音響機器、およびソフトウェアなどを用いて熟知すること（復習2時間）		
課題へのフィード バック	試験後の授業にて、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適時指示します。		
その他	特になし		
備考	音響エンジニアとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	音響学A		
英訳科目名			
担当教員名	能美 亮士		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>	ディプロマ・ポリシー2	<技能>
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義では、音楽の視点から電気音響工学を概観するとともに、これらの技術を援用する際に生じるさまざまな現象や問題を論理的に解説する。		
到達目標	電気音響工学の基礎知識を広く学べるとともに、音や音楽に電気音響テクノロジーを援用する際、論理的に運用できる。		
授業計画	第1回 音楽と電気 第2回 モノフォニックとステレオフォニック 第3回 モノラルとバイノーラル 第4回 音の拡声とスピーカー（種類の解説） 第5回 音の拡声とスピーカー（動作原理の解説） 第6回 音の收音とマイクロフォン（種類の解説） 第7回 音の收音とマイクロフォン（動作原理の解説） 第8回 音の拡声とアンプリファイヤ（種類の解説） 第9回 音の拡声とアンプリファイヤ（動作原理の解説） 第10回 音声用ケーブル（種類の解説） 第11回 ミキシングコンソール 概論 第12回 ミキシングコンソール プリアンプ・イコライザー 第13回 ミキシングコンソール AUX・フェーダー・PAN 第14回 試験 - 内容理解の確認 - 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度 70% ・試験 30%		
失格条件	4回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・講義で紹介する文献・資料に関して、事前に目を通しておくこと（予習2時間） ・講義で習得した技術について、学校や身の回りにある音響機器、およびソフトウェアなどを用いて熟知すること（復習2時間）		
課題へのフィード バック	試験後の授業にて解答の解説を行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適時指示します。		
その他	特になし		
備考	音響エンジニアとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	音響学B		
英訳科目名			
担当教員名	能美 亮士		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解>	ディプロマ・ポリシー-2	<技能>
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力>	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度>
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	本講義では、音楽の視点から電気音響工学を概観するとともに、これらの技術を援用する際に生じるさまざまな現象や問題を論理的に解説する。		
到達目標	電気音響工学の基礎知識を広く学べるとともに、音や音楽に電気音響テクノロジーを援用する際、論理的に運用できる。		
授業計画	第1回 アナログ音声信号とデジタル音声信号 第2回 ビットとサンプリング周波数 第3回 音の解像度 ハイレゾリューションとローレゾリューション 第4回 音楽の複製 第5回 無線と有線 第6回 音の音色 第7回 ノイズと歪み 第8回 フィールド・レコーディングとスタジオ・レコーディング -音楽と空間- 第9回 音像定位 第10回 音声の圧縮 第11回 音量 Loudness War 第12回 マスタリングの役割 第13回 録音物のアーカイブとサウンド・リペア 第14回 試験 - 内容理解の確認 - 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度 70% ・試験 30%		
失格条件	4回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・講義で紹介する文献・資料に関して、事前に目を通しておくこと (予習2時間) ・講義で習得した技術について、学校や身の回りにある音響機器、およびソフトウェアなどを用いて熟知すること (復習2時間)		
課題へのフィード バック	試験後の授業にて解答の解説を行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適時指示します。		
その他	特になし		
備考	音響エンジニアとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	サウンド・リインフォースメント		
英訳科目名			
担当教員名	能美 亮士		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>	ディプロマ・ポリシー2	<技能>
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	音楽に電気音響テクノロジーが援用されるようになり1世紀以上が経過している。 本講義では、電気音響テクノロジーによる音声の拡声原理や音響機器の操作方法を学ぶとともに、これらの技術を概観する。また、舞台機構調整技能士3級 実技試験の試験対策を兼ねた内容となる。		
到達目標	マイクロフォン、アンプ、スピーカー、ミキサーといった音響機器を用い、音や音楽を拡声する基礎技術を取得できる。		
授業計画	第1回 音楽と電気技術の歴史 第2回 システム セットアップ - 基礎システム - 第3回 音の拡声とスピーカーの解説 第4回 音の收音とマイクロフォンの解説 第5回 システム セットアップ - 簡易システム - 第6回 音声ケーブルの解説 第7回 ライブ・コンソールの解説 - 基礎編 - 第8回 ライブ・コンソールの解説 - 応用編 - 第9回 システム セットアップ - 音楽システム - 第10回 音の拡声とアンプリファイアの解説 第11回 オーディオ・プロセッサとモニターシステムの解説 第12回 ブロックダイアグラムの作成 第13回 タイムスケジュールとオペレーティング 第14回 試験 - 内容理解の確認 - 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度 70% ・試験 30%		
失格条件	4回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・講義で紹介する文献・資料に関して、事前に目を通しておくこと（予習2時間） ・講義で習得した技術について、学校や身の回りにある音響機器、およびソフトウェアなどを用いて熟知すること（復習2時間）		
課題へのフィード バック	試験後の授業にて、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適時指示します。		
その他	特になし		
備考	音響エンジニアとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	AP407A08	期間	後期
授業科目名	レコーディング・エディットB		
英訳科目名	Recording & Editing B		
担当教員名	能美 亮士		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	音楽に電気音響テクノロジーが援用されるようになり1世紀以上が経過している。 本講義では、電気音響テクノロジーによる音声の拡声原理や音響機器の操作方法を学ぶとともに、これらの技術を概観する。また、舞台機構調整技能士3級 実技試験の試験対策を兼ねた内容となる。		
到達目標	マイクロフォン、アンプ、スピーカー、ミキサーといった音響機器を用い、音や音楽を拡声する基礎技術を取得できる。		
授業計画	第1回 音楽と電気技術の歴史 第2回 システム セットアップ - 基礎システム - 第3回 音の拡声とスピーカーの解説 第4回 音の收音とマイクロフォンの解説 第5回 システム セットアップ - 簡易システム - 第6回 音声ケーブルの解説 第7回 ライブ・コンソールの解説 - 基礎編 - 第8回 ライブ・コンソールの解説 - 応用編 - 第9回 システム セットアップ - 音楽システム - 第10回 音の拡声とアンプリファイアの解説 第11回 オーディオ・プロセッサとモニターシステムの解説 第12回 ブロックダイアグラムの作成 第13回 タイムスケジュールとオペレーティング 第14回 試験 - 内容理解の確認 - 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度 70% ・試験 30%		
失格条件	4回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・講義で紹介する文献・資料に関して、事前に目を通しておくこと（予習2時間） ・講義で習得した技術について、学校や身の回りにある音響機器、およびソフトウェアなどを用いて熟知すること（復習2時間）		
課題へのフィード バック	試験後の授業にて、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適時指示します。		
その他	特になし		
備考	音響エンジニアとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習 A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	主に、臨床心理学や発達心理学等の領域で注目されているテーマについて、文献講読、ディスカッション、ディベート、グループワーク等を行う。そのような活動を通して、心理学の専門的な学びを自ら実践できる力を育むとともに、社会に出てから必要とされる力（問題発見力、論点整理力、論理的思考力、積極性、チームワーク力、プレゼンテーション力、ディベート力、文書作成力など）を磨く。		
到達目標	臨床心理学や発達心理学等の領域で、近年、どのようなテーマに関心を持たれ、どのような方法で研究が進められているのかを理解できる。また、心理学に関する事象に問題意識をもち、専門的な学びを自ら実践できる力を獲得する。さらに、社会に出てから必要とされる力（問題発見力、論点整理力、論理的思考力、積極性、チームワーク力、プレゼンテーション力、ディベート力、文書作成力など）を獲得する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 臨床心理学における近年の研究動向 第3回 発達心理学における近年の研究動向 第4回 関心のあるテーマを考える 第5回 文献検索の方法と発表方法 第6回 分析手法の理解 第7回 文献のまとめ方 第8回 グループワークと発表① 第9回 グループワークと発表② 第10回 グループワークと発表③ 第11回 グループワークと発表④ 第12回 グループワークと発表⑤ 第13回 グループワークと発表⑥ 第14回 グループワークと発表⑦ 第15回 補足と総括		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	全授業の3分の1以上の欠席（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業テーマに向けて調べ、関心や問題意識をもって授業に臨むこと(予習時間の目安は1時間)。また、授業で扱ったテーマについてさらに学習を深めたり、学んだ研究手法について繰り返し実践するなど、3時間を目安に復習すること。		
課題へのフィードバック	課題提出後の授業で、必要に応じて全体にコメントします。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習 A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この科目は、この科目は、卒業研究とリンクしています。個別の卒業テーマに取り組む前段階の「共通ゼミナール」と位置づけ、教員が与える共通テーマについてのビジネス提案（製品・サービスに関わる）を行います。この提案は、個人で行うものとグループで行うものに分けてそれぞれ取り組みます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究のテーマ設定に通じる課題を発見できること ・その課題を解決するための分析と提案ができること ・創造性豊富な思考力を備えることができること ・その上で正確な文字表現によるレポートまたは論文を作成できることなど 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ヒット商品やサービスの抽出 第3回 ヒット商品やサービスのモニターと成功分析 第4回 ヒット商品やサービスの事例資料の探索と収集 第5回 共同研究1（テーマ提示・情報収集） 第6回 共同研究2（課題発見） 第7回 共同研究3（課題解決・プレゼンテーション準備） 第8回 共同研究4（提案プランのプレゼンテーション） 第9回 個人研究1（テーマ題材設定と情報収集） 第10回 個人研究2（個人テーマ領域の背景・課題発見） 第11回 個人研究3（新製品またはサービスの設定） 第12回 個人研究4（プレゼンテーション準備） 第13回 個人研究5（提案プランのプレゼンテーション） 第14回 卒業研究計画1（テーマ情報収集） 第15回 卒業研究計画2（シェアとプレゼンテーション） ※受講生の到達度や作業の進捗状況に応じて、内容を一部変更することもあります。		
評価方法 (合計100%)	課題研究の作成35% 課題研究のプレゼンテーション35% 正確な日本語による論文作成30% を、出席率100%の受講状況を前提にして総合評価する。		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の欠席 ・課題研究の未提出 ・課題研究プレゼンテーションの未実施 ・日本語能力の向上が見られないことなど 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	課題研究の事例研究と自己作成 課題研究の経過報告の作成 以上90分 課題研究の自己作成の継続 課題研究経過報告フィードバックによる次回報告準備 以上90分 外国人留学生は、日本語能力向上の自主学習を徹底すること（毎日90分）		
課題へのフィードバック	課題研究論文のフィードバック返却 課題研究のプレゼンテーション実施と解説など		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	参考文献、推奨図書などは授業内で指定する		
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教・仏教・浄土真宗などから各自の興味のあるテーマと論点を選び、ゼミ発表を行う。あわせて浄土真宗の学びをふりかえり、内容と構造を体系的に身に付け、その特徴を掘り下げ、検討する。</p> <p>各自の発表と、親鸞聖人・『歎異抄』・蓮如上人・『御文章』を概観することを通して、悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての釈尊の教え、親鸞聖人が歩んだ念仏の生活などについて考察する。</p> <p>卒業研究を前に、改めて宗教・仏教・浄土真宗について、その概要と着目点を確認しておきたい。</p>		
到達目標	<p>宗教、仏教、浄土真宗についての基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付ける。</p> <p>研究テーマに関する文献を集めて内容を検討し、自身の研究成果を整理完成させる技術を習得する。発表や質疑応答を通して、資料作成・意見交換などの表現力を身に付ける。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODククション</p> <p>第2回 宗教・仏教・浄土真宗と各自のテーマ</p> <p>第3回 論文の書き方（1）基礎</p> <p>第4回 論文の書き方（2）発展</p> <p>第5回 各自の発表（1）</p> <p>第6回 各自の発表（2）</p> <p>第7回 親鸞聖人について</p> <p>第8回 親鸞聖人の教えについて</p> <p>第9回 『歎異抄』講読</p> <p>第10回 蓮如上人について</p> <p>第11回 蓮如上人と本願寺について</p> <p>第12回 『御文章』講読</p> <p>第13回 各自の再発表（1）</p> <p>第14回 各自の再発表（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	発表内容50%、授業への参加態度（参加状況）50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>宗教・仏教・浄土真宗の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。思想研究に必要な、辞書や参考図書の扱い方を身に付け、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要な時間</p> <p>講義で紹介する文献や宗教・仏教・浄土真宗に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分）</p> <p>講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……………復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>テーマの選定から、立論とプレゼンテーション、そして議論の技法などの基礎を身につける。</p> <p>この演習では、基本的に宗教・仏教・浄土真宗からテーマと論点を選ぶことになるが、宗教を基盤として展開した文化や芸能など広範囲の領域を取り扱うことも可能である。</p> <p>受講者は全員がゼミ発表を行わねばならない。</p>		
到達目標	立論から発表・フィードバックまでの一連の順序を学ぶことで、ひとつのテーマを深くしっかりと考察することができる。		
授業計画	<p>第1回 ゼミ運営に関するレクチャー</p> <p>第2回 発表と議論に関するレクチャー</p> <p>第3回 模擬発表・模擬議論</p> <p>第4回 先行研究を見つける</p> <p>第5回 先行研究を読む(1) 宗教学</p> <p>第6回 先行研究を読む(2) 仏教学</p> <p>第7回 先行研究を読む(3) 真宗学</p> <p>第8回 発表(1)</p> <p>第9回 発表(2)</p> <p>第10回 発表(3)</p> <p>第11回 レポート・論文の書き方(1) 論旨</p> <p>第12回 レポート・論文の書き方(2) 様式</p> <p>第13回 再発表(1)</p> <p>第14回 再発表(2)</p> <p>第15回 再発表(3)</p>		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度(発言・課題・ディスカッションへの参加度など) 50%		
失格条件	指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>早期にテーマを定めて、それに関する文献を読む。</p> <p>テーマに関する場所へと足を運ぶ。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習 40分 ・授業のプリントやノートを見直す…復習 30分 		
課題へのフィード バック	課題終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	指定しない。必要な資料は配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて授業で紹介する。		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解>○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能>◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力>◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度>-	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験>◎
授業概要・ポイント	この科目は、この科目は、卒業研究の導入編です。個別の卒業テーマについての準備を進めて、そのプロセスを報告（授業内の個人報告）を積み重ねて、卒業研究を進めます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関連した文献・資料・情報を多角的に集めることができる ・課題を設定し、その解決に向けた文章構成力を備えることができる ・自分独自の企画提案ができる ・日本語によるレポート・論文作成能力を備えること ・プレゼンテーションのパフォーマンスを向上できる 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 卒業研究に向けて 第2回 テーマ題材の商品やサービス情報の収集と報告 第3回 研究テーマ題材と課題の設定によるテーマ再設定 第4回 研究テーマ設定の理由・動機報告（文書化） 第5回 研究テーマの共有（クラス内プレゼンテーション） 第6回 先行研究 情報の収集1（指導） 第7回 先行研究 情報の収集2（実践・報告） 第8回 文献検索1（計画） 第9回 文献検索2（実践・報告） 第10回 調査 分析1（計画） 第11回 調査 分析2（プレゼンテーション） 第12回 調査 分析3（文書化） 第13回 研究計画1（原稿作成） 第14回 研究計画2（共有・プレゼンテーション） 第15回 卒業研究報告（前期成果報告と後期の研究計画） ※受講生の到達度や作業の進捗状況に応じて、内容を一部変更することもあります。		
評価方法 (合計100%)	卒業研究の論文作成 50% 卒業研究の研究報告プレゼンテーション実施 50% 以上を、授業への全回出席を前提に総合評価する		
失格条件	授業の欠席 卒業研究論文の未提出 卒業研究の経過報告未実施		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	卒業に必要な卒業論文の継続的作成（1日90分） 卒業研究の経過報告のフィードバックによる卒業研究題材の研究と分析（1日90分） 日本語能力の向上（1日60分） 以上の事前・事後学習を徹底すること		
課題へのフィード バック	卒業論文の修正・指導 経過報告プレゼンテーションの講評と個別指導など		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能>◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験>◎
授業概要・ポイント	受講生は各自の研究テーマに沿って卒業研究を実施し、卒業論文の完成・提出とその発表を実施させる。そのために必要な指導を行う		
到達目標	必要な文献や資料を収集し整理すること 正確な日本語による文章作成ができること（必須） 客観的分析力を身につけ、論文に反映させること 研究内容のプレゼンテーションができること		
授業計画	第1回 卒業研究全体指導① 第2回 卒業研究全体指導② 第3回 卒業研究全体指導③ 第4回 卒業研究個別指導① 第5回 卒業研究個別指導② 第6回 卒業研究個別指導③ 第7回 卒業研究個別指導④ 第8回 卒業研究個別指導⑤ 第9回 卒業研究個別指導⑥ 第10回 卒業研究個別指導⑦ 第11回 卒業研究個別指導⑧ 第12回 卒業研究個別指導⑨ 第13回 卒業研究個別指導⑩ 第14回 卒業研究発表準備 第15回 卒業研究発表練習		
評価方法 (合計100%)	卒業研究 60% 最終発表 20% 授業への参加態度 20%		
失格条件	全授業の3分の1の欠席 所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合 最終発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	卒業論文の継続作成（90分） 卒業研究の経過報告資料作成（60分） 授業出席後の自己評価による卒業研究論文へのフィードバック（60分） および論文の継続作成と日本語ベースの文章表現力の向上を怠らないこと		
課題へのフィード バック	論文の返却と個別指導 論文のプレゼンテーションに対する解説と助言の共有		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU201A01	期間	前期
授業科目名	人文学概論		
英訳科目名	Introduction to Humanities		
担当教員名	中村 圭爾 他		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	この授業科目は、人文学について幅広い視野から多角的に学び、人文学についての基礎的・基本的な理解を深めることを目的としています。あわせて、人文学科の専門分野の紹介を行うとともに、人文学科で学んでいくためのさまざまな基礎知識を身につけ、これから4年間の学びの基礎づくりとすることをめざしています。		
到達目標	人文学科の専門分野それぞれについて、大体の内容を理解して自分の言葉で説明できる。 自分にとって関心のある人文学の分野のある程度しぼりこむことができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション（担当：中村） 第2回 人文学の範囲（担当：中村） 第3回 日本文学研究とはⅠ？（担当：鈴木） 第4回 日本文学研究とはⅡ？（担当：荒井） 第5回 日本歴史研究とは？（担当：山本） 第6回 サブカルチャー研究とは？（担当：高木） 第7回 臨床心理学研究とは？（担当：坂田） 第8回 社会心理学研究とは？（担当：益田） 第9回 真宗研究とは？（担当：佐々木） 第10回 仏教文化研究とは？（担当：釈） 第11回 国際コミュニケーション研究とは？（担当：アルスドルフ） 第12回 比較文化研究とは？（担当：石川） 第13回 ビジネス研究とは？（担当：向井） 第14回 現代社会研究とは？（担当：藤谷） 第15回 まとめ（担当：中村）		
評価方法 (合計100%)	毎回、授業の内容を要約し、感想等を述べたレポートを提出することにし、そのレポートの評価の集計を成績とします。 授業への参加態度 20% 授業内容の理解度 80%		
失格条件	3回以上の欠席（4回欠席で失格です）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	復習を重視します。毎回の授業後に、授業の内容について、配布資料やノート等を参考に復習し、授業内容を要約した短文と、その内容についての感想等（どこが理解しやすかったか難しかったか、各自興味・関心を持ったかどうか、その理由など）で構成したレポートを作成し、翌週までに提出してください（約4時間）。		
課題へのフィードバック	・各担当者に、レポートから判断したそれぞれの授業内容への理解度や今後の学修の課題に関するコメントを提出してもらい、最終授業時間にその紹介をすることにします。 ・可能であれば、一部担当者によるポータルサイトでのコメント公表を行います。		
教科書	不使用。毎回授業資料等を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて授業時に紹介します。		
その他	特になし		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。（向井） 日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。（坂田） 僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（釈） 僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（佐々木）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC201A05	期間	前期
授業科目名	宗教学概論 A		
英訳科目名	Introduction to Religious Studies A		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	<p>「宗教とは無関係」「宗教は必要ない」「宗教は怖い」「宗教は危険」こんなイメージを宗教にいだく人は少ないのかもしれない。しかしながら、われわれはどれほど宗教に関する知識を持っているのだろうか。むしろ、現在の世界情勢、社会問題を読み解く上で「宗教」に関する知識は必須といってよい。本講義では宗教を俯瞰するところから始まり、さまざまな宗教を各論的に取り扱い、さらには宗教を通じて「社会」や「人間」へとアプローチしていく。</p> <p>講義は、井上順孝著『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる宗教学』をもとに進めていく。</p> <p>また、本講義は、「宗教学概論B」との関連講義であり、特に「宗教文化士」の資格取得を試みる者は両方を受講してもらいたい。</p>		
到達目標	今日の視点から、宗教と社会の関わりを理解し、宗教を通して人間を見る眼を持つことができる。		
授業計画	第1回 宗教学への誘い 第2回 人間と宗教の関わり 第3回 世界の宗教 ① 第4回 世界の宗教 ② 第5回 教義と儀礼 第6回 「祈り」について 第7回 「祭り」考 第8回 「修行」と「戒律」 第9回 「神話」という物語について 第10回 「死後」の世界：人は死んだらどこへ行くのか 第11回 シャーマニズム：憑依と神がかり 第12回 聖地と巡礼 第13回 宗教と社会 第14回 現代の日本の宗教 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（予習や発表、毎回の簡単な課題）60%と、レポートもしくは試験40%の総合評価		
失格条件	講義回数数の3分1以上の欠席と、レポートを出さなかった、もしくは試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	身の周りの「宗教的なもの」を見つけてみる。 世界の宗教事情に興味をもつ。 授業時間外における予習・復習等に必要な時間 ・宗教関係の本を読む…予習 90分（2時間） ・授業のプリントやノートを見直す…復習 90分（2時間）		
課題へのフィード バック	毎回の簡単な課題など、その次の回の授業の冒頭でフィードバックを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	この講義は「宗教学概論 B」との関連講義です。 月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は適宜評価します。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC201A06	期間	前期
授業科目名	仏教学概論 A		
英訳科目名	Introduction to Buddhist Studies A		
担当教員名	渡邊 了生		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	<p>当講義では、他宗教（キリスト教・バラモン＝ヒンドゥー教等）との比較を通しながら、ブッダの根本教説をおさえ、広大な裾野をもつ仏教の共通基盤とその特質を学んでいきたい。</p> <p>その上で、実践哲学としての仏教思想の立場から、現代社会が抱える諸課題についても考察を深めていきたい。また折に触れ、ブッダの説示と親鸞思想との関連についても言及したいと思う。</p>		
到達目標	ブッダの思想の要点を知ることによって、他宗教との思想的相違が了解できる。		
授業計画	<p>第1回 「宗教」と「仏教」</p> <p>第2回 『バイブル』と『仏教経典』との違い：「死」についての考え方</p> <p>第3回 宗教の諸相</p> <p>第4回 諸宗教中における「仏教」の位置</p> <p>第5回 ゴータマ・ブッダの生涯[1]：「ルンビニーにおける誕生」「出家」「四門出遊－仏教の目的とは－」</p> <p>第6回 ゴータマ・ブッダの生涯[2]：「修行」「苦行の否定」「ブッダガヤーの菩提樹下における成道」</p> <p>第7回 ブッダの根本教説①：「ブッダ無我説と輪廻転生思想」</p> <p>第8回 ブッダの根本教説②：「苦行主義と快楽主義」「中道の教え」</p> <p>第9回 ブッダの根本教説③：「バラモン＝ヒンドゥー文化と現代インド社会」</p> <p>第10回 ブッダの根本教説④：「縁起・無常」「なぜ、苦がおこるのか？」</p> <p>第11回 ブッダの根本教説⑤：「悟りと呼ばれる苦の超克」「ブッダの悟りと親鸞のすくい」</p> <p>第12回 ゴータマ・ブッダの生涯[3]：「サールナート(鹿野苑)における初転法輪－最初の説法－」「四諦八正道」</p> <p>第13回 ゴータマ・ブッダの生涯[4]：「伝道の旅と主な視点」「クシナーラーにおける入滅」</p> <p>第14回 ブッダ滅後の仏教展開：「部派仏教と大乘仏教運動」</p> <p>第15回 内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 50%</p> <p>試験 50%</p> <p>上記のよう総合的に評価する。</p> <p>なお、講義進行の妨げとなる私語等の行為については厳正に対処する旨を了解した上で受講して頂きたい。</p>		
失格条件	<p>全講義の3分の1以上、欠席したもの。</p> <p>「公欠」等以外、正当な理由なしに3回連続で講義を欠席したもの。</p> <p>正当な理由なしに最終の「試験」を受けなかったもの。</p> <p>受講態度が甚だ不良につき講義からの退室を命じられたもの。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>学習内容のほとんどは、毎時間に配布するレジюме（文章形式）に記されている。予習では、あらかじめ配布されたレジюмеを読み、内容についての疑問点などを各自、整理した上で、講義に臨んで欲しい。（予習時間 2時間）</p> <p>また復習では、講義レジюмеを眺め、自身で理解できたところ、できなかった部分を明確にし、理解不十分などに関して、次の講義の始まりに（全員の前での質問が、気乗りしない場合には終了時にでもOK）遠慮なく質問を投げかけて欲しい。（復習時間 2時間）</p>		
課題へのフィードバック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする。		
教科書	教科書は使わず、毎時間、配布するレジюмеをもって講義を進める。		
著者名			
出版社			
参考書	<p>『仏教学序説』山口 益・横超慧日・安藤俊雄・舟橋一哉著（平楽寺書店）</p> <p>『大乘仏教の根本思想』小川一乗著（法蔵館）</p> <p>その他の参考書については、講義時に説明する。</p>		
その他	<p>「板書」は説明のための必要最低限にとどめ、配布する「レジюме」を中心に講義を進めることとしたい。</p> <p>なお、留学生受講者の多少・各留学生の日本語能力習得の程度にも対応しながら、上記の「授業計画」を基本的に（その「変更」をも視野におきながら）、講義を進めていきたいと考えている。</p> <p>なお、受講者は、この「仏教学概論A」と共に、他の仏教学・宗教学関係の講義も合わせて履修することが望ましいと思われる。</p> <p>※</p> <p>①これまでは「日本語辞書」としての講義中の「スマートフォン」等の使用を認めてきたが、昨年度から講義中の「スマートフォン」の使用は原則、禁止とした。留学生の方々には、必要な場合、『辞書』（および電子辞書）そのものを持参、講義中に使用して頂くこととする（「辞書」としての「スマートフォン」を、ずっと見つめながら動画をニコニコと楽しむ方がおられる為）。</p> <p>②講義中、やむを得ず退室する場合は「無断」ではなく、必ず、その旨の報告・許可を受けた方のみ、退室を認めることとする。</p>		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	HU309C01	期間	後期
授業科目名	社会人基礎力形成演習 (2)		
英訳科目名	Seminar on Establishing Fundamental Competencies for Working		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> △
授業概要・ポイント	<p>「社会人基礎力」とは、将来社会に出て、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力のことをいいます。この力は「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つを総合した力です。もう少し具体的にいいますと、「前に踏み出す力」というのは、ものごとに進んで取り組んだり、他人に働きかけたり、目的をはっきりさせて行動する力です。「考え抜く力」というのは、現状をよく考えて何が問題なのかをはっきりさせたり、その問題を解決するために計画を立てたり、新しい考え方や方法を考え出したりする力です。そして、「チームで働く力」は、色んな人々とともに目標に向けて協力するための力で、自分の意見を分かりやすく伝え、相手の意見をきちんと聞き、お互いの違いを分かり合うとともに、自分と周りの人々の関係を理解し、社会や人々との約束を守り、きびしく苦しい状態になってもそれに向かい合うことができるような力です。</p> <p>この授業は、このような力の一つでも二つでも身につけて、社会に役立つ大学卒業生に成長し、また社会で自分の役割りを十分に果たすことができるように、自分をきたえ、みがくことを目的に、個人ごとやグループに分かれて、さまざまな取り組みを行う予定です。</p>		
到達目標	社会人となるための心構えを持つとともに、今まで自分に備わっていないと思っていた新しい力を、何か一つ以上、身につけることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 学士力と社会人基礎力 第3回 自己分析Ⅰ「学修調査」の分析 第4回 自己分析Ⅱ「学生力チェック」 第5回 キャリアガイダンスⅠ 社会人生活の実際 第6回 キャリアガイダンスⅡ「就活」とは何か 第7回 自己分析と表現Ⅰ「履歴書と自己PR」 第8回 自己分析と表現Ⅱ「自己PR」の分析 第9回 キャリアの意識化Ⅰ 第10回 キャリアの意識化Ⅱ 第11回 「問題」の発見と解決Ⅰ（グループワーク） 第12回 「問題」の発見と解決Ⅱ（グループワーク） 第13回 「問題」の発見と解決Ⅲ（プレゼンテーション） 第14回 社会人基礎力チェック 第15回 まとめ ※授業取組の進み方等によって、計画が一部変更になる場合があります。		
評価方法 (合計100%)	授業参加態度（授業後に提出する受講シート、課題に関する提出物、グループワークなど各種取組への主体的参加などを総合して判断します。） 100%		
失格条件	出席状況（全回出席必須） 授業内課題の未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回の授業計画により、準備内容は異なりますが、事前に課題が出された場合には、予習としてその準備をします。事前に課題がない場合には、復習として授業後に授業内容を振り返り、それを各自記録にまとめておきます。どちらの場合も、4時間程度の時間をかけるのが望ましい。		
課題へのフィードバック	事前に課題が出された場合には、その解説を実施する。 課題発表やプレゼンテーションは講評を授業内で共有する。 フィードバックペーパーを課す場合は返却する。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	特になし		
その他	特になし		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU309C02	期間	前期																																													
授業科目名	社会人基礎力実践																																															
英訳科目名	Implementing Fundamental Competencies for Working Persons																																															
担当教員名	井上 陽、向井 光太郎																																															
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎																																													
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○																																													
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> △																																													
授業概要・ポイント	<p>「社会人基礎力」とは、将来社会に出て、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の三つを総合した力です。</p> <p>「前に踏み出す力」は、ものごとに進んで取り組んだり、他人に働きかけたり、目的をはっきりさせて行動する力です。「考え抜く力」は、現状をよく考えて何が問題なのかをはっきりさせたり、その問題を解決するために計画を立てたり、新しい考え方や方法を考え出したりする力です。そして、「チームで働く力」は、いろいろな人々とともに目標に向けて協力するための力で、自分の意見を分かりやすく伝え、相手の意見をきちんと聴き、お互いの違いを分かり合うとともに、自分と周りの人々の関係を理解し、社会や人々との約束を守り、きびしく苦しい状態になってもそれに向かい合うことができるような力です。</p> <p>この授業では、さまざま世界で活躍するプロフェッショナルが一部の講義を担当し、講師と学生とのコミュニケーションや演習を通して、これらの力を高めて実践できる人物になることを目指します。</p>																																															
到達目標	上記の三つの力はもとより、課題に向き合い考え抜く力、課題を解決する力、考えをまとめ発表する力、書く力、聴く力など、今まで自分に備わっていないと思っていた新しい力を、何か一つ以上、身につけることができる。																																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>イントロダクション</td> <td>コンセプトと目標</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>イメージからリアルへ</td> <td>社会進出のオプション拡大</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>コンタクトを身近に</td> <td>人的接触の勇気と浸潤へ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ケーススタディ1</td> <td>これからの時代の就職活動について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>商品からサービスへ</td> <td>サービス・マネジメントについて</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ケーススタディ2</td> <td>サービスにおける心持ちについて</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ケーススタディ3</td> <td>サービス・マネジメント実践研究</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>就職情報のインプット</td> <td>求人情報からのオプション拡大</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会への関心から</td> <td>グループで社会の課題発見と解決案</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>社会との関与へ</td> <td>課題解決に向けた心持ちと視野</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ケーススタディ4</td> <td>課題解決実践研究</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ケーススタディ5</td> <td>課題解決実践研究</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>プロへのフィールド</td> <td>自分が進出する世界をイメージする</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>プロへの誓い</td> <td>社会への関与・プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>振り返り</td> <td>メッセージの共有</td> </tr> </table> <p>社会で活躍される方々が講師として登壇する予定です。 講師のスケジュールにより、順序の変動が生じる場合があります。</p>			第1回	イントロダクション	コンセプトと目標	第2回	イメージからリアルへ	社会進出のオプション拡大	第3回	コンタクトを身近に	人的接触の勇気と浸潤へ	第4回	ケーススタディ1	これからの時代の就職活動について	第5回	商品からサービスへ	サービス・マネジメントについて	第6回	ケーススタディ2	サービスにおける心持ちについて	第7回	ケーススタディ3	サービス・マネジメント実践研究	第8回	就職情報のインプット	求人情報からのオプション拡大	第9回	社会への関心から	グループで社会の課題発見と解決案	第10回	社会との関与へ	課題解決に向けた心持ちと視野	第11回	ケーススタディ4	課題解決実践研究	第12回	ケーススタディ5	課題解決実践研究	第13回	プロへのフィールド	自分が進出する世界をイメージする	第14回	プロへの誓い	社会への関与・プレゼンテーション	第15回	振り返り	メッセージの共有
第1回	イントロダクション	コンセプトと目標																																														
第2回	イメージからリアルへ	社会進出のオプション拡大																																														
第3回	コンタクトを身近に	人的接触の勇気と浸潤へ																																														
第4回	ケーススタディ1	これからの時代の就職活動について																																														
第5回	商品からサービスへ	サービス・マネジメントについて																																														
第6回	ケーススタディ2	サービスにおける心持ちについて																																														
第7回	ケーススタディ3	サービス・マネジメント実践研究																																														
第8回	就職情報のインプット	求人情報からのオプション拡大																																														
第9回	社会への関心から	グループで社会の課題発見と解決案																																														
第10回	社会との関与へ	課題解決に向けた心持ちと視野																																														
第11回	ケーススタディ4	課題解決実践研究																																														
第12回	ケーススタディ5	課題解決実践研究																																														
第13回	プロへのフィールド	自分が進出する世界をイメージする																																														
第14回	プロへの誓い	社会への関与・プレゼンテーション																																														
第15回	振り返り	メッセージの共有																																														
評価方法 (合計100%)	授業でのパフォーマンス（コミュニケーション、課題、ワークなど）50% 授業でのアウトプット（コメント、プレゼンテーション、提出課題など）50%																																															
失格条件	3分の1以上の欠席																																															
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと(予習時間 1時間)。 また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で指示された課題等の作成を行うこと(復習時間 3時間)																																															
課題へのフィード バック	授業でのパフォーマンス・アウトプットについてその都度、もしくはその次の回にフィードバックを行ういます。																																															
教科書	不使用。																																															
著者名																																																
出版社																																																
参考書																																																
その他	定められている授業開始時刻から測って20分以上の遅刻は欠席とみなす。 遅刻3回で欠席1回とみなす。																																															
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。（向井）																																															
科目生への開講	なし																																															

ナンバリング	HS402B03	期間	後期
授業科目名	日本思想史		
英訳科目名	History of Japanese Thought		
担当教員名	小野 真龍		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	日本における主要な思想や思索者、著作について紹介、解説し日本人の思考の根底にあるものを探求する。日本思想は、古くからの神祇崇拜思想をベースとして、外来文化と出会うたび大きな変化を遂げてきた。特に神祇信仰と仏教文化との統合は日本思想のベースとなっている。その一方で、1500以上にわたり政治・文化の中心として天皇制を維持してきた。日本思想は天皇制に向き合わないわけにはいけない。これらの諸点が授業を理解するポイントとなる。		
到達目標	日本思想上の主要なエレメント及び思想家についての基本的な知識を得る。そのうえで、日本思想を俯瞰できる視点を獲得する。		
授業計画	第1～2回 日本思想の独自性への視点 第3～5回 古代日本思想：神話にあらわれた思想 第6～8回 中世(歴史物語・中世歴史書の思想 (『愚管抄』と『平家物語』 ほか) 第9～10回 近世(キリシタン思想、朱子学等) 第11～13回 近代(明治啓蒙思想とその展開) 第14～15回 現代(明治近代思想との対峙)		
評価方法 (合計100%)	期末に提出していただくレポート (40%) 内容の切れ目に提出していただくミニレポート×3回 (20%×3回)		
失格条件	6回以上の欠席。 期末レポートの不提出。 20分以上の正当な理由なき遅刻 (体調不良は理由とはならない)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	日本思想を学ぶうえで日本史の知識が基礎となるので、受講しようとするものは日本史についての理解を深めておくこと。また、毎回扱う範囲の日本史の知識を確認する予習が必要である。(予習2時間) また、毎回、授業で得られた知識を整理して、前回で扱った思想とどのように関連しているかを復習することが効果的である。(復習2時間)		
課題へのフィードバック	ミニレポートは授業中に、期末レポートについては希望者には講評によってフィードバックを行なう。		
教科書	『日本思想全史』		
著者名	清水正之		
出版社	筑摩書房 (ちくま新書)		
参考書	授業中に適宜指示する。		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS402B06	期間	前期
授業科目名	上方落語論		
英訳科目名	Studies in Japanese Rakugo (Comedy and Storytelling)		
担当教員名	桂 文我		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	江戸初期から続く上方落語の歴史を資料に基づき検証し、かつ噺の中身の吟味を行い、他の古典芸能や文学との関連も含めて講義する。		
到達目標	資料に基づく上方落語の歴史や落語を主とした他の古典芸能への造詣を深めることが出来るようになる。		
授業計画	第1回 上方落語の歴史 其の一 第2回 上方落語の歴史 其の二 第3回 上方落語の歴史 其の三 第4回 上方落語の歴史 其の四 第5回 上方落語の歴史 其の五 第6回 上方落語と江戸落語 第7回 落語の連記本 第8回 落語とレコード 第9回 減んでいる落語の再生 其の一 第10回 減んでいる落語の再生 其の二 第11回 落語と文学 其の一 第12回 落語と文学 其の二 第13回 落語と他の芸能 其の一 第14回 落語と他の芸能 其の二 第15回 全体のまとめ ※あくまでも予定ですので 進行状況により変更の可能性も有ります。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% レポート 70% テスト類はありません		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	積極的に落語鑑賞すること。(予習2時間・復習2時間)		
課題へのフィード バック	授業終了後に全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	落語家としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS402B07	期間	後期
授業科目名	日本文化特殊講義（大阪文化）/大阪文化特殊講義		
英訳科目名	Special Lecture on Osaka Culture		
担当教員名	釈 徹宗、桂 春團治		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>落語は、日本仏教の「お説教」の形態を色濃く残した特別な芸能です。また、さまざまな日本文化の要素を内容した、興味深い芸能でもあります。</p> <p>そもそも芸能の発生は、宗教儀礼と密接な関係にあります。人類がどのようにして宗教と芸能を生み出してきたか。そして、日本仏教と日本の芸能は、どのように展開してきたのでしょうか。双方を俯瞰することで、さまざまな領域の扉が開きます。</p> <p>本講では、学術的な講義、噺家の語り、伝統芸能の実演、三つのパートの組み合わせで進みます。毎回、落語家さんによる落語や、歌舞のお師匠方による実演を体験することができます。</p> <p>他に類例がないようなユニークな講義です。</p>		
到達目標	宗教と芸能の関係について深く学び、日本仏教や日本文化の特性を知り、落語を通して感受性豊かな精神を育むことができる。		
授業計画	<p>第1回 宗教と芸能について</p> <p>第2回 仏教と芸能について</p> <p>第3回 説教の技法</p> <p>第4回 日本の伝統芸能① 能楽</p> <p>第5回 歌いもの、語りもの</p> <p>第6回 日本の伝統芸能② 講談、浪曲</p> <p>第7回 東京落語と大阪落語</p> <p>第8回 落語を知る① 『醒睡笑』</p> <p>第9回 落語を知る② 名人伝</p> <p>第10回 落語を知る③ 見立て文化</p> <p>第11回 日本仏教と落語① 宗派仏教</p> <p>第12回 日本仏教と落語② 特徴的演目</p> <p>第13回 「寄席文化」を学ぶ</p> <p>第14回 浄土真宗の説教</p> <p>第15回 全講義を振り返る</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 50% レポート・課題・提出物 50%		
失格条件	期末の試験を欠席、あるいは期末のレポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>テレビやラジオなどで、落語を聞いてみよう。</p> <p>可能であれば寄席へ行ってみよう。</p> <p>能・狂言、文楽、歌舞伎などにも興味をもとう。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要な時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教・落語関係の本を読む…予習 135分（3時間） ・授業のプリントやノートを見直す…復習 45分（1時間） 		
課題へのフィードバック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	『落語に花咲く仏教 宗教と芸能は共振する』（朝日新聞出版社）		
著者名	釈徹宗		
出版社	朝日新聞出版		
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（釈） 落語家としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（桂）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B01	期間	後期
授業科目名	宗教学概論B		
英訳科目名	Introduction to Religious Studies B		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教を俯瞰するところから始まり、さまざまな宗教を各論的に取り扱っていきます。また、哲学・社会学・心理学・文化学など多くの領域と関連させながら宗教について考えてみましょう。</p> <p>伝統的宗教からカルト教団や超常現象問題まで、宗教を通じて「社会」や「人間」へとアプローチしていく。それは、意外と自分自身を見つめ直す手がかりとなり、異文化や他者理解へのきっかけとなります。</p>		
到達目標	宗教を通して社会や人間を見る眼をもつことができる。		
授業計画	<p>第1回 宗教学の基礎(1) アニミズム、シャーマニズム</p> <p>第2回 宗教学の基礎(2) 死の問題</p> <p>第3回 呪術について考える</p> <p>第4回 宗教の機能について考える</p> <p>第5回 宗教組織</p> <p>第6回 聖なる空間</p> <p>第7回 宗教と世俗社会</p> <p>第8回 宗教と政治・経済</p> <p>第9回 仏教の基礎を学ぶ (1) 「建学の精神」のおさらい</p> <p>第10回 仏教の基礎を学ぶ (2) 日本仏教を知る</p> <p>第11回 イスラームについて学ぶ(1) イスラームの基礎</p> <p>第12回 イスラームについて学ぶ (2) 現代社会について考える</p> <p>第13回 カルト宗教について学ぶ(1) マインドコントロール</p> <p>第14回 カルト宗教について学ぶ(2) 世界のカルト事件</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 試験 60%		
失格条件	期末の試験に欠席、あるいは期末のレポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>身の周りの「宗教的なもの」を見つけてみる。</p> <p>世界の宗教事情に興味をもつ。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習2時間 ・授業のプリントやノートを見直す…復習2時間 		
課題へのフィードバック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	異教の隣人		
著者名	釈 徹宗		
出版社	晶文社		
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B02	期間	後期
授業科目名	仏教学概論B		
英訳科目名	Introduction to Buddhist Studies B		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>仏教という宗教の輪郭と特性を学ぶ。ブッダの基本的な立脚点と思想的方向性を知り、人間の心身のメカニズム、悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての教説を考察する。そして、世界に大きく展開した仏教を、特に大乘仏教ムーブメントの必然性とその目指した理念を中心に学ぶ。さらに、大乘仏教のひとつの到達点としての日本仏教、浄土教について理解を深める。仏教の「社会性」「地域性」「他者性」などの特徴を見据え、仏教の思想を自身の生き方の問いとして思索していく姿勢を考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>ブッダの思想、大乘仏教の特徴、日本仏教の要点を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付けることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 人間と宗教・仏教 第3回 ブッダの問い 第4回 仏教の展開 第5回 部派仏教と大乘仏教 第6回 仏像と大乘経典 第7回 浄土教 第8回 中国仏教 第9回 日本仏教 第10回 日本浄土教 第11回 鎌倉仏教 第12回 法然聖人と親鸞聖人 第13回 親鸞聖人の思想①基礎 第14回 親鸞聖人の思想②発展 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、授業への参加態度(参加状況)40%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス <p>仏教・宗教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。思想研究に必要な、辞書や参考図書の扱い方を身に付け、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間 <p>講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分)</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B03	期間	後期
授業科目名	哲学概論		
英訳科目名	Introduction to Psychology		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>テーマで読む哲学</p> <p>本講義では、テーマごとに何人かの思想家をピックアップして、彼らの考えを紹介していきます。また、彼らの歩んだ人生にも注目します。とても厄介なものに思われる哲学も、テーマと人物から見ていくことで、身近に感じられるかもしれません。日常とは違う考え方に触れてみましょう。</p>		
到達目標	各テーマについて哲学者たちの見解に触れ、人間や社会を見るための多様な視点と、観察力、分析力、発想力を身につける。		
授業計画	<p>第1回 真理①（プラトン、カント）</p> <p>第2回 真理②（ニーチェ、デリダ、グッドマン）</p> <p>第3回 自然と科学①（ソクラテス以前の思想家たち、フランシス・ベーコン）</p> <p>第4回 自然と科学②（ヒューム、クーン、ファイヤーアーベント、）</p> <p>第5回 社会と個人①（ロック、ルソー）</p> <p>第6回 社会と個人②（ロールズ、ノージック）</p> <p>第7回 言語と論理①（ソシュール、フレーゲ）</p> <p>第8回 言語と論理②（ウィトゲンシュタイン、オースティン）</p> <p>第9回 生と死①（ソクラテス、ショーペンハウアー）</p> <p>第10回 生と死②（ハイデガー、ジャンケレヴィッチ）</p> <p>第11回 心と身体①（デカルト、メルロ＝ポンティ）</p> <p>第12回 心と身体②（チャーチランド、大森荘蔵）</p> <p>第13回 経験①（ジェームズ、ベルクソン）</p> <p>第14回 経験②（フッサール、西田幾多郎）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>レポート提出50%</p> <p>講義への参加態度50%</p> <p>レポートには、期末レポートだけでなく、学期中に課す小レポートや、定例礼拝に出席したさいのレポートを含めます。</p> <p>講義への参加態度は、聴講態度や講義中の意見、毎回の講義後に書いてもらう感想シート、小テストを含めて総合的に判断します。</p>		
失格条件	出席回数が授業全体の3分の2に満たなかった場合、失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義中に、前回分の講義の内容確認のため、小テストを実施することがあります。		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で全体に向けてコメントします。		
教科書	講師が作成したプリントを用います。		
著者名			
出版社			
参考書	使用するプリントに掲載、あるいは講義中必要に応じて板書で紹介します。		
その他	月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401A02	期間	前期
授業科目名	パーリ語入門		
英訳科目名	Elementary Pali Scriptures		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>本学の入学式・卒業式、定例礼拝などの音楽法要で唱えられている敬礼文・三帰依は、「パーリ (p?li)」と呼ばれる言語を用いています。パーリ語は古代インド語の中でも仏教共通語として誕生した聖典言語で、スリーランカーおよびインドシナ半島に広がる上座仏教圏の仏教文献に残っています。またパーリ語の敬礼文・三帰依は全世界共通で使われてもいます。授業では簡単なパーリ語経文を読みながら、誰にでも理解できるように分かりやすく解説していきます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽法要での敬礼文・三帰依の意味を理解して唱えられるようになる 2. パーリ語の経典を現代日本語に訳せるようになる 3. 上座仏教圏で人気のある『吉祥経』を唱えられるようになる 4. パーリ語を通してインドの言語・文化を理解できるようになる 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 パーリ語入門への誘い 第2回 インドの言語とパーリ語 第3回 パーリ語と仏教 第4回 敬礼文・三帰依を読もう 第5回 パーリ語の五戒を読もう ① 第6回 パーリ語の五戒を読もう ② 第7回 『吉祥経』を読もう ① 第8回 『吉祥経』を読もう ② 第9回 『吉祥経』を読もう ③ 第10回 『吉祥経』を読もう ④ 第11回 『吉祥経』を読もう ⑤ 第12回 『吉祥経』を読もう ⑥ 第13回 『吉祥経』を読もう ⑦ 第14回 『吉祥経』を読もう ⑧ 第15回 まとめ 		
評価方法 (合計100%)	予習・復習の状況、および授業への参加態度（発表を含む） 100%		
失格条件	授業回数の1/3以上の欠席と授業への参加態度が悪かった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	毎回、輪読するテキストの予習に3時間とその復習に1時間。		
課題へのフィード バック	授業の性格上、予習が大部分を占めるので、講義中にフィードバックを行います。		
教科書	増補改訂 パーリ語辞典		
著者名	水野弘元		
出版社	春秋社		
参考書	必要なものは授業中に指示します。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B04	期間	集中
授業科目名	宗教儀礼概論		
英訳科目名	Introduction to Religious Ritual		
担当教員名	福本 康之		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>儀礼は、宗教において欠かすことのできない文化のひとつで、そのスタイルは宗教ごとに、あるいは同じ宗教でも派や地域、時代によって様々です。</p> <p>本科目では、様々なスタイルの宗教儀礼に慣れ親しむことを第一の目的とします。その上で、それぞれの宗教儀礼について、その構成や変遷、位置づけなどについて学び、考えたいと思います。</p> <p>なお授業では、具体的な儀礼を映像や音源等によって経験し、意見を交換しつつ理解を深めていただきたいと思います。</p>		
到達目標	<p>宗教における儀礼とは、様々な場面において様々な形態をとります。本講義では、主な宗教儀礼について、それぞれの儀礼がもつ歴史的な背景や形態についての理解を深めることを到達目標としています。</p>		
授業計画	<p>第1回 「宗教儀礼」について考える 「宗教儀礼」とは何か？——この語の意味するところを考える</p> <p>第2～3回 仏教諸宗派の儀礼に親しむ 第2回 仏教各宗派の主な儀礼について 1—共通の儀礼について 第3回 仏教各宗派の主な儀礼について 2—各宗派個別の儀礼について</p> <p>第4～5回 浄土真宗の儀礼に親しむ 第4回 浄土真宗の儀礼について 1—本願寺派の儀礼について 第5回 浄土真宗の儀礼について 2—本願寺派と他派の比較</p> <p>第6～9回 諸宗教の儀礼に親しむ 第6回 キリスト教の儀礼について 第7回 イスラム教の儀礼について 第8回 神道および日本の諸宗教について 第9回 世界の様々な宗教について</p> <p>第10～12回 宗教儀礼の構成 第10回 宗教儀礼を構成する諸要素について 第11回 宗教儀礼の時間的構成について 第12回 宗教儀礼の空間的構成について</p> <p>第13～14回 宗教儀礼の歴史 第13回 宗教共同体（教団）と儀礼 第14回 社会と宗教儀礼—葬儀を中心に</p> <p>第15回 再び「宗教儀礼」について考える 必要に応じて、学外実習等を行う場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（参加状況）：50% レポート提出：50%</p>		
失格条件	<p>以下のいずれかに該当するものは、失格とします。</p> <p>1) 試験を受けなかった者 2) 出席回数が、講義回数の3分の2に満たない者（30分以上の遅刻は欠席とします）</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>はじめて見聞きする儀礼が多いと思います。予習段階では、次回の授業内容に関する基本的事項についてを確認する程度（約30分）が良いですが、授業後の復習では、授業で採り上げた儀礼の具体的な内容について、実際に体を動かし、ある程度身体化することを目指してください（約150分）。なお、機会があれば実際に、寺院や神社等で行われる儀礼に足を運ぶことをおすすめします。</p>		
課題へのフィード バック	<p>課題提出後全体に向けコメントします。</p>		
教科書	各講義時に資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	映像及び音源資料を含め、各講義時に紹介します。		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC402B02	期間	前期
授業科目名	宗教史		
英訳科目名	History of Religion		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>本講義では、「人類にとっての宗教」という視点から始まり、世界各地における宗教を概観していきます。そして後半は日本の宗教に特化して講義を進める予定です。</p> <p>社会の変容と宗教の展開を合わせて考察することは、これからの社会や人間のありようを模索する際に非常に重要です。人類における宗教の展開を学ぶことで、現代社会や現代人を見る眼を養いましょう。</p>		
到達目標	宗教の営みを通して人間や社会を再解釈することができる。		
授業計画	<p>第1回 人類と宗教の歴史 (1) 人類の第一波、古代の神々</p> <p>第2回 人類と宗教の歴史 (2) アクセルペリオド</p> <p>第3回 世界宗教史 (1) エジプトの宗教・ギリシャの宗教</p> <p>第4回 世界宗教史 (2) ゾロアスター教</p> <p>第5回 ヒンドゥー教を学ぶ (1) 輪廻と解脱</p> <p>第6回 ヒンドゥー教を学ぶ (2) 現代への影響</p> <p>第7回 神道を学ぶ (1) 歴史と構造</p> <p>第8回 神道を学ぶ (2) ケガレと祓い</p> <p>第9回 ユダヤ教を学ぶ (1) 律法について</p> <p>第10回 ユダヤ教を学ぶ (2) タブーについて</p> <p>第11回 ユダヤ教を学ぶ (3) イスラエル問題</p> <p>第12回 カルト宗教について(1)カルト宗教事件</p> <p>第13回 カルト宗教について(2)マインドコントロール</p> <p>第14回 振り返りとまとめ・内容理解の確認</p> <p>第15回 試験</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	期末の試験を欠席、あるいは期末のレポートを提出しなかった者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。</p> <p>大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習 2時間 ・授業のプリントやノートを見直す…復習 2時間 		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B05	期間	後期
授業科目名	仏教史		
英訳科目名	History of Buddhism		
担当教員名	直海 玄哲		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>仏教は、シャカが悟りを開いて以来、アジアの諸地域において、それぞれの地域の文化や社会制度の影響を受けて変遷しながら、今日世界宗教として広く信仰をされるに至った。その歴史的過程を学ぶのが仏教史である。</p> <p>仏教史は、仏教教学史と仏教教団史に大別できる。教学史では仏教思想がシャカに創唱されて以来、どのようにその教えに対する理解が深められてきたかを学ぶ。また、教団史では、仏教が伝播した社会と相互に如何に影響し合い、その結果仏教徒やその教団がどのように変化したか、すなわち、仏教自身の歴史的変遷を学ぶ。</p> <p>一方、各時代・各地域に仏教が伝播したことにより、その社会も仏教より大きな影響を受ける。仏教が世界宗教として人類共通の普遍的価値をもつならば、時間的には各時代を通じ、空間的には各地域や国家を貫いて、それぞれの時代や社会を分析する有効な視座となる。この仏教という視座より、歴史を明らかにしようとする試みもまた仏教史という学問である。</p> <p>本講では、仏の悟りの境地を明らかにしようという方向と、世俗化していく方向とが、反発しながらも影響し合い、インドより東アジアへと伝わる過程を概述する。</p>		
到達目標	15回の講義を通じて、「歴史的に仏教と社会を考える力」を身につける。		
授業計画	<p>第1回 はじめに～仏教史とは、どのような学問か～</p> <p>第2回 インド仏教の歴史①～原始仏教教団～</p> <p>第3回 インド仏教の歴史②～部派分裂～</p> <p>第4回 インド仏教の歴史③～大乘仏教興隆の歴史的意義～</p> <p>第5回 インド仏教の歴史④～仏像は偶像か？～</p> <p>第6回 仏教の伝播①～西へ向かう仏教～</p> <p>第7回 仏教の伝播②～地域と仏教～</p> <p>第8回 前半のまとめ</p> <p>第9回 中国仏教の歴史①～経典翻訳の限界と創造～</p> <p>第10回 中国仏教の歴史②～民衆経典の成立～</p> <p>第11回 中国仏教の歴史③～廃仏と国家仏教～</p> <p>第12回 中国仏教の歴史④～中国浄土教の系譜～</p> <p>第13回 中国仏教の歴史⑤～仏儒道の関係～</p> <p>第14回 日本と中国</p> <p>第15回 後半のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	受講態度・・・30% 講義中の小テスト等（礼拝レポートを含む）・・・30% レポート・・・40%		
失格条件	出席が所定の回数に満たない場合は失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>仏教史の講義では、仏教用語だけでなく、歴史用語も使われる。授業で習った学術用語で理解できなかった言葉を丁寧に調べる習慣をもってもらいたい（予習2時間）。</p> <p>また、与えられた内容を覚えるだけでなく、授業で提起された問題を考える時間を大切にしてほしい（復習2時間）。</p>		
課題へのフィードバック	講義中の小テストに関しては、テスト返却時に全体にコメントする。レポートについては、提出後にポータルサイトを通じてコメントする予定である。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	新アジア仏教史01～10（佼成出版社、2010年～2011年）		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B06	期間	前期
授業科目名	真宗史		
英訳科目名	History of Shin Buddhism		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、独特な宗教性や人間観を特徴として人々に受け継がれ展開した。そして大谷廟堂から発展した本願寺は蓮如上人によって大教団へと拡大され、社会的に大きな影響をもつようになる。</p> <p>この講義では、親鸞聖人の生涯、本願寺の成立、蓮如上人と教団の拡大、東西本願寺の分立、現代にいたる本願寺などを中心に、浄土真宗の歴史についてその背景と展開を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>親鸞聖人の生涯と浄土真宗の歴史について基本的な事柄を理解し、人間の姿・宗教性・社会と宗教のかかわりなどを踏まえて、日本の文化形成や歴史の特徴について考える視点を身に付けることができるようになる。</p> <p>大学での学び、仏教の思想を通して、自身の生き方を問う姿勢を身に付けることを目指す。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション 第2回 親鸞聖人の生涯（1）誕生～吉水 第3回 親鸞聖人の生涯（2）越後～関東 第4回 親鸞聖人の生涯（3）帰洛～往生 第5回 大谷廟堂と門弟 第6回 本願寺の成立（1）基礎 第7回 本願寺の成立（2）発展 第8回 蓮如上人と教団の拡大（1）基礎 第9回 蓮如上人と教団の拡大（2）発展 第10回 東西本願寺の分立 第11回 近世の本願寺教団（1）基礎 第12回 近世の本願寺教団（2）発展 第13回 現代にいたる本願寺（1）基礎 第14回 現代にいたる本願寺（2）発展 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、講義への参加態度（参加状況）40%。		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身のまわりの「宗教的なもの」「仏教的なもの」「寺院」を観察してみよう。 浄土真宗、親鸞聖人、蓮如上人の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。 ・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や浄土真宗教義・仏教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や浄土真宗教義・仏教思想について整理する………復習 2時間（90分） 		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。講義時にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	講義中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」やその他の宗教行事へ参加し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC402C01	期間	前期
授業科目名	日本仏教史 A		
英訳科目名	History of Japanese Buddhism A		
担当教員名	直林 不退		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教・仏教という何か縁遠いと感じる傾向がつよい。その一因として、私たちは、ややもするとその思想の特質のみを、人間社会の現実から、そして自分自身から切り離して、捉えがちではないだろうか。どんな宗教も、苦悩を抱えながら歩み続ける人間に、生きる力を示してこそ、その存在意義があるといえよう。</p> <p>インドで成立した仏教は、中国をはじめとするアジア諸地域を經由して、日本列島にもたらされた。そして、日本列島に住む人々は、仏教とのあいを経験することによって、何を受けとりどのように生き、そして死と向き合っていたのであろうか。</p> <p>一方、アジアの各地域で多彩なひろがり示した仏教それ自体も、日本に受容されることによって、かなり変容したようである。仏教は日本において、いかにその姿を変えていったのか。確かに仏教の世界的なスタンダードと比較した場合、日本仏教のあり方は極めて異彩を放っているといえよう。</p> <p>この授業では、「仏教の受容と変容」というテーマを中心として、古代・中世初頭の仏教史を、ともに考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>①日本仏教のなりたちについて、インド中国などでの展開を踏まえて、各時代の政治・経済・外交・民衆の動向などと関連付けて、幅ひろく把握できる。</p> <p>②単に過去の歴史事象について、それを客観的に理解するだけでなく、現代社会における仏教のありかたや自身自身の問題をも視野に含めた身近なものとして捉え、将来を考える際の歴史的問題意識を持つことができる。</p> <p>③これまでの研究成果を、広範に系統立てて整理し、自分なりの歴史像を描くことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 仏教史の学びとは何か？ 第2回 インド仏教のあゆみ・出家できない人々の救い 第3回 中国仏教の歴史的特色・日本仏教への道筋 第4回 仏教受容のはじまり・渡来系氏族と仏教 第5回 ヤマトの豪族にとっての仏教 第6回 聖徳太子（厩戸皇子）の仏教をめぐる 第7回 仏教「制度化」の進展 第8回 国家と仏教 第9回 仏教の社会的ひろがり・僧尼令僧綱制の克服 第10回 最澄の生涯と空海 第11回 最澄の大乗戒壇の歴史的意義 第12回 浄土教のひろがり 第13回 鎌倉仏教の歴史的評価・新仏教中心史観 第14回 鎌倉仏教の歴史的評価・最近の研究 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 15% 授業中の小テスト課題の評価 15% 期末レポート 70% 本学の「定例礼拝」参加レポートも加味する。</p>		
失格条件	授業への出席や積極的参加の姿勢を著しく欠く場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業に先立って、前回の内容から連なる重要なテーマについて、様々な媒体を通じて予備知識を身に付け、授業内容のあらましが理解できるようにしてほしい。</p> <p>授業後は、その日の配布資料の空欄を埋めるとともに、自分のノートなどをよく確認し、紹介した参考文献を実際にひもとき、復習に努める。</p> <p>毎回の予習時間は2時間（90分）、復習時間は2時間（90分）以上とすること。</p>		
課題へのフィードバック	授業中に実施した小テストや課題は、採点またはコメントを付けて個別に返却する。あわせて全体に向けてコメントを行う。		
教科書	特に定めない。 毎回必ず、参考文献を紹介する。 資料などは、毎回配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	直林『構築された仏教思想 妙好人・日暮の中にほとぼるの真実』（佼成出版社）2019年		
その他	特になし		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC402C02	期間	後期
授業科目名	日本仏教史 B		
英訳科目名	History of Japanese Buddhism B		
担当教員名	直林 不退		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>日本の仏教は、古代にインド・中国などのアジア諸国からもたらされ、律令国家によって強固な制度の枠をはめられた。それを克服するために、戒律の変革など日本独自の特徴を持つにいたり、鎌倉時代に多彩な宗派の成立をみるに至る。</p> <p>そして、中世以降ひろく社会に幅広く浸透し、多くの人々の生活の中に根をはっていった。</p> <p>しかし、近世には、江戸幕府の寺院政策によって、「寺檀制度」という枠組みがはめられ、仏教の活力が次第に失われていった、と捉えられている。その一方で、日本の津々浦々にまでひろがった仏教によって、日本人の毛細血管の隅々にまでいきわたり、豊かな精神性を育み、多彩な文化を創造してきたのも、まぎれもない事実なのだ。</p> <p>そして、明治以後の「近代化」や第二次世界大戦後の社会構造の急激な変化によって、現代の日本仏教は、大きな岐路に立たされているといつてよい。</p> <p>いま、人々の「仏教離れ」がさげられる状況下にあつて、現代の宗教状況に直結する中世・近世・近代の仏教の歩みを辿ってみよう。</p>		
到達目標	<p>①日本の中世以後の仏教の歴史的展開について、古代までの歩みを踏まえううえで、各時代の政治・経済・外交などの状況との関係において、幅広く捉えることができる。</p> <p>②特に、近世・近代に関しては、今までの「通説」にとらわれずに、新しい資料や視点に立脚して、多角的に考えられる。</p> <p>③日本仏教の歩みを振り返ることによって、そのあるべき将来像も、色々と模索できることをめざす。</p> <p>④特に「日本仏教史A」で明らかにした日本仏教の独自性が、今後どのような意味を持ち得るかを展望できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 前期（日本仏教史A）の復習 第2回 鎌倉新仏教の諸相<念仏・禅・法華経信仰> 第3回 鎌倉旧仏教の刷新 第4回 仏教史叙述のはじまり 第5回 仏教の社会的ひろがり・室町期の仏教 第6回 戦国期の仏教 第7回 江戸幕府の宗教政策 第8回 近世仏教の制度的実態 第9回 江戸宗学の発達 第10回 生活の中の仏教 第11回 排仏論のたかまり 第12回 明治維新期の仏教 第13回 「近代化」と仏教 第14回 大正・昭和期の仏教 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 15% 授業中の小テスト課題の評価 15% 期末レポート 70% 本学の「定例礼拝」参加レポートも加味する。</p>		
失格条件	<p>授業への出席や積極的参加の姿勢を著しく欠く場合、失格とする。</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>授業に先立って、前回の内容から連なる重要なテーマについて、様々な媒体を通じて予備知識を身につけ、授業内容のあらましを把握するよう努める。 授業後は、その日の配布資料の空欄を埋めるとともに、自分のノートなどをよく確認し、紹介した参考文献を実際にひもとき、復習を行う。 毎回の予習時間は2時間（90分）、復習時間は2時間（90分）以上とすること。</p>		
課題へのフィードバック	<p>授業中に実施した小テストや課題は、個別に採点コメントを付けて返却する。 あわせて全体にコメントを行う。</p>		
教科書	<p>特に定めない。 毎回必ず、参考文献を紹介する。 資料などは、毎回配布する。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	直林『構築された仏教思想 妙好人 日暮の中にほとぼしる真実』（佼成出版社）2019年		
その他	特になし		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC407B01	期間	前期
授業科目名	仏教思想論		
英訳科目名	Studies of Buddha's Teachings		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	アジア大陸のほぼ東半分に影響を及ぼし、約2500年の歴史を持つ仏教の思想は、人類の英知といっても過言ではない。しかしながら、その仏教の思想は？となると、あまりにも複雑多岐にわたり、窮めて難解でもあり、容易に答えられるものでもない。が、ものごとは「千里の行も足下に始まる」という。大いなる一步を今踏み出し、受講者とともに仏教の思想の海原へ權を下ろし、船をこぎ出そうと思う。そしてその仏教思想をもとに現代社会を生き抜く術を身につけよう。		
到達目標	① 仏教の思想を身につけることで洞察力と思考力を身につけることができる。 ② 身につけた仏教の思想をもとに、現代社会を生き抜くことができる。		
授業計画	第1回 真実は「内なる異文化」の中に：仏教思想論への誘い 第2回 仏陀が見た「真理」について 第3回 「真理」と「慈悲」：仏教の外部性について 第4回 「縁起」攷①：縁起の基本的な考え 第5回 「縁起」攷②：縁起の解釈の変遷 第6回 「空」という思想：般若思想の登場 第7回 究極の真理へ：中観思想について 第8回 「ホトケになる」ということ：仏性論について 第9回 「死者」という他者との出逢い：阿弥陀仏信仰の登場 第10回 「唯識」について：アドラーから仏教心理学へ 第11回 私の心が仏になる：「是心是仏」をめぐる 第12回 「自然」について 第13回 本覚思想：日本の仏教の特質 第14回 親鸞は何を見たのか：『大乘涅槃經』をめぐる問題 第15回 再び「内なる異文化」について：まとめとして		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（毎回のコメント）60%とレポート40%の総合評価		
失格条件	講義回数の3分の1以上の欠席とレポートを出さなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で取りあげる仏教のことばなどについて、事前に調べておく。 授業の後は、ノート整理をして、内容を把握するよう努める。 毎回の予習時間は2時間（90分）、復習時間は2時間（90分）以上とること。		
課題へのフィード バック	毎回のコメント（簡単な課題や質問）について、その次の回にフィードバックを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適宜紹介する。		
その他	月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC402C03	期間	前期
授業科目名	宗教哲学		
英訳科目名	Philosophy of Religion		
担当教員名	小野 真龍		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教哲学という領域は、哲学の枠組みを前提とする。宗教を批判的自覚する哲学的立場が、宗教哲学であるといえよう。</p> <p>また、哲学が人間とは何かという問いから発せらる限り、死という不可知なものを含みそれに回答を与える宗教との関わりを欠くことはできない。</p> <p>それゆえ、あらゆる哲学は、宗教を否定するにしても、広い意味で宗教哲学でもある。</p> <p>本講義では、宗教哲学の必要な知識を獲得し、宗教を（常に否定的ではなく）批判的に（critically）自覚する思考方法を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>代表的な宗教者・哲学者の思想を理解して、宗教哲学の基礎的な知識を得るとともに、彼ら共通の思考方法を通じて、宗教哲学的思考のあり方に触れる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション～宗教哲学とは？ 以下教科書に沿って検討していく</p> <p>第2回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）①</p> <p>第3回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）②</p> <p>第4回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）③</p> <p>第5回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）④</p> <p>第6回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）⑤</p> <p>第7回 第二章 日本思想（親鸞、夏目漱石、西田幾多郎など）①</p> <p>第8回 第二章 日本思想（親鸞、夏目漱石、西田幾多郎など）②</p> <p>第9回 第二章 日本思想（親鸞、夏目漱石、西田幾多郎など）③</p> <p>第10回 第三章 西洋近代思想（ルター、カント、ヘーゲルなど）①</p> <p>第11回 第三章 西洋近代思想（ルター、カント、ヘーゲルなど）②</p> <p>第12回 第三章 西洋近代思想（ルター、カント、ヘーゲルなど）③</p> <p>第13回 第四章 現代思想（マルクス、実存主義、フーコーなど）①</p> <p>第14回 第四章 現代思想（マルクス、実存主義、フーコーなど）②</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度、学期末の試験（あるいはレポート）を総合的に評価する（100%）。		
失格条件	3分の1以上の欠席、または、学期末の課題（試験あるいはレポート）を放棄した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>教科書を読み進める形で行うが、受講生の数によっては、前回の授業のテーマを担当者を決めて、掘り下げてレポートしてもらうことも考えている。</p> <p>なお、一回の授業に対して、予習1時間、復習3時間の授業時間外の学修が必要である。</p>		
課題へのフィード バック	<p>毎回、興味あるテーマを選んで発表をしてもらうが、その都度、テーマの調査やプレゼンテーションの仕方などについても課題を指摘する。</p> <p>また、テーマ内容についても、発表者の興味を読み取って、研究すべき思想家を挙げて、さらなる思索の展開を促す。</p>		
教科書	『はじめての哲学・宗教』		
著者名	相澤理		
出版社	大和書房		
参考書	適宜指示する。また、必要があればその都度の授業で参考資料を配布する。		
その他	<p>正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。</p> <p>遅刻3回で欠席1回とみなす。</p> <p>月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。</p>		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC403B02	期間	集中
授業科目名	宗教心理学		
英訳科目名	Psychology of Religion		
担当教員名	釈 徹宗、名越 康文		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	アドラー心理学を軸とした人間関係論を学び、カウンセリングの実際を学ぶ。また、仏教における人間の精神的成長の過程を心理学的に様々な角度から検証し、われわれ21世紀に生きる人間の実生活上の悩みや苦しみ、願望や理想に即した解説と実践論を展開する。これがいわば当面の本連続講義の縦軸である。これを相互的に補足すべく、日本全体の祖といわれる野口春哉の創出した「体癖論」を、臨床心理学的に再構成した気質・性格論を平行して講義する。つまり、縦軸に密教的発達論、横軸に気質・性格分類学を配置して、人間をより包括的にかつ実践的に論じることが本学科の目的である。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心の成り立ちとその成長過程が把握出来ること。 ・心の制御と成長に必要な実践法が理解され、自らも意志があれば行えたり人に説明することが出来るようになること。 ・気質・性格論を理解し、ある程度他者や自己の気質や行動の理由を推量できるようになること。 		
授業計画	第1回 講義の流れ、趣旨、の説明。体癖論と秘蔵宝鑑の成り立ちについて 第2回 体癖論と秘蔵宝鑑の成り立ちについて（基礎） 第3回 体癖論と秘蔵宝鑑の成り立ちについて（発展） 第4回 宗教心理学の基礎。体癖論の各論。心とは何か、なぜ制御しなければならないのか 第5回 宗教心理学における二つの流れ。体癖論各論。秘蔵宝鑑全体の解説およびその思想性について 第6回 仏教思想と心理学。体癖論各論。具体的な心へのアプローチについて・第一住心との関連において 第7回 体癖論各論。具体的な心へのアプローチ、そのバリエーションについて 第8回 体癖論各論。第二住心すなわち方便としての心へのアプローチとその世界観について 第9回 体癖論各論。第三住心の人間観・世界観について 第10回 体癖論各論。第四・第五住心の心理学的展開について 第11回 体癖論各論。第六・第七住心の心理学的展開について 第12回 体癖論各論。第八・第九住心の心理学的展開について 第13回 体癖論まとめ。第十住心の心理学的展開について（基礎） 第14回 体癖論まとめ。第十住心の心理学的展開について（発展） 第15回 講義まとめ		
評価方法 (合計100%)	レポートの提出100%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を受けないこと。 ・講義の内容を把握していないこと。こちらが求めるクオリティのレポートを提出できないこと。 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	名越康文『自分を支える心の技法』（医学書院）を通読しておいて下さい。		
課題へのフィード バック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	『自分を支える心の技法』 医学書院 『どうせ死ぬのになぜ生きるのか』 PHP新書 『体癖論バックナンバー』 http://nakoshiyasufumi.net/		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（釈） 精神科医としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（名越）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC404B01	期間	前期
授業科目名	仏教と社会福祉		
英訳科目名	Buddhism and Social Welfare		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>●社会福祉とは何か、お寺には何ができるのか</p> <p>福祉とは支援を必要とする人にサービスを提供すること、あるいはそのための制度を指しますが、もともとは「しあわせ」を意味する言葉です。仏教僧は、慈悲の精神を背景として古くから福祉的な活動を行って来ました。行政施策としての社会福祉と、仏教者が行ってきた福祉的な活動とは、どのような点で共通し、どのような点で相違しているのでしょうか。</p> <p>本講義は社会福祉の歴史を振り返り、仏教者が行ってきた福祉的な活動について学びます。講義を通して、「社会福祉とはなにか、お寺には何ができるのか」を考えていきましょう。</p>		
到達目標	<p>現代の社会福祉の大枠を捉え、その根本にある思想について理解する。</p> <p>講義やレポート提出を通して、受講者自身が、今後の寺院や僧侶のあり方について考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODakション：講義の概要や進行方法、評価の仕方について</p> <p>第2回 社会福祉の歴史（国家による社会福祉の制度はどのように生まれ、発展してきたか？）</p> <p>第3回 日本の社会保障制度（どのような制度やサービスがあるのか？）</p> <p>第4回 日本の社会保障と財政危機（年金・医療・介護…お金は大丈夫？）</p> <p>第5回 宗教と社会福祉（宗教は福祉とどのように関わってきたか）</p> <p>第6回 宗教と社会福祉（キリスト教と社会福祉）</p> <p>第7回 仏教福祉の歴史①（仏教者はどう行動してきたか？古代～中世）</p> <p>第8回 仏教福祉の歴史②（仏教者はどう行動してきたか？近世～近代）</p> <p>第9回 現代日本、宗派・寺院・僧侶による取り組み①（コミュニティのツナガリを求めて）</p> <p>第10回 現代日本、宗派・寺院・僧侶による取り組み②（生老病死にかかわる）</p> <p>第11回 現代日本、宗派・寺院・僧侶による取り組み③（社会問題に取り組む）</p> <p>第12回 社会貢献活動の主体と活動の持続可能性 （どのような制度を使い、どのような手順を踏んで始めるのか？活動を続けていくには？）</p> <p>第13回 社会貢献活動における寺院の利点（お寺が持っている強みとは？）</p> <p>第14回 宗教者としての僧侶の葛藤（活動を行う僧侶は何に悩むのか？）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>レポート提出50%</p> <p>講義への参加態度50%</p> <p>レポートには、期末レポートだけでなく、学期中に課す小レポートや、定例礼拝に出席したさいのレポートを含めます。</p> <p>講義への参加態度は、聴講態度や講義中の意見、毎回の講義後に書いてもらう感想シート、小テストを含めて総合的に判断します。</p>		
失格条件	出席回数が授業全体の3分の2に満たなかった場合、失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義中に、前回分の講義の内容確認のため、小テストを実施することがあります。		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で全体に向けてコメントします。		
教科書	講師が作成したプリントを用います。		
著者名			
出版社			
参考書	使用するプリントに掲載、あるいは講義中に必要に応じて板書により紹介します。		
その他	月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC407B02	期間	前期
授業科目名	真宗学概論		
英訳科目名	Introduction to Jodo Shinshu Teaching/Introduction to Shin Buddhism Studies		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えを体系的に学ぶ。悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての釈尊の教え、親鸞聖人が歩んだ念仏の生活などについて概観する。</p> <p>講義では、『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）をはじめとした親鸞聖人の著述を通して、浄土三部経の教えと真宗教義の要点を窺う。</p> <p>親鸞聖人の求道と、その結果出遇われ、明らかにされた真実の教えを学ぶことを通して、仏教の思想を自身の問いとして思索していく姿勢を考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>浄土真宗の教義、親鸞聖人の生涯の問いについての基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付けることができる。大学での学び、建学の精神を通して、自身の生き方を見つめることの大切さを考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODダクシヨン</p> <p>第2回 釈尊の教えと大乘仏教</p> <p>第3回 日本の仏教と浄土教</p> <p>第4回 法然聖人と親鸞聖人</p> <p>第5回 親鸞聖人の生涯の問い</p> <p>第6回 親鸞聖人の著述</p> <p>第7回 親鸞聖人の教え「人間」</p> <p>第8回 親鸞聖人の教え「阿弥陀仏」</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え「本願」</p> <p>第10回 親鸞聖人の教え「名号」</p> <p>第11回 親鸞聖人の教え「信心」</p> <p>第12回 親鸞聖人の教え「称名」</p> <p>第13回 親鸞聖人の教え「利益」</p> <p>第14回 親鸞聖人の教え「浄土」</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、講義への参加態度（参加状況）40%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>浄土真宗の教義、仏教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。種々の文献と、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>親鸞聖人・浄土真宗に関する参考文献を読む……………予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に取り上げた問題と浄土真宗教義について整理する…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC402B04	期間	後期
授業科目名	真宗聖典学		
英訳科目名	Shin Buddhism Scriptures		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>浄土真宗の教えの構造は、浄土三部経とその解釈書としての七高僧の論釈を根底として成り立っている。これを救済の根拠として、親鸞聖人は、悩み多い人生を力強く生き抜く念仏の道を、『教行信証』をはじめ数多くの著述に明らかにされた。</p> <p>授業では聖典の特徴や親鸞聖人の聖典拝読の姿勢に留意しながら、経典の成立、大乘仏教の展開をふまえて、浄土三部経と『教行信証』の概要を学ぶ。聖典を拝読することを通して、自身の生き方を問うという視点から、真宗教義の内容・特色を考察したい。</p>		
到達目標	<p>浄土三部経と『教行信証』の基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について、聖典を通して考える視点を身に付けることができる。大学での学び、建学の精神を通して、自身の生き方を見つめることの大切さを考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 聖典の拝読と経典の成立 第3回 仏教の東漸と経典の漢訳 第4回 日本の仏教と浄土教 第5回 浄土三部経と『仏説無量寿経』について 第6回 『仏説無量寿経』を学ぶ①基礎 第7回 『仏説無量寿経』を学ぶ②発展 第8回 『仏説観無量寿経』を学ぶ①基礎 第9回 『仏説観無量寿経』を学ぶ②発展 第10回 『仏説阿弥陀経』を学ぶ 第11回 『教行信証』を学ぶ①基礎 第12回 『教行信証』を学ぶ②発展 第13回 親鸞聖人の著述を学ぶ 第14回 真実五願と生因三願 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、授業への参加態度(参加状況)40%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 浄土真宗の教義、仏教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。文献研究に必要な、辞書や参考図書の扱い方を身に付け、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 拝読する聖教や仏教教義・浄土真宗教義に関する参考文献を読む……予習 2時間(90分) 拝読した聖教や問題となった仏教教義・浄土真宗教義について整理する…復習 2時間(90分)</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401C01	期間	集中
授業科目名	宗門法規		
英訳科目名	Rules of Shin Buddhism Organization		
担当教員名	宗本 昌延		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	浄土真宗本願寺派（宗門）の諸法規について 浄土真宗本願寺派教師の資格取得の必須科目の一部として「宗門法規」があり、他の必須科目と併せて取得することにより、教師授与申請の資格が整い、教師取得により寺院住職、布教使、開教使等の就任の途が開かれることとなる。宗門の法規を学ぶことにより、宗門の目的及び組織について理解を深める。		
到達目標	浄土真宗本願寺派（宗門）の組織が理解できる。 浄土真宗本願寺派（宗門）の本山たる本願寺の目的及び構成が理解できる。 浄土真宗本願寺派（宗門）と本願寺の関係が理解できる。 浄土真宗本願寺派（宗門）法規の制定の歴史が理解できる。 憲法に規定される「信教の自由・政教分離の原則」が理解できる。		
授業計画	第1回 はじめに 第2回 宗教法の変遷について 第3回 宗門の諸法規の体系について 第4回 宗門の諸法規の概要について① 第5回 宗門諸法規の概要について② 第6回 宗門の組織機構と活動について① 第7回 宗門の組織機構と活動について② 第8回 宗門の組織機構と活動について③ 第9回 宗門の組織機構と活動について④ 第10回 宗門の組織機構と活動について⑤ 第11回 宗門の本山（本願寺）の役割と活動について 第12回 本山以外の寺院の役割と活動について 第13回 宗教法人法の概要について① 第14回 宗教法人法の概要について② 第15回 まとめ（筆記試験）		
評価方法 (合計100%)	筆記試験 100%		
失格条件	筆記試験を受けなかった場合 試験の時間内に答案用紙の提出がなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	本山（本願寺）の歴史を理解することにより、宗門（浄土真宗本願寺派）の目的及びそのための組織を規定する宗門の法規の理解が容易になる。（予習2時間・復習2時間）		
課題へのフィード バック	小テストを実施し、授業時間内に解説する。		
教科書	浄土真宗本願寺派「宗門基本法規集」		
著者名	編集 浄土真宗本願寺派 所務部編集		
出版社	本願寺出版社		
参考書			
その他			
備考	浄土真宗本願寺派宗務所での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC403B04	期間	後期
授業科目名	布教法		
英訳科目名	Missionary Rules of Shin Buddhism		
担当教員名	赤井 智顕		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	宗教においては、教えを正確に他の人々に伝達していくことの重要性があることはいまでもありません。特に浄土真宗は聞法（仏法を聞くこと）が中心であるため、布教伝道の役割が重要視されています。本講義では布教伝道の理論を浄土真宗の教えに基づき、ともに考えていきます。けれど単に理論を学ぶだけでは実際に伝道していくことは困難です。いま布教現場では何が問題となり、課題となっているのか、という伝道の現代的課題を視野に入れながら、理論面と実践面の修得を目指します。		
到達目標	宗教的な問いについて、自ら考え、考えたことを自らの言葉で表現することができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス ～ 自信教人信・学仏大悲心～ 第2回 宗教の意義 第3回 宗教の役割とメカニズム 第4回 仏教誕生の背景 ～なぜ仏教は生まれたのか？～ 第5回 釈尊の伝道とその後のサンガ 第6回 法然聖人から親鸞聖人へ ～教えの伝承と伝道姿勢～ 第7回 親鸞聖人の生涯から学ぶ 第8回 『無量寿経』の教え 第9回 浄土真宗の救い ～悪人正機～ 第10回 仏の願いを聞く ～他力本願～ 第11回 浄土の世界 ～往生浄土～ 第12回 法話について ～法話の構成と要～ 第13回 法話について ～譬喩・因縁などの用い方～ 第14回 法話について ～服装・作法～ 第15回 布教実演（プレゼンテーション）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	50%	
	課題	50%	
失格条件	レポートを提出しなかった者。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・宗教について、例えば〈宗教に対するイメージ〉〈生きる意味〉〈死後の世界〉などについて、周囲の人たちと対話したり、講義で紹介する参考書籍を読むなどして、自分自身の考えを深めてみましょう。（予習時間 2時間） ・仏法を聞く聴聞の機会を積極的に持ちましょう。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	・課題提出時の授業で、全体に向けてコメントします。 ・実演の取り組みに対して、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC409B01	期間	後期
授業科目名	勤式作法		
英訳科目名	Rule of Shin Buddhism Ritual		
担当教員名	近松 照俊、近松 真定		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	浄土真宗本願寺派のおつとめに関する基礎知識を中心に、唱法・作法等について講義する。 この講義を通して、おつとめの心、儀礼の心、阿弥陀如来の智慧と慈悲の中に生かされている「いのち」の尊さや、人と人との繋がりの中で、昨今忘れかけられている「おかげさま」の心と禮（らい）の姿勢を学ばれたい。		
到達目標	1.定められた音程でおつとめを唱えることができるようになること。 2.定められた動きで作法ができるようになること。		
授業計画	第1回 おつとめの心得と基本姿勢、作法について 第2回 基本指導。偈文の勤行（重誓偈、讃仏偈）の読法について 第3回 偈文の勤行（十二礼）と意識勤行（らいはいのうた、さんだんのうた、他）の読法について 第4回 正信偈草譜の読法について① 第5回 正信偈草譜の読法について② 第6回 正信偈草譜の読法について③ 第7回 正信偈行譜の読法について① 第8回 正信偈行譜の読法について② 第9回 正信偈行譜の読法について③ 第10回 念仏・和讃六首引き（弥陀成仏のこのかたは～）の読法について① 第11回 念仏・和讃六首引き（弥陀成仏のこのかたは～）の読法について② 第12回 葬場勤行① 第13回 葬場勤行② 第14回 御文章（聖人一流章、白骨章） 第15回 試験		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 試験 40% 授業中における実唱、実演 30%		
失格条件	出席すべき日数のうち3分の1以上の欠席 試験を受けなかったもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	最初は慣れることが大切なので、授業ごとに習得したものを反復してしっかりと身につけて浄土真宗本願寺派の基本的なおつとめと作法を身につけて欲しい。（復習2時間） 実演が授業内容の大部分になるので、休まないことが上達の秘訣である。（予習2時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後に全体に向けて総評します。その後、マンツーマンでの指導をします。		
教科書	浄土真宗本願寺派 浄土真宗聖典 勤行集 浄土真宗本願寺派 葬場勤行集		
著者名	浄土真宗本願寺派 浄土真宗聖典 勤行集・・・浄土真宗本願寺派 教学振興委員会（編集）;浄土真宗本願寺派 葬場勤行集・・・勤式指導所（編集）		
出版社	浄土真宗本願寺派 浄土真宗聖典 勤行集・・・本願寺出版社;浄土真宗本願寺派 葬場勤行集・・・本願寺出版社		
参考書			
その他	尚、受講生の習熟度によっては講師自坊（八尾市 顕証寺）において適宜補講を行い、実際に堂内で実習する場合もある。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC407B03	期間	後期
授業科目名	宗教社会活動論		
英訳科目名	Religion and Social Engagement		
担当教員名	霍野 廣由、釋 大智		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>社会問題に対して、宗教的な観点から考え、実際の現場を見聞することを通して、自らの在りようを見つめる授業です。</p> <p>この授業では、先ず宗教や社会、社会活動の概念からスタートし、次に身近にある社会問題や活動を学びます。さらに、宗教や宗教者がなぜ社会的活動に関わるのか、どのように関わってきたのかを具体例をもとに考えます。</p> <p>具体的な社会問題として、貧困と自死・自殺を取りあげます。貧困と自死・自殺に対する知識を深め、宗教がどのように関わっているのか、私たちがどのように関わることができるのかを考えます。また、実際にフィールドワークにも出かけ、宗教者がたずさわる自死・自殺の活動について見聞します。</p> <p>本授業は、単に担当教員が知識を教授するにとどまらず、受講生とのコミュニケーションを通して、ともに宗教と社会活動について考えます。そのために、ワークショップなどの手法を積極的に取り入れ、教員と受講生がともに学びあう授業を目指します。</p>		
到達目標	<p>社会問題に対して関心を高める。</p> <p>社会問題に対して宗教的な観点から思考する。</p> <p>自分とは違う意見や考えを尊重する態度を身につける。</p> <p>自らの生き方を見つめる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業計画、評価について共有）「この授業、将来役に立ちそうだな」</p> <p>第2回 宗教と社会活動の概観を理解する「テロは何で起こるんだろう？」</p> <p>第3回 社会問題について知る「日本は平和だし、別に社会問題とか無いんじゃないの？」</p> <p>第4回 宗教者の社会活動について知る「宗教者ってお葬式とかしてるだけじゃないの？」</p> <p>第5回 貧困の問題の概観を理解する「貧困？外国の話でしょう?!」</p> <p>第6回 貧困にかかわる宗教者の活動事例を知る、貧困の問題に対して私たちは何ができるのか考える 「もしかしたら、貧困はわりと身近にある問題なのかもしれない…」</p> <p>第7回 自死・自殺の問題の概観を理解する「なんで自殺するんだろう？」</p> <p>第8回 自死・自殺にかかわる宗教者の活動事例を知る、フィールドワークに向けて準備する 「ワクワク、ドキドキ、フィールドワーク」</p> <p>第9回 フィールドワーク 自死・自殺の活動を見聞する（大阪市内）※変更の可能性あり</p> <p>第10回 フィールドワーク 自死・自殺の活動を見聞する（大阪市内）※変更の可能性あり</p> <p>第11回 フィールドワークを振り返る、自死・自殺の問題に対して私たちは何ができるのか考える 「自殺って他人事の話じゃないのかもしれないな…」</p> <p>第12回 宗教はなぜ社会問題にかかわるのかを理解する「なぜ宗教者は社会活動するの？」</p> <p>第13回 私たちはどのように社会問題にかかわることができるのか考える「こんなことなら、私もできるかも！」</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 理解度の確認</p> <p>※毎回教員兩名が担当する</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	50%	
	フィールドワークへの参加	10%	
	試験	40%	
失格条件	なし		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>・予習復習はそれぞれ90分を目安とする。</p> <p>・内容に関しては適宜教員が指示する。</p>		
課題へのフィードバック	発表やレポートをおこなう場合、必要に応じて個別もしくは全体にコメントを返します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	教員が随時指示する		
その他	本講義は、教員・受講生同士のコミュニケーションの時間を多くとり、ワークショップも積極的に取り入れられます。このような経験は、就職活動、あるいは大学卒業後、会社や組織のなかで働く際にも、大いに役立つものと考えます。このことの趣旨を理解し、このような活動をいとわない学生の受講を期待します。		
備考	<p>僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（霍野）</p> <p>僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（釋）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC409B02	期間	集中
授業科目名	ビハーラ演習		
英訳科目名	Vihara Seminar		
担当教員名	岩井 未来		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>あなたは、どのように他者を想い、他者と関わっているのだろうか。その人と関わる、人を支援する根底には、それぞれの人生経験によって培われた人間観、生まれてくること、生きること、死んでいくことをどのように感じ考えているのかという死生観、この世界をどのように捉えているのかという世界観が影響してくる。受講生同士の対話を通して、人間観、死生観、世界観を深めていきたい。</p> <p>ケアの基本である、傾聴については体験的に学ぶ。自分の話をきいてもらう体験・他者の話をきくという体験はどのようなことであるのか、体験的に理解する。他者の話をきけるような実践的な体験学習をしたい。</p>		
到達目標	自身の死生観を言語化する		
授業計画	<p>第1回 ビハーラケアとは①基礎 第2回 ビハーラケアとは②発展 第3回 ビハーラケアとは③応用 第4回 ワーク①死生観を深める（基礎） 第5回 ワーク②死生観を深める（発展） 第6回 ワーク③死生観を深める（応用） 第7回 ワーク④体験を語る・きく（基礎） 第8回 ワーク⑤体験を語る・きく（発展） 第9回 ワーク⑥体験を語る・きく（応用） 第10回 病院見学① 第11回 病院見学② 第12回 病院見学③ 第13回 病院見学④ 第14回 病院見学⑤ 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度：50% レポート：50%		
失格条件	出席回数が3分の2以上に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	他者に話す、きく体験に意識を向けて気づくことがないか考えてみましょう（予習2時間・復習2時間）		
課題へのフィード バック	講義終わりに書いてもらうミニレポートにコメントを返します。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	チャプレンとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC402C04	期間	前期
授業科目名	真宗教学史・教団史		
英訳科目名	History of Jodo Shinshu Teaching Organizations		
担当教員名	天岸 浄圓		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	法然を継承した親鸞の浄土真宗の教学を原点として、その後に展開する覚如、蓮如の教学を学ぶことで、浄土真宗の教学と教団史の全体像を理解することができる。		
到達目標	法然、親鸞、覚如、蓮如と展開していく教学と教団の変遷を正確に理解する。		
授業計画	第1回 法然による浄土宗の確立 第2回 法然の弟子の流派について 第3回 親鸞の生涯 第4回 親鸞教学の特色(1) 浄土真宗の確立 第5回 親鸞教学の特色(2) 他力・念仏・信心 第6回 親鸞の弟子達 第7回 大谷廟堂の建立と覚如の本願寺確立 第8回 覚如教学の特色 第9回 存覚教学の特色 第10回 存覚と仏光寺 第11回 蓮如による本願寺教団の大成 第12回 『御文章』の中心教学 信心正因・称名報恩 第13回 『御文章』と本願寺教団 第14回 戦国時代の本願寺 第15回 東西本願寺の分流とその後		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 理解度 30% 課題等の提出 20%		
失格条件	出席率が60%に達しない者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	理解度を重視するため、講義はテキストを読むこと中心に進めてゆく。講義前にテキストを予習しておかなければ理解できない。(予習2時間・復習2時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、少人数ならコメントして個別に返却します。大人数なら授業で全体にコメントします。		
教科書	浄土真宗聖典『註釈版』		
著者名			
出版社	本願寺出版社		
参考書			
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC409C01	期間	前期
授業科目名	真宗儀礼演習		
英訳科目名	Seminar inShin BuddhismLiturgy		
担当教員名	近松 照俊、近松 真定		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	天台聲明を参照しつつ、本願寺聲明を中心に聲明の基本姿勢、歴史、唱え方などを指導する。 また、本願寺の重要な法要の作法についても聲明とともに指導する。		
到達目標	聲明の博士（聲明の譜字記号）を見ながら、重要な本願寺聲明（特に、先請伽陀、頌讚、読物等を中心に）を丁寧かつ、正確に唱えられるようにする。		
授業計画	第1回 本願寺聲明の実演・聲明の素晴らしさについて 第2回 聲明の意義① 第3回 聲明の意義② 第4回 聲明の構造・博士（聲明譜の記号）について 第5回 各博士の唱え方① 第6回 各博士の唱え方② 第7回 各博士の唱え方③ 第8回 各博士の唱え方④ 第9回 各博士の唱え方⑤ 第10回 先請伽陀 第11回 頌讚 第12回 御文章 第13回 御伝鈔 第14回 登礼盤作法、華籠の扱い方について 第15回 試験		
評価方法 (合計100%)	試験 (50%) 授業への参加態度 (30%) 平常点 (20%)		
失格条件	出席すべき日数のうち3分の1以上の欠席 試験を受けなかったもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義終了時に次回の講義が円滑に進めるべく練習課題を指示する。（予習時間 2時間） 最初は慣れることが大切なので、授業ごとに習得した事柄を反復して自分のものとして欲しい。 （復習時間 2時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後に全体に向けて総評します。その後、マンツーマンでの指導をします。		
教科書	『浄土真宗本願寺派 勤式集』（本願寺出版社） 『御伝鈔 唱読用』（永田文昌堂） その他、適宜必要に応じて指示する。		
著者名			
出版社			
参考書	『浄土真宗本願寺派 法式規範』		
その他	尚、受講生の習熟度によっては講師自坊（八尾市 顕証寺）において適宜補講を行い、実際に堂内で実習する場合もある。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	真宗学特殊講義		
英訳科目名			
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えについて、その内容と構造を体系的に学ぶ。</p> <p>講義では、浄土真宗の聖教、特に「正信心仏偈」「和讃」などを通して、悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての念仏などについて考察する。</p> <p>浄土真宗の聖教を通して、阿弥陀仏の救い、念仏、他力信心の特徴、信心正因・称名報恩という真宗の正義を学びたい。</p>		
到達目標	<p>浄土真宗の教義、親鸞聖人の生涯の問いについての基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付けることができる。</p> <p>さらに、研究テーマに関する文献を集めて内容を検討し、自身の研究成果を整理完成させる技術を習得する。発表や質疑応答を通して、資料作成・意見交換などの表現力を身に付けることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODククション</p> <p>第2回 親鸞聖人と「正信心仏偈」「和讃」(1) 基礎</p> <p>第3回 親鸞聖人と「正信心仏偈」「和讃」(2) 発展</p> <p>第4回 「正信心仏偈」講読(1) 帰敬頌(帰命無量寿如来～)</p> <p>第5回 「正信心仏偈」講読(2) 依経段(法蔵菩薩因位時～)</p> <p>第6回 「正信心仏偈」講読(3) 依経段(如来所以興出世～)</p> <p>第7回 「正信心仏偈」講読(4) 依経段(龍樹・天親)</p> <p>第8回 「正信心仏偈」講読(5) 依経段(曇鸞・道綽)</p> <p>第9回 「正信心仏偈」講読(6) 依経段(善導・源信・源空)</p> <p>第10回 「和讃」講読(1) 冠頭讃</p> <p>第11回 「和讃」講読(2) 浄土和讃(讃弥陀偈讃)</p> <p>第12回 「和讃」講読(3) 浄土和讃(三経讃ほか)</p> <p>第13回 「和讃」講読(4) 正像末和讃(三時讃)</p> <p>第14回 「和讃」講読(5) 正像末和讃(悲歎述懐讃ほか)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験50%、発表内容と講義への参加態度(参加状況)50%。		
失格条件	3分の1以上の欠席。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>浄土真宗の教義、仏教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。種々の文献と、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>親鸞聖人・浄土真宗に関する参考文献を読む……………予習 2時間(90分)</p> <p>講義時に取り上げた問題と浄土真宗教義について整理する…復習 2時間(90分)</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC409C02	期間	前期
授業科目名	真宗伝道演習		
英訳科目名	Seminar in Shin Buddhism Propagation		
担当教員名	金澤 豊		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	宗教は何を問題とし、何を人類に発信してきたのでしょうか。昨今、ややもすると誤解されがちな宗教に対する現代人の感覚を見つめ直し、宗教や仏教の存在意義をあらためて考えます。また仏教である浄土真宗は、どのような教えの内容を保持し、時代と場所を超えて世界に伝播していったのでしょうか。本講義では真宗伝道の理論を浄土真宗の教義に基づいて学びつつ、多様な課題を抱える現代の伝道現場において、いかに宗教的真理を語っていけば良いのかを、具体的に考究していきます。		
到達目標	宗教の存在意義や、仏教・浄土真宗の教えの内容を、自身の言葉で語ることができる。		
授業計画	第1回 宗教はどのようにイメージされるのか？ 第2回 お寺や神社はどのような場所なのか？ 第3回 なぜインドに仏教が誕生したのか？ 第4回 現代に息づく仏教の教え 第5回 浄土真宗の伝道について ～自信教人信のころ～ 第6回 私の発見① ～「悪人正機」を考える～ 第7回 私の発見② ～「悪人正機」を考える～ 第8回 他力の世界① ～「他力本願」を考える～ 第9回 他力の世界② ～「他力本願」を考える～ 第10回 浄土の風光① ～「往生浄土」を考える～ 第11回 浄土の風光② ～「往生浄土」を考える～ 第12回 現代の宗教的状況 ～危機と機会～ 第13回 現代人の宗教的感性に訴えかけるものとは 第14回 宗教的な〈物語り〉 第15回 あらためて伝道を考える		
評価方法 (合計100%)	授業での参加態度 50% 課題 50%		
失格条件	5回以上欠席した者 レポートを提出しなかった者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・浄土真宗について、周囲の人たちと対話したり、講義で紹介する参考書籍を読むなどして、自分自身の考えを深めてみましょう。(予習時間 2時間) ・仏法を聞く聴聞の機会を積極的に持ちましょう。(復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	毎回講義の最後にコメントシートの提出を求めます。 次の講義の最初にフィードバックの時間を設けます。		
教科書	特になし。 毎回プリントを配布しますので、整理が必須です。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	難しいから諦めるのではなく、知らなかったことを知る喜びを感じて欲しいと思います。 話題は仏教を中心に時事問題、地域情報、サブカルチャーなど様々提供します。 受講生は、私語厳禁、単に在席しているだけでなく、対話の姿勢を心がけてください。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC408C01	期間	前期
授業科目名	寺院運営論		
英訳科目名	Buddhist Temple Management		
担当教員名	釈 徹宗、日高 明		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>今、日本の伝統仏教寺院は大きな転換期を迎えています。それまで寺院の立脚基盤だった「地域コミュニティ」や「宗教儀礼」が急速に変貌しているからです。そのため、好むと好まざるとに関わらず、寺院は潮目の変わり時に直面しているのです。</p> <p>だからこそ、寺院運営がとてもエキサイティングな時期であるとも言えるでしょう。これからの寺院の可能性模索から実務的な処理に至るまで、多角的に寺院運営を考察します。</p>		
到達目標	寺院運営に必要な基礎力を身につける。現代社会と寺院とのあり方について考えることができる。		
授業計画	<p>第1回 寺院の現状について(担当:釈)</p> <p>第2回 これまでの寺院のあり方を振り返る(1) 本末制度、檀家制度(担当:釈)</p> <p>第3回 これまでの寺院のあり方を振り返る(2) 法人法(担当:日高)</p> <p>第4回 事例研究(1) 寺院の抱えるトラブル(担当:日高)</p> <p>第5回 事例研究(2) 新しい取り組み(担当:釈)</p> <p>第6回 寺院運営の基礎(1) 必要な業務(担当:釈)</p> <p>第7回 寺院運営の基礎(2) 運営理念(担当:日高)</p> <p>第8回 寺務の基礎(1) 法人業務の実際(担当:日高)</p> <p>第9回 寺務の基礎(2) 寺院の年間活動(担当:釈)</p> <p>第10回 地域コミュニティ型寺院(1) ブリッジング、ボンディング(担当:釈)</p> <p>第11回 地域コミュニティ型寺院(2) 子育て、介護(担当:日高)</p> <p>第12回 都市型寺院(1) 應典院の場合(担当:日高)</p> <p>第13回 都市型寺院(2) 都市の共同体(担当:日高)</p> <p>第14回 寺院の公共性(1) 近代成熟期のコミュニティ(担当:釈)</p> <p>第15回 寺院の公共性(2) 総論(担当:日高)</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への受講態度・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	提出物の不提出や、試験への不参加		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>いろんなお寺のモデルを観察する。</p> <p>公共性の高い活動に参加する。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習 2時間 ・授業のプリントやノートを見直す…復習 2時間 		
課題へのフィードバック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考	<p>僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(釈)</p> <p>僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(日高)</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC405B01	期間	後期
授業科目名	仏教文化講読 1		
英訳科目名	Readings in Buddhist Culture Texts 1		
担当教員名	寺本 知正		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	当講義では、仏教とその文化表象を、民俗学的・文化人類学的観点を変え、生活文化・大衆文化に広く領域を求めて講読を進めていきます。大衆文化とは、日常生活の構築のプロセスが分析される場であり、この講義では、「日本のマンガ・アニメ」を大衆文化として取り上げ、日本人の日常生活に組み込まれている宗教的・仏教的要素を読み解いていきたいと思ひます。仏教文化研究および大衆文化研究の方法論を案内しながら、マンガ・アニメの作品を読み進めたいと思ひます。		
到達目標	仏教文化研究および大衆文化研究の方法論を案内しながら、仏教およびその文化との関連への理解を深め、仏教文化研究の様々な方法や領域にふれて、幅広い知識と理解力を身につけるとともに、今後研究するにあたっての多角的な検討力を身につける。		
授業計画	第1回 宮原浩二郎「知的触媒としてのマンガ」 第2回 宮原浩二郎「知的触媒としてのマンガ」 第3回 山中弘「マンガ文化のなかの宗教」 第4回 山中弘「マンガ文化のなかの宗教」 第5回 山中弘「マンガ文化のなかの宗教」 第6回 佐藤史生『ワン・ゼロ』 第7回 日渡早紀『僕の地球を守って』 第8回 井上雅彦『バガボンド』 第9回 宮崎駿『もののけ姫』 第10回 宮崎駿『千と千尋の神隠し』 第11回 手塚治虫『火の鳥』 第12回 諸星大二郎『妖怪ハンター』 第13回 中村光『聖おにいさん』 第14回 宮崎駿『風の谷のナウシカ』 第15回 荒木飛呂彦『ジョジョの奇妙な冒険』		
評価方法 (合計100%)	期末テスト 60% レポート・小テスト(授業期間中に実施) 10% 授業への参加態度 30%		
失格条件	理由無き講義欠席が3分の1に達した場合は失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	参考となる文献およびその章やページを授業中に紹介しますので、講義後に参照してください(予習2時間・復習2時間)。		
課題へのフィード バック	期末にレポートの作成・発表をもらい、コメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	参考文献およびその必読の章やページを授業中に紹介します。		
その他	授業はこちらで準備する資料に沿いながら進めます。事前にテキストを読んでおく必要はありません。授業中にいっしょに読み進めましょう。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC406B01	期間	集中
授業科目名	仏教文化講読2		
英訳科目名	Readings in Buddhist Culture Texts 2		
担当教員名	井上 陽、宮崎 哲弥		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	明治に入ったわが国は「近代」という新たな潮流の中で、開化期を迎えた。それは、日本に仏教が伝来しておよそ1300年のこと。仏教もまた「近代」と出会うことになる。そして、そこで出会ったのが西洋を経由して伝わった釈迦の仏教、つまり「初期仏教」であった。各宗派は初めて目の当たりにする「初期仏教」と対峙しつつ、宗派の近代化を図った。近代日本が出会った「初期仏教」とは…。以下の講義計画のテーマにもとづいて講義を進める。		
到達目標	近代仏教学の歩みを学び、近代以降に明らかになった仏教と、その仏教の流れを理解することができる。その学びを通して、総合的な分析力、判断力、思考力を高める。		
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 仏教とは何か 第3回 「ブッダ」という存在 第4回 「縁起」について①縁起という迷宮 第5回 「縁起」について②第一次縁起論争の解剖 第6回 「縁起」について③第二次縁起論争の深層 第7回 「縁起」について④「縁起」から仏教の根本を問う 第8回 「苦」とは何か 第9回 無我と輪廻 第10回 無常と空 第11回 サンガと律 第12回 日本仏教の特殊性 第13回 禅と浄土 第14回 仏教と浄土真宗 第15回 仏教教理論争：まとめとして		
評価方法 (合計100%)	授業参加態度（毎回の確認など）50%とレポート50%		
失格条件	3分の1以上の欠席、およびレポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義に関する内容について辞書類を使って調べ、講義後はその内容をまとめる（予習2時間、復習2時間）。		
課題へのフィード バック	毎回の確認などについて、それぞれへフィードバックを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	講義中に適宜指示する。		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（井上）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC409B03	期間	集中
授業科目名	仏教文化演習		
英訳科目名	Seminar on Buddhist Culture		
担当教員名	佐伯 はる、宇佐美 直八、吉村 昇洋		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>この演習では、仏教に関わる衣食住や芸術などの文化をさらに深く学びます。仏教の衣文化、食文化、芸術の領域において、実習もまじえた講義となっています。それぞれ五時間ずつのオムニバス形式です。</p> <p>いずれも日本仏教の豊かな文化の一面です。その精神性を学ぶと共に、自分自身の創造性を育てることにつながる演習となっています。</p>		
到達目標	三つの領域のうち、衣文化に関しては式章や袈裟の制作、食文化では精進料理の実習、文化財では過去帳や掛け軸の制作、以上に取り組むことができる。		
授業計画	<p>【担当：佐伯 はる】</p> <p>第1回 染織について学ぶ（1） 原料</p> <p>第2回 染織について学ぶ（2） 織り</p> <p>第3回 創作指導（1） 基礎</p> <p>第4回 創作指導（2） オリジナル</p> <p>第5回 仕上げと評価</p> <p>【担当：吉村 昇洋】</p> <p>第6回 精進料理と禅仏教（1） 『典座教訓』</p> <p>第7回 精進料理と禅仏教（2） 『赴粥飯法』</p> <p>第8回 現代の食を考える（1） 現代人の問題点</p> <p>第9回 現代の食を考える（2） これからの方向性</p> <p>第10回 精進料理の実習と評価</p> <p>【担当：宇佐美 直八】</p> <p>第11回 日本仏教の文化財</p> <p>第12回 修復の技術（1） 古典技法</p> <p>第13回 修復の技術（2） 現代技法</p> <p>第14回 創作指導 基礎</p> <p>第15回 創作指導と評価</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 50% 作品や課題・提出物 50%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>博物館や美術館へ行ってみよう。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要な時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習 1時間 ・授業で習った技術や手順を繰り返し確認する…復習 2時間 		
課題へのフィード バック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	宗教行事への参加、それに関するレポートなどは、評価に加算する。		
備考	宇佐美松鶴堂での実務経験をもとに、この授業を進めます。（宇佐美） 僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（吉村）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC407B04	期間	後期
授業科目名	アジアの仏教と社会		
英訳科目名	Buddhism and Society in Asia		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>紀元前5世紀、ガンジス河中流域に開花した仏教は、約2500年の間にほぼアジア全域へと広がり、そして現在も生きた宗教としてあり続けている。が、近代に至るまで、仏教は一もとろん宗教全般に言えることだが一個人の心理的な問題だけを扱ったわけではなく、社会と密接な関わりをもっていた。むしろ社会そのものであったと言ってよい。</p> <p>ところが、政教分離を原則とする近代の出現によって社会を政治が担うようになる。近代国家の概念からすると、宗教の存在は忌避すべき存在にもなり、宗教は個人の心理的な問題のみを扱うかのようにも思われている。</p> <p>本講義では、アジア世界へ広がった仏教が、それぞれの社会とどのように関わりを持ちながら展開していったのかを学びつつ、宗教と社会の関わりを探求していく。</p>		
到達目標	アジア世界に広まった仏教から宗教と社会の関わりを考え、現代を読み解く力を養うことができる。		
授業計画	<p>第1回 アジアと仏教と社会と</p> <p>第2回 近代国家と宗教：なぜ中東が問題になるのか</p> <p>第3回 仏教史概観：インドから日本へ ① インド・中央アジア</p> <p>第4回 仏教史概観：インドから日本へ ② 東アジア仏教圏</p> <p>第5回 政治と宗教の関わり：アショーカ王の宗教政策から</p> <p>第6回 スリランカー及び東南アジア世界とパーリ仏教 ① パーリ仏教の広がり</p> <p>第7回 スリランカー及び東南アジア世界とパーリ仏教 ② 東南アジア地域の現状</p> <p>第8回 インド北辺地域の異民族と仏教の関わり</p> <p>第9回 西方世界と仏教：シンクレティズムを考える</p> <p>第10回 漢訳仏教圏の成立：東アジアの仏教と社会 ① 漢訳された仏典の広がり</p> <p>第11回 漢訳仏教圏の成立：東アジアの仏教と社会 ② 中国・朝鮮半島・ベトナム</p> <p>第12回 内なる異文化としての日本の仏教</p> <p>第13回 近代国家と仏教：明治以後の仏教の展開</p> <p>第14回 仏教の近代化：隠れ念仏と隠し念仏という事例から</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（発表やコメント）60%とレポート40%の総合評価		
失格条件	講義回数の3分の1以上の欠席とレポートを出さなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義時に出す次回までの課題に取り組みこと（予習3時間） ・講義時にやったことをプリント、ノートを見て確認すること（復習1時間） ・詳細は初回の講義時に説明する。 		
課題へのフィード バック	発表やコメントについて、次の回の授業の冒頭にフィードバックを行う。		
教科書	必要な資料はこちらで準備して配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	参考文献については講義時に指示する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS409B01	期間	後期
授業科目名	カウンセリング演習 I		
英訳科目名	Seminar on Counseling I		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	家庭、学校、職場など、さまざまな場面においてこころの問題がクローズアップされている近年、こころの問題に寄り添い、それを援助する活動の重要性がますます高まっています。こころの問題に寄り添う方法論のひとつとしてカウンセリングがありますが、本授業では、カウンセリングの実際技法の基礎について演習を通して学びます。視覚的教材を利用して良いかかわりと悪いかかわりを比較提示しながら、具体的事例の中でどのようにカウンセリング技法を用いるかを確認します。		
到達目標	カウンセリングで用いられる技法を学び、こころの問題への基本的援助が理解出来る。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 マイクロカウンセリングの特徴 第3回 マイクロカウンセリング技法 第4回 <基本的傾聴の連鎖>を用いた対話①(導入) 第5回 <基本的傾聴の連鎖>を用いた対話②(モデリング) 第6回 <基本的傾聴の連鎖>を用いた対話③(ロールプレイ) 第7回 <基本的傾聴の連鎖>を用いた対話④(ディスカッションによる一般化) 第8回 <肯定的資質の探求>を目指す対話①(導入) 第9回 <肯定的資質の探求>を目指す対話②(モデリング) 第10回 <肯定的資質の探求>を目指す対話③(ディスカッションによる一般化) 第11回 <基本的傾聴技法と積極的技法の連携>を用いた対話の実際 第12回 <意図性>と発達レベル 第13回 ジェノグラムの書き方と記録の取り方 第14回 訓練とスーパーヴィジョン 第15回 総括と到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上の講義を欠席した場合(授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします) 分担すべきグループワークや発表等への不参加、到達度テスト未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書・配布プリント等の指示した部分をしっかりと読んで理解するよう、予習1時間、復習3時間を目安に学習してください。また、教科書付属のDVDを活用した家庭学習が効果的です。		
課題へのフィード バック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	マイクロカウンセリング技法―事例場面から学ぶ		
著者名	福原真知子		
出版社	風間書房		
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS409C01	期間	後期
授業科目名	カウンセリング演習Ⅱ		
英訳科目名	Seminar on CounselingⅡ		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>近年、カウンセリングは、心理臨床を専門とするカウンセラーだけでなく、保育・教育の現場における保育士・教師、医療の現場における医師・看護師、介護の現場におけるヘルパー、司法の現場における法曹関係者、職場における管理職・上司・同僚、日常生活における友人・知人など、社会の幅広い領域で求められるようになりました。</p> <p>本授業では、「カウンセリング演習Ⅰ」で学んだカウンセリング技法の知識を基に、実際にはどのようにして援助が展開するかを学びます。その際、幅広い心理的問題へのカウンセリング事例を用い、グループディスカッションや意見発表等を通じてこころの支援のエッセンスについて学習を深めます。</p>		
到達目標	子どもから成人まで各発達ステージにおいてあられる心の問題について理解でき、カウンセリング事例の検討を通して、カウンセリングの実践的な知識・スキルを修得できる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、事例検討「学校恐怖症」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第2回 事例検討「学校恐怖症」一事例を見立てる</p> <p>第3回 事例検討「心身症」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第4回 事例検討「心身症」一事例を見立てる</p> <p>第5回 事例検討「不登校」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第6回 事例検討「不登校」一事例を見立てる</p> <p>第7回 事例検討「プレイセラピー」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第8回 事例検討「プレイセラピー」一事例を見立てる</p> <p>第9回 事例検討「母親面接」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第10回 事例検討「母親面接」一事例を見立てる</p> <p>第11回 事例検討「無気力」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第12回 事例検討「無気力」一事例を見立てる</p> <p>第13回 事例検討「幻聴」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第14回 事例検討「幻聴」一事例を見立てる</p> <p>第15回 総括と到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業参加態度50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上の講義を欠席した場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者 分担すべきグループワークや発表等への不参加があった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書等の指示した部分をしっかりと読んで理解し、関心や問題意識をもって学習に取り組むように心がけてください。なお、家庭学習の総時間数は4時間であることが望ましいですが、予復習における時間配分は学習テーマによって各自工夫してください。		
課題へのフィード バック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	事例に学ぶ心理療法		
著者名	河合隼雄		
出版社	日本評論社		
参考書	授業中に適宜指示します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS409C03	期間	前期
授業科目名	カウンセリング実習		
英訳科目名	Practicum in Counseling		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>こころの問題が深刻化・多様化する現代において、医療現場や教育現場などを中心に、カウンセリングを用いた援助への需要が高まっています。地域や職場、家庭内においても、さまざまな心理的問題への対応が要求されることも少なくありません。</p> <p>本授業では、カウンセリングの基礎でもある他者理解や倫理的配慮、対話の在り方について具体的に学びます。さらには、近年では議論の中心になることも多い、支援者の疲弊についても確認し、支援者自身の自己理解やストレスマネジメントの重要性についても学習します。これら学習の方法論として、ワークやグループディスカッション、ロールプレイ、およびビデオ視聴などを用いた体験学習を用います。</p>		
到達目標	<p>心理的援助において、倫理を守ることの重要性を理解し、被援助者の語りをしっかりと聴くことができる。その上で、被援助者が抱える問題を見立て、適切なかわりができる。また、より良い援助の為に、援助者としての自己を理解できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 心理的支援としての対話 第2回 心理的支援における倫理 第3回 傾聴と無条件の肯定的関心 第4回 傾聴トレーニング 第5回 問題の明確化・焦点化 第6回 見立てを行う 第7回 相手の世界を知る・自分の世界を伝える (1) 一制作活動を通して— 第8回 相手の世界を知る・自分の世界を伝える (2) 一作品発表を通して— 第9回 中立的立場を取ること 第10回 価値観の多様性と援助者自身の価値観 第11回 コミュニケーションにおける「ことば」 第12回 コミュニケーションにおける「非言語」 第13回 医療機関におけるカウンセリング (1) 一ロールプレイ— 第14回 医療機関におけるカウンセリング (2) 一アセスメント— 第15回 教育機関におけるカウンセリング (1) 一ロールプレイ— 第16回 教育機関におけるカウンセリング (2) 一アセスメント— 第17回 解釈・結果のフィードバック (1) 一ロールプレイ— 第18回 解釈・結果のフィードバック (2) 一アセスメント— 第19回 家族支援のためのカウンセリング (1) 一ロールプレイ— 第20回 家族支援のためのカウンセリング (2) 一アセスメント— 第21回 箱庭療法—非言語表現を用いた心理的支援— 第22回 箱庭療法体験 第23回 災害時の心理的支援と支援者の疲弊 第24回 二次受傷とデブリーフィング 第25回 日常的支援者の疲弊と感情労働 第26回 ストレスマネジメント 第27回 連携と他機関紹介—紹介状の作成— 第28回 家族構成から支援を考える—ジェノグラムの作成— 第29回 補足と総括 第30回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度50% 提出したレポートの内容50%</p>		
失格条件	<p>原則として理由のない欠席をした者、全授業の3分の2以上の出席の無い者（なお、授業開始から20分以上の遅刻は欠席と見なします） 到達度テストの未受験者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>本授業は実践型であるため、授業で体験したことを持ち帰り、振り返りの時間を十分に取って復習してください。またその際に、授業での体験を自らの言葉でノートに記すことも、学習の整理と問題点の明確化に繋がります。振り返りで明確化した疑問点は、担当教員に確認して不明点を解消することが重要です。学習の目安として、予習1時間・復習3時間程度が望ましいですが、状況や学習テーマに応じて適宜時間配分の工夫をしてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	<p>プリント等を配布しますが、必要に応じて授業中に指示します。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>授業中に指示します。</p>		
その他	<p>・授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。 ・カウンセリングそのものが時間枠を厳守するものであるため、本授業への遅刻や無断欠席は授業の主旨そのものの理解を欠いたものと判断します。そのため、実習は原則的に遅刻及び欠席が認められませんので注意してください。</p>		
備考	<p>日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。</p>		
科目生への開講	<p>なし</p>		

ナンバリング	PS401B04	期間	後期
授業科目名	生涯発達の臨床心理学（児童期）		
英訳科目名	Lifespan Developmental Clinical Psychology (Childhood)		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>児童期は身体的・認知的・情緒的に顕著な発達を示す時期です。幼児期までとは異なり、より広い人間関係を形成し、また、変わりゆく環境の影響も受けやすいといえます。</p> <p>本講義では、生涯発達における児童期に焦点をあて、この時期の一般的な発達を多角的に概観するとともに、発達上の問題や臨床的問題を抱えるケースについてそのメカニズムと援助方法について学びます。また、子どもを取り巻く環境が子どものこころに与える影響についても学習します。</p>		
到達目標	<p>児童期のこころの発達について知り、発達上の問題や臨床的問題を抱える子どもについて、その背景や原因、援助方法について理解できる。また、社会環境が児童期の子どもの人格形成に及ぼす影響について理解し、家族や学校、地域などによる支援の可能性について考えることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 児童のこころの発達と課題 第3回 主に児童期に見られるこころの問題 第4回 特別な支援を要する子ども(1) 精神遅滞 第5回 特別な支援を要する子ども(2) 発達障害 第6回 特別な支援を要する子ども(3) 肢体不自由、病弱児 第7回 児童期における精神障害 第8回 児童期の臨床（1） 不登校 第9回 児童期の臨床（2） いじめ 第10回 児童期の臨床（3） 虐待 第11回 児童期の臨床（4） 親の離婚 第12回 地域や学校における児童支援 第13回 児童への検査とアセスメント 第14回 児童への心理的支援 第15回 補足と総括、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%</p>		
失格条件	<p>全授業の2/3以上の出席回数のない場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>教科書をよく読むとともに、ニュースや記事、書籍等を通じて、子どもを取り巻く問題への関心を深めるよう心掛けてください。予習および復習時間の目安は各2時間ですが、状況や学習テーマに合わせて適宜時間配分してください。</p>		
課題へのフィード バック	<p>到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。</p>		
教科書	子どものこころと臨床発達—現代を生きる子どもの理解と支援のために		
著者名	野口康彦・櫻井しのぶ		
出版社	学陽書房		
参考書	服部祥子 著 『生涯人間発達論—人間への深い理解と愛情を育むために（第2版）』、医学書院 (ISBN 978-4-260-01170-9)		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。 ・参考図書は授業でも引用することが多いため、持っている人は必ず授業に持参してください。 		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS402B02	期間	後期
授業科目名	生涯発達臨床心理学 (成人・高齢期)		
英訳科目名	Lifespan Developmental Clinical Psychology (Adulthood / Late Adulthood)		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>生涯発達という視点では、人間はその誕生から死までを発達すると考えます。即ち、発達とは、人間の加齢による身体の変化と環境・社会・文化との相互のプロセスです。</p> <p>本授業では、成人期および老年期の発達に焦点をあて、それらの時期に直面する社会的および心理的危機と、その危機を克服できない場合に生じる心理臨床的な問題について学びます。さらに、成人期・老年期における心理臨床的問題への対処・支援について考えます。</p>		
到達目標	人間は生涯を通じて心理的な発達を遂げること、また、成人期や高齢期でも、心理社会的発達において臨床的な問題を持ち得ることを理解できる。さらには、そのような発達や心理的危機への心理的援助の方法について習得する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 成人前期の発達心理的課題 第3回 成人中期の発達心理的危機 第4回 成人中期の現代的課題 第5回 高齢者の知能と記憶 第6回 高齢者のパーソナリティ 第7回 老年期の精神障害（1）—器質性精神障害— 第8回 老年期の精神障害（2）—機能的な精神障害— 第9回 高齢者へのアセスメント 第10回 サクセスフルエイジング 第11回 高齢者の社会的適応 第12回 高齢者と家族 第13回 老年期におけるストレス 第14回 高齢者福祉とこころのケア 第15回 総括と到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	全授業の2/3以上の出席回数がない場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者		
予習・復讐の準備	予習として、教科書に目を通し、関連資料を調べ、問題意識を持って授業に参加してください。復習としては、再度教科書を読み、ノートを読んで、理解を深めてください。疑問点があれば書き出し、関連資料に当たり、次の授業に備えてください。なお、予習復習は各2時間行うことが目安ですが、予復習における時間配分は学習テーマによって各自工夫してください。		
課題へのフィードバック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	①高齢者理解の臨床心理学 ②生涯人間発達論～人間への深い理解と愛情を育むために～ 第2版		
著者名	①稲谷 ふみ枝/宮原 英種②服部 祥子		
出版社	①ナカニシヤ出版②医学書院		
参考書	必要に応じ、紹介します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402B03	期間	前期
授業科目名	異常心理学		
英訳科目名	Abnormal Psychology		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>異常心理学とは、人間の行動や精神の異常状態について、その原因や対応も併せて学ぶ学問だといえます。しかし、その学びにおいては、正常と異常の基準は多元的であり、相対的なものだという視点が重要です。</p> <p>本授業では、正常・異常とは何かを考えるとともに、人間心理における異常を認知や発達、欲動、人格などから学びます。また、行動および心理的異常状態にある人の生きづらさを理解し、その援助方法について考えます。</p>		
到達目標	<p>正常と異常が連続線上にあることや、認知や発達、欲動、人格、行動における異常状態について理解でき、その支援についての視点がもてる。</p>		
授業計画	<p>第1回 異常心理学とは 第2回 知覚の異常 第3回 思考の異常(1)―過程 第4回 思考の異常(2)―体験 第5回 記憶の異常 第6回 発達の異常(1)―精神遅滞、発達障害 第7回 発達の異常(2)―認知症 第8回 自我の異常 第9回 感情の異常 第10回 欲動の異常 第11回 人格の異常(1)―パーソナリティ障害B群 第12回 人格の異常(2)―パーソナリティ障害A・C群 第13回 身体の異常に伴う異常心理 第14回 「正常」と「異常」の再考 第15回 補足と総括、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度50% 到達度テスト50%</p>		
失格条件	<p>全授業の2/3以上の出席回数のない者（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習として、本・雑誌・新聞などの関連資料を読んで理解を深め、問題意識を持って授業に臨んでください（学習目安2時間）。また、配布プリントやノートを参照しながら、授業内容がしっかり理解できるまで復習すること（学習目安2時間）。</p>		
課題へのフィードバック	<p>到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。</p>		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS401B09	期間	後期
授業科目名	発達心理学概説		
英訳科目名	Introduction to Developmental Psychology		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>発達心理学とは、生まれてから死ぬまでの人間の発達について、ライフステージごとの課題や危機に注目して考える学問であり、その成果は子育てや発達支援の実践に役立てられています。</p> <p>本講義では、人間の心と行動の発達に関する基礎的なことからについて概説し、生涯発達という視点から、乳児から高齢者に至るまでの人間の変化を理解することを目指します。また、障害や発達の危機を抱える人への理解を深めることで、子育てはもとより、生涯にわたる生活の質(QOL=quality of life)を高めるための知識を修得することを期待しています。</p>		
到達目標	人間の発達を誕生から死にいたるまでの1つのプロセスとしてとらえた上で、各発達段階における課題を理解できる。また、発達が遺伝と環境の相互作用の中で展開すること、健全な発達にとって他者との関係性が重要であることを理解できる。さらに、発達上で生じる障害を理解し、障害を持つ人に対する適切な支援の視点が持てる。		
授業計画	第1回 発達における「遺伝」と「環境」 第2回 生涯発達における発達段階理論 第3回 胎児期・周産期 第4回 感覚・運動の発達 第5回 愛着の発達 第6回 自我と感情の発達 第7回 認知の発達 第8回 言語の発達 第9回 社会性・道徳性の発達 第10回 遊びと仲間関係 第11回 学習の理論 第12回 障害とこころの問題 第13回 学童期・青年期における発達 第14回 成人期・老年期における発達 第15回 総括と到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上授業を欠席した場合(20分以上の遅刻は欠席とみなします) 到達度テストの未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書・配布プリント等の指示した部分をしっかりと読んで理解するように心がけてください。 予習2時間・復習2時間を目標に勉強して下さい。		
課題へのフィード バック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	ベーシック 発達心理学		
著者名	開一夫/齋藤慈子		
出版社	東京大学出版会		
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
その他	授業の状況に応じて、内容が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS401B10	期間	前期
授業科目名	カウンセリング論 I		
英訳科目名	Principles of Counseling I		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>こころの問題は近年ますます多様化しており、その適切な理解と援助の必要性が高まっています。そのような時代背景の中で、心理臨床を専門とするカウンセラーだけでなく、教育現場や医療現場、福祉現場などで対人援助職に就く者や、一般企業において部下の管理を行う者、さらには日常生活における人間関係でも、こころの問題に対応できる力が期待されています。</p> <p>本講義では、こころの問題の理解方法や、援助の手法の基礎を学習し、カウンセリングや心理的支援を行うための実際について学びます。</p>		
到達目標	カウンセリングの基本的な理論と技能を習得し、こころの支援の実際を理解できる。		
授業計画	<p>第1回 カウンセリングとは何か 第2回 カウンセリング発展の歴史とオリエンテーション 第3回 カウンセリングにおける倫理と基本姿勢 第4回 精神分析的カウンセリング 第5回 分析心理学的カウンセリング 第6回 来談者中心療法 第7回 家族療法 第8回 認知行動療法 第9回 カウンセリングの実践法(1)―インテーク面接と治療契約― 第10回 カウンセリングの実践法(2)―面接技法 第11回 カウンセリングの実践法(3)―中断と終結― 第12回 カウンセリングの基本技能と実際(1)医療現場 第13回 カウンセリングの基本技能と実際(2)学校教育 第14回 カウンセリングの基本技能と実際(3)コンサルテーション 第15回 補足と総括、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上の講義を欠席した場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習では、次回授業の学習テーマについて参考図書などを中心に調べ、不明点について明らかにして授業に臨むこと。また、復習では、授業ノートや配布資料を元に整理するとともに、興味のある事項について補足学習をすること。なお、家庭学習の総時間数は4時間であることが望ましいですが、予復習における時間配分は学習テーマによって各自工夫してください。		
課題へのフィードバック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS402B04	期間	後期
授業科目名	カウンセリング論Ⅱ		
英訳科目名	Principles of CounselingⅡ		
担当教員名	西田 吉男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	心理療法の中で、代表的な治療理論の特徴、方法論を学ぶ。その理論に基づいた事例をグループ討議・検討する。理論学習、事例検討を通じて、人間心理、人間行動の理解を深める。その理解が、自己理解、他者理解へとつながり、自分の日常的な対人関係が豊かになるような視座が持てることをねらう。		
到達目標	①心理療法の理論の特徴・方法論の知識を得る ②理論に基づいた事例の特徴を検討する ③心理療法の理論と事例から、自己理解・他者理解を深める		
授業計画	第1回 心理療法とカウンセリング 第2回 意識と無意識 第3回 心理療法の特徴と方法論 第4回 心理アセスメントの方法 第5回 フロイトの精神分析 第6回 ユングの分析心理学 第7回 アドラーの個人心理学 第8回 ロジャースの来談者中心療法 第9回 パールズのゲシュタルト療法 第10回 エリスの論理情動療法 第11回 ミルトン・エリクソンのコミュニケーション理論 第12回 応用行動分析 第13回 臨床心理学的地域援助 第14回 最近のトピックスから 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(感想カードの内容) 30% グループ討議の内容 30% まとめ後に提出するレポート 40%		
失格条件	4回のグループ討議のうち、2回欠席した場合 レポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	【予習】テキストの該当する内容を読んでおく(1時間) 【復習】レポートに向けての準備と作成(3時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	『徹底図解 臨床心理学』		
著者名	青木紀久代 編著		
出版社	新星出版社		
参考書	必要に応じて、授業中提示		
その他			
備考	スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402C01	期間	前期
授業科目名	精神分析学		
英訳科目名	Psychoanalysis		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>精神分析学とは、臨床心理学の創始者ともいえるSigmund Freudが提唱した人間心理の理論と治療技法の体系で、無意識世界を生育史を通じて洞察する特徴があることから力動的心理療法とも呼ばれています。</p> <p>本授業では、精神分析について、その人間理解や治療面接における理論および方法論、そしてその世界観を学びます。また、Freud以後、さまざまに枝分かれしながら発展した精神分析についても概観し、現代精神分析の全体像を把握することを目指します。精神分析学を学ぶことを通じて、より深い人間理解ができることを期待しています。</p>		
到達目標	精神分析の理論、方法論、世界観を理解できる。また、事例検討や日常生活場面での精神分析的解釈を試みることで、より深い人間理解ができる。		
授業計画	<p>第1回 精神分析とSigmund Freud</p> <p>第2回 精神分析の考え方① 力動－構造論、力動－経済論</p> <p>第3回 精神分析の考え方② 不安－防衛論、生成－分析論</p> <p>第4回 精神分析の考え方③ 発生－発達論、自己愛論</p> <p>第5回 精神分析の展開① 対人関係論学派、対象関係論学派</p> <p>第6回 精神分析の展開② 中間学派、自我心理学派</p> <p>第7回 精神分析の展開③ 自己心理学派、間主観性論学派</p> <p>第8回 精神分析的面接の基礎</p> <p>第9回 古典的症例を読む</p> <p>第10回 精神分析的事例から学ぶ</p> <p>第11回 現代の事例から考える</p> <p>第12回 分析心理学とCarl Gustav Jung</p> <p>第13回 精神分析学と分析心理学① 「無意識」に関する相違</p> <p>第14回 精神分析学と分析心理学② 治療のゴール</p> <p>第15回 総括と到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への積極的参加 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席した場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習として、テキストの該当部分をよく読んでおくこと。また、復習は、授業内容を振り返り、専門用語の理解を深め、精神分析のエッセンスを味わうこと。予習、復習それぞれの時間配分(総時間数:4時間)は、各自に任せます。		
課題へのフィード バック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	ヴィジュアル 精神分析ガイダンス－図解による基本エッセンス－		
著者名	長尾博		
出版社	創元社		
参考書	授業中、適宜提示。		
その他	学習内容は、状況に応じて順番が前後することがあります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402C02	期間	後期集中
授業科目名	精神医学		
英訳科目名	Psychiatry		
担当教員名	岩切 昌宏		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	精神医学全般についての概要を理解する。そのために、講義だけでなく、授業内で質問したり、グループでの討議、宿題などをおりまぜて行う		
到達目標	精神医学全般について、大筋は理解できており、様々な精神疾患患者に対する偏見なども払拭できていること		
授業計画	第1回 精神医学とは 第2回 身体発達と精神発達 第3回 脳科学と精神医学 第4回 気分障害 第5回 精神医学演習Ⅰ 第6回 統合失調症 第7回 児童・思春期の精神障害 第8回 児童・思春期の精神障害 第9回 認知症、器質性精神障害 第10回 精神医学演習Ⅱ 第11回 症状性精神障害、アルコール・薬物による精神障害 第12回 睡眠障害、てんかん 第13回 精神療法 第14回 薬物治療、その他の精神科治療 第15回 テスト		
評価方法 (合計100%)	授業の参加態度	30%	
	小テストなど	20%	
	レポート提出	20%	
	試験	30%	
失格条件	集中講義の3日間のうち1日間（全日）欠席すると失格		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	ノート、プリント、参考書を用いて、小テスト、レポートを見直すだけでなく、授業全般を復習すること		
課題へのフィード バック	小テスト・レポートなどは提出日以降の授業にて全体に向けてコメントする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	「みる よむ わかる 精神医学入門」 ニール・バートン 朝田 隆訳 医学書院 「看護のための精神医学」 第2版 中井久夫, 山口直彦 医学書院 など		
その他	教科書は用いないが、精神医学のやさしい参考書など1冊は購入することが望ましい		
備考	精神科医としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402C03	期間	後期集中
授業科目名	神経心理学		
英訳科目名	Neuropsychology		
担当教員名	上田 有紀人		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	神経心理学とは、脳の科学としての神経内科学（Neurology）と心の科学としての心理学（Psychology）を人間の脳損傷によって生じた症状を媒介にして有機的に統合させて学問と定義されています。この場合の「症状」とは大脳高次脳機能障害を意味します。この症状には左右大脳半球で、それぞれ異なる症状が出現します。失語症、失行、失認、前頭葉機能障害などの認知機能障害についての知識を身につけ、脳部位や脳神経といった解剖についても理解を深めて頂きます。		
到達目標	脳の機能局在とそれによって生じる神経心理学的症状の理解を到達目標とします。 (各脳部位の役割、左右で異なる神経心理症状の理解など。)		
授業計画	第1回 神経心理学とは？ 第2回 神経細胞（ニューロン）のはたらき 第3回 脳の解剖と機能（大脳・脳幹・小脳など） 第4回 脳血管障害について 第5回 主な症候：失語症 第6回 主な症候：記憶障害 第7回 主な症候：前頭葉機能障害 第8回 主な症候：失認・失行 第9回 主な症候：その他（脳梁症候群など） 第10回 神経心理学的検査について 第11回 エビデンスについて 第12回 認知症性疾患：アルツハイマー病 第13回 認知症性疾患：レビー小体型認知症 第14回 認知症性疾患：前頭側頭葉変性症 第15回 まとめ・小テスト		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度：70% ・配布資料の整理：20% ・小テスト：10%		
失格条件	出席回数が3分の2に達しない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業計画を確認し、興味のある分野を調べる（予習1時間）。 ・講義で配布する資料整理（復習3時間）。		
課題へのフィード バック	・毎回講義終了時に小テストを渡します。次回の講義最初に小テスト解答を全体で確認します。 最終小テストは授業時間内に実施し、全体で確認します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	三重大学附属病院での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS401C01	期間	後期
授業科目名	国際金融論		
英訳科目名	International Finance		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この科目は、大阪シティ信用金庫が提供する金融ビジネス科目です。金融機関の使命と役割から金融市場の地域展開と国際展開に至るまで、体系立てて学びながらの基礎を学びながら金融の知識と情報の獲得を目指します。金融市場と国際展開を、リアルな事例や金融機関で働く現役ビジネスパーソンから実践的に学び、国際金融を学ぶ基盤を作ります。		
到達目標	1. 企業の業績や株価など金融関連情報をチェックできる 2. 金融ビジネスの事業を体系的に理解し、その遂行に必要な能力を自ら設定することができる 3. 国際業務における課題発見とその解決策を設定することができる		
授業計画	1) 地域金融機関・信用金庫の社会的使命 2) 金融機関の役割・生活とのつながり 3) 信用金庫のお客サービスとは 4) 営業店のしごと・女性活躍推進 5) 支店長の仕事・知っておきたい金融犯罪 6) 中小企業経営と資金計画1 7) 中小企業経営と資金計画2 8) 金融市場のしくみ1 9) 金融市場のしくみ2 10) 中小企業と国際業務1 11) 中小企業と国際業務2 12) 金融機関の新サービス1（シティ信金PLUS事業・ファンドの取り組み） 13) 金融機関の新サービス2（商店街PLUS事業・医療・福祉支援） 14) 金融機関で働くということ・就職対策 15) 大阪シティ信用金庫とCSR、地域との連携		
評価方法 (合計100%)	試験に変わる学期末レポート60% 授業への参加態度を40%として総合評価します。		
失格条件	欠席5回以上（遅刻3回を欠席とすること）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	普段から企業の業績や評価または株価に関心を持ち、 ・新聞・雑誌・インターネットより配信されるニュースやトピックをチェックすること(予習60分) ・金融ビジネスの取組みについても情報を集めて整理しておくこと（予習30分）。 ・金融ビジネスを成立させる要素を整理すること（復習90分）。		
課題へのフィードバック	・大阪シティ信用金庫の担当教員からのフィードバック解説 ・授業内課題の返却と解説など		
教科書	教科書に代わる教材・資料を、大阪シティ信用金庫の担当講師が提示します。		
著者名			
出版社			
参考書	大阪シティ信用金庫の各コマ担当講師が紹介します		
その他	大阪シティ信用金庫 提供科目		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。（向井）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BS401C03	期間	後期
授業科目名	企業管理/企業管理論		
英訳科目名	Corporate Management		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この科目は、「企業経営論」のアドバンスプログラム（続編）として位置づけています。企業が経営活動を進める上で取り入れるマーケティングを学びながら、企業と顧客の関係性を向上させるための方法を考えます。また、顧客に提供するサービスと価値の観点から企業経営の形態を考えます。		
到達目標	授業で扱うそれぞれのテーマから、 ・商品やサービスを通じて価値を提供する方法を考えることができること ・顧客や取引先から得られた情報や知識を経営活動に活かす方法を考えることができること ・新たなサービスの企画を自ら考えて提案することができること		
授業計画	第1回 ガイダンス 楽しくサービス・マネジメントを学びましょう 第2回 サービス経営のマネジメント 第3回 サービス創造のマネジメント 第4回 製品とサービスの捉え方 第5回 サービス経験のマネジメント 第6回 サービス人材のマネジメント 第7回 営業の機能と組織 第8回 営業の価値とスタイル 第9回 サービス・マネジメントのロジック 第10回 サービスによる価値創造 第11回 マーケティングとサービス・マネジメント 第12回 ITによる価値創造1 第13回 ITによる価値創造2 第14回 ナレッジ・ブローカー 第15回 まとめ 経営学の実践へ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（受講姿勢・コミュニケーション・授業内課題） 50% 学期末試験 50%		
失格条件	・授業内課題の未提出による ・学期末試験の未受験による ・授業を欠席すること、遅刻することが、教員の失格判断に至ることによる		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書による各テーマの事例研究 45分 教科書による各テーマの自己事例研究 45分 および各テーマのポイントに基づく新たなサービス企画提案 90分		
課題へのフィード バック	授業内課題の解説シェア フィードバックペーパーの返却と解説シェア 課題プレゼンテーションの講評など		
教科書	『1からのサービス経営』		
著者名	伊藤宗彦・高室裕史		
出版社	碩学舎		
参考書	『1からの経営学』 978-4-502-69610-7		
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS402B02	期間	後期
授業科目名	国際経済・貿易論/貿易論		
英訳科目名	Foreign Trade		
担当教員名	登坂 一博		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この科目は、グローバルビジネスマネジメントを経営学とマーケティングの知識をベースに実践的に学びます。経営学とグローバルマーケティングの理論的枠組みを理解しながら、業種別にグローバル市場環境分析に関して理論と実践を多角的な視点で分析し、現状と近未来の市場動向をイメージできるようにします。また、グローバル企業の実際の活動をゲストスピーカーも招いてわかりやすく学生の皆さんに講義をします。グローバルビジネスに携わりたいと思えるような知識と仮想体験を提供します。		
到達目標	経営理論・実践事例・実務経験・仮想体験のビジネスコミュニケーションを通じて、グローバル市場動向と企業の商品やサービスに関心を持つことができる。それら世界規模の販売・流通構造を理解することができるとともに。その商品やサービスが提供される市場環境についての最新ニュースや記事をアクセスできるようになり、グローバル市場動向のリアリティをイメージできるようになる。		
授業計画	第1回 ガイダンス グローバル・ビジネスの現実を楽しく学びましょう 第2回 グローバルビジネスをイメージする 第3回 国内外企業のグローバル化の最新動向 第4回 グローバルビジネスマネジメントの基礎 第5回 グローバルビジネスマネジメントの実践 第6回 グローバル・マーケティングの基礎Ⅰ（マネジメント） 第7回 グローバル・マーケティングの基礎Ⅱ（市場環境分析） 第8回 グローバル・マーケティングの基礎Ⅲ（営業） 第9回 グローバルビジネスの業種別動向（小売、化粧品） 第10回 グローバルビジネスの業種別動向（自動車、アパレル） 第11回 グローバル企業におけるマネジメントの実践（ゲストスピーカー招聘） 第12回 グローバルビジネスの業種別動向（ICT、印刷） 第13回 グローバル・ビジネスコミュニケーション 第14回 グローバル・ビジネスマネジメントワークショップ（Q&Aセッション） 第15回 まとめ・振り返り 期末試験（筆記）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度「受講姿勢・コミュニケーション・課題（準備学習）」40%、小レポート（20%）および学期末試験（40%）を総合評価します。		
失格条件	・5回以上の欠席 ・グループ演習への不参加 ・課題（準備学習）を行わない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・準備学習用課題（予習2時間） ・講義内容の個別レビュー（復習2時間）		
課題へのフィード バック	・講義テキストについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・準備学習用課題についても必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・小レポートは模範解答を提示し、重要なポイントについて解説します。 ・学期末試験については、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	講義内で適宜紹介します。		
その他	講義用資料は都度プリント配布をします。		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS402C01	期間	前期
授業科目名	企業経営論		
英訳科目名	Corporate Administration		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能>○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験>◎
授業概要・ポイント	この科目は、履修される皆さんの生活の中で身近なビジネス事例を使いながら、経営学の体系を学びます。その上で欠かせない対象は企業（会社）ですが、企業を取り巻く様々な要素にも目を向けて学びながら企業経営のイメージを持ち、その活動にいずれ関わっていくための知識と情報のインプットを行います。またコミュニケーション機会も多く設けますので、ビジネスコミュニケーション能力の向上も目指します。		
到達目標	理論・事例・ビジネスコミュニケーションのインプットを通じて生活の中で商品やサービスに目を向けて、それらに関与する企業をイメージできること。また、それらの顧客や競合企業存在を意識してどのように経営活動を進めていくべきかをイメージできること。それらの企業を取り巻く環境を把握して、未来像を自分なりに予測することが出来ること。		
授業計画	第1回 ガイダンス 楽しくビジネスを学びましょう 第2回 良いビジネスとは 第3回 企業と社会 第4回 企業と顧客の接点1 消費と流通 第5回 企業と顧客の接点2 広告と宣伝 第6回 企業とインプット 第7回 企業とアウトプット 第8回 企業と戦略（1）事業 第9回 企業と戦略（2）製品・サービス 第10回 企業と業績 第11回 企業と利益 第12回 企業と公益 第13回 企業とガバナンス 第14回 企業と6次産業 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（受講姿勢・コミュニケーション・授業内課題）50%および学期末試験50%を総合評価します		
失格条件	5回以上の欠席（遅刻3回で1回の欠席とする）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・企業の商品・サービス・事業・業績に関心を持ち、新聞・雑誌・インターネットより配信されるニュースやトピックをチェックすること（30分） ・日常生活の買い物など消費行動による価格や商品またはサービスの仕様や内容のチェック（30分） 以上を毎回の講義までに行い、講義内容をふりかえること（120分）		
課題へのフィードバック	・授業時間内のプレゼンテーション実施と講評 ・授業時間内の課題シェアと解説 ・質疑応答の授業内シェアなど		
教科書	『1からの経営学』		
著者名	加護野忠男・吉村典久		
出版社	碩学舎		
参考書	担当教員より授業中に紹介します		
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401A01	期間	後期
授業科目名	真宗入門		
英訳科目名	Elementary Shin Buddhism Studies		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教・仏教・浄土真宗について学び、悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての釈尊の教え、親鸞聖人が歩んだ念仏の生活などについて概観する。</p> <p>宗教を知ることを通して人間の姿を問い、人類の叡智の結晶である仏教の基礎を学ぶ。そして浄土真宗へと展開する救いの構造を窺い、親鸞聖人の求道と、その結果出遇われ、明らかにされた真実の教えを学ぶことを通して、仏教の思想を自身の問いとして思索していく姿勢を考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>宗教と仏教、浄土真宗の教義、親鸞聖人の生涯の問いについての基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付けることができる。大学での学び、建学の精神を通して、自身の生き方を見つめることの大切さを考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション 第2回 人間と宗教・仏教について 第3回 釈尊の教え 第4回 仏教のひろがりとお経 第5回 大乘仏教 第6回 日本の仏教 第7回 浄土教 第8回 法然聖人と親鸞聖人 第9回 親鸞聖人の問い 第10回 親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の著述 第12回 親鸞聖人の教え（1）基礎 第13回 親鸞聖人の教え（2）発展 第14回 本願寺について 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、授業への参加態度（参加状況）40%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 浄土真宗の教義、仏教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。種々の文献と、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 親鸞聖人・浄土真宗に関する参考文献を読む……………予習 2時間（90分） 講義時に取り上げた問題と浄土真宗教義について整理する…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS402B01	期間	前期
授業科目名	マーケティング論		
英訳科目名	Marketing		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	私達の生活を支える商品やサービスについて顧客との関係を創造し維持するための仕組みを学びます。身近な商品や実例をもとにマーケティングの基礎知識を理解し、新製品やサービスのアイデア創造や、既存製品やサービスの新たなマーケティング戦略に挑戦します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・製品やサービスへの関心を持ってマーケティングの基本知識を修得し、思考力を高められること。 ・独自のアイデアやプランを作る上でのビジネス発想力を備えられること。 ・プレゼンテーション・コミュニケーション能力を向上できること。 		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 マーケティングの役割と機能 第3回 マーケティング・ミックスと4つのP 第4回 製品・サービスの価値と開発 第5回 メッセージとプロモーションミックス 第6回 ブランドの価値とプロモーション 第7回 ブランドの価値と機能 第8回 価格対応、流通チャネルの構築と開発 第9回 流通チャネルと営業活動 第10回 営業機能と顧客価値創造 第11回 事業の定義、製品ポートフォリオ 第12回 競争戦略とマーケティング 第13回 消費者対応 第14回 市場細分化 第15回 関係性とサービスマネジメント		
評価方法 (合計100%)	定期試験に代わるレポート 60% 授業内課題、受講姿勢、出席状況など 40% による総合評価		
失格条件	欠席回数、受講状況、授業内課題のみ提出、学期末レポートの不提出および教員の判断による受講態度		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の事前購読とケース（事例商品やサービス）情報の入手（120分） ・ケース（事例商品やサービス）の新提案（60分） 		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題プレゼンテーションの実施と講評 ・授業内課題の解説 ・質疑応答の授業内シェア ・事例研究情報のポータル上シェアなど 		
教科書	1からのマーケティング		
著者名	石井 淳蔵、廣田 章光		
出版社	碩学舎		
参考書			
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	TE302B05	期間	後期
授業科目名	生徒指導論		
英訳科目名	Student Counseling		
担当教員名	馬場 義伸		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	児童生徒の人格の健全な発達を図ることを目指して、生徒指導の手立てと方法について学ぶ。加えて、具体的な事例をもとに、問題行動の背景、自己肯定感と繋がり合う集団づくり、同僚や保護者、関係機関との連携などについて学ぶ。これらの学びを通して、「子ども観」を深め、自分の目指す教師像を具現化する。		
到達目標	<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通して行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。同僚や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識や素養を身に付ける。そのために以下のことを目指す。</p> <p>①生徒指導の位置づけ、各教科や教科外活動における生徒指導の意義や重要性を理解できる。 ②集団指導・個別指導の方法や生徒指導・教育相談体制について理解できる。 ③学校ぐるみの組織的な生徒指導の取組みを理解できる。 ④日々の生徒指導の在り方と児童生徒の自己肯定感が育つ具体的な方法を理解できる。 ⑤生徒指導に関する主な法令の内容といじめ・不登校・虐待等への対応の在り方を理解できる。</p>		
授業計画	第1回 オリエンテーション：講義の概要、受講時の心得、評価の説明 第2回 教育課程における生徒指導の位置づけと教科・教科外活動における生徒指導の意義と重要性 第3回 生徒指導の土台となる信頼関係①生活習慣の確立や規範意識の醸成等の指導の在り方と生徒との信頼関係 第4回 生徒指導の土台となる信頼関係②信頼関係の構築と教師集団のチームワーク 第5回 問題行動の捉え方とその背景①「非行」「荒れ」の背景と生徒指導の在り方 第6回 問題行動の捉え方とその背景②「いじめ」の背景と生徒指導の在り方 第7回 問題行動の捉え方とその背景③「不登校」の背景と生徒指導の在り方 第8回 生徒同士の人間関係と生徒指導 第9回 「性」「薬物」「携帯」「情報・インターネット」と生徒指導との関連性 第10回 生徒が繋がるための手立て①「取り組みなしに発達はない」とことや、文化的活動が人間力を育むことについて 第11回 生徒が繋がるための手立て②「クレーム」問題と保護者の理解 第12回 子どもの「貧困問題」：貧困の現状と背景、その対応策 第13回 子どもに対する「虐待」：虐待の現状と背景、その対応策 第14回 子どもの「貧困問題」と「虐待」：教育集団（保護者と教師）における連携と関係機関との連携 第15回 まとめ：学生の不安や疑問に答えるとともに、目指す教師像のレポートを基に討論する		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（参加状況）	40%	
	ミニレポート、コメントカード	30%	
	「手作り通信」（レポート）	30%	
失格条件	出席が授業回数の3分の2に満たない場合失格 3回の遅刻で1回の欠席に換算		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	講義テーマを自分自身の学校生活での体験に引き寄せて、問題意識をもって講義に参加する。 ニュースに関心を持ち、新聞やインターネットの情報を講義に持ち込み、紹介する。毎回交代で教育や子どもの問題についての「問題意識」をミニレポートにまとめて、発表・交流する。（2時間） コメントカードや講義のまとめの掲載された「講義通信」をファイルしておく。 講義の中や「講義通信」で「参考文献」を紹介するので、興味のある問題を探究しておく。（2時間）		
課題へのフィードバック	①授業のコメントカードをプリントして、次回の授業の最初に読みあい、全体で共有する。討論すべき課題があれば討論する。 ②課題提出後、授業で全体に向けてコメントしたり個別にコメントする。またレポートを印刷するなどして全体で討論もする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	学習指導要領 学習指導要領の解説		
その他			
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	図書館概論		
英訳科目名	Introduction to Library and Information Science		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>この科目は図書館司書の資格を取りたい人が最初に受ける科目です。ただ、2019年度に1回生の人は、共通教育科目として、司書の資格を目指していない人も受けることができます。1回生の人はこの授業を受けていく中で、司書の資格を取るかどうか決めてもらえればと思います。</p> <p>まず、「図書館の思い出」を思い出してもらいます。学校の図書室以外は全く思い出せない人がいるかもしれません。</p> <p>次に司書になるにはどうすればいいかを説明します。実は終身雇用の司書になるのは簡単ではありません。図書館で働いている司書はパートやいわゆる契約社員が多いのです。なぜそのような状況になっているのか、日本の図書館の状況を説明します。</p> <p>その後、「なぜ税金を使って図書館を無料で使えるようにしているのか、図書館とは何なのか」や「マンガを図書館でどの程度買うべきか」「電子書籍の時代に図書館は何をしようとしているのか」などを説明し、「図書館は今後どうなっていくのか」を皆さんといっしょに考えていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館・学校図書館(図書室)・大学図書館の違いを説明することができる。 ・図書館司書の資格を取るには、司書として働くにはどうすればいいか説明することができる。 ・図書館が無料で利用できる理由を説明することができる。 ・司書がどのようなところに注意しながら仕事をしているか、一般人の判断と司書の判断の違いを説明することができる。 		
授業計画	<p>第1回 図書館の体験の共有</p> <p>第2回 司書になるには</p> <p>第3回 図書館の意義と役割</p> <p>第4回 図書館の歴史</p> <p>第5回 図書館の機能と種類</p> <p>第6回 図書館のサービス</p> <p>第7回 図書館のコレクション</p> <p>第8回 図書館の情報組織化</p> <p>第9回 図書館のネットワーク</p> <p>第10回 電子書籍時代の図書館</p> <p>第11回 図書館利用教育と情報リテラシー</p> <p>第12回 図書館経営</p> <p>第13回 図書館と博物館の違い</p> <p>第14回 知的自由と図書館の自由</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>学期途中でのレポート課題：50%</p> <p>試験：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>大学に来るたびに相愛の図書館の中に入ってください。図書館について学ぶのですから、本を読むことの他に、図書館内のどういうところに何があるのかや、司書さんはどういう仕事をしているのか、など、図書館の仕組みを週に1回は観察してみてください。また、市立図書館など、他の図書館に実際に行って見てくることも必要です。図書館が出てくる小説やマンガを見て、現実との違いを考えるのもいいことです。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・図書館の見学・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	今まど子・小山 憲司 編著『図書館情報学基礎資料』樹村房, 2016, 978-4883672660		
その他	授業の中ではただ聞くだけでなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	学校経営と学校図書館		
英訳科目名	School Management and School Library		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>この科目は、司書教諭の資格や学校司書モデルカリキュラムのために必要な科目の1つで、もっとも入門的な科目です。</p> <p>学校図書館とは何か、なぜ学校の中に図書館が必要なのか、学校図書館で働く人は何をするのか、などを学びます。</p> <p>まずは、学校図書館とは何かから学びはじめます。学校図書館とは小・中・高校・特別支援学校にある、いわゆる図書室のことです。建物が別にならなくても学校図書館といえます。また、大学にある図書館は学校図書館ではありません。また、学校図書館は自分の好きな本を借りる場所でもあります。探究学習(調べ学習)などの場所でもあります。主に児童生徒が利用しますが、教職員も利用します。</p> <p>次に、学校図書館や司書教諭は具体的に何をするのかを大まかに学びます。司書教諭は本の貸出や整理をするだけでなく、他の教員と共に学校図書館でどのような授業をするか考え、授業を行い、授業が成功しているか振り返ります。司書教諭はその名の通り教員なのです。</p> <p>その次は、学校図書館は学校とばらばらであってはいけない、目標に向けた学校全体の動き(学校経営)と学校図書館で行うことは一致してなければならないことを学びます。</p> <p>最後に、現在配置が進む、司書教諭とは別の職種である「学校司書」との協働など、現在の日本の学校図書館が抱える課題の解決方法を考えます。他の科目を学ぶ上で、また司書教諭になった後でも、それぞれが「学校図書館とは何なのか」を学びつつけること、考え続けることは必要であり、その基礎となります。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒・同僚・管理職・保護者など、相手に合わせて学校図書館の重要性を説明することができる ・学校図書館に関する仕事内容を列挙し、状況に合わせて司書教諭が担当すべき仕事を理由をつけて選ぶことができる ・学校経営計画などの「学校の目標」と学校図書館とを関係して説明できる ・司書教諭と学校司書の違いを説明し、協力や仕事の分担の方法を提案することができる 		
授業計画	<p>第1回 学校図書館とは何か -- 各自の学校図書館の思い出</p> <p>第2回 学校図書館の歴史</p> <p>第3回 学校図書館の運営・自由宣言</p> <p>第4回 学校図書館と行政</p> <p>第5回 司書教諭と学校司書</p> <p>第6回 司書教諭の機能と役割</p> <p>第7回 学校図書館の資料</p> <p>第8回 学校図書館資料の組織化</p> <p>第9回 探究学習</p> <p>第10回 読書教育</p> <p>第11回 学校図書館のサービス・レファレンスサービス</p> <p>第12回 学校図書館に関わる人々との協働(教諭・司書教諭・ボランティアなど)</p> <p>第13回 図書委員会・図書館だより</p> <p>第14回 学校図書館運営の計画と評価</p> <p>第15回 学校図書館の現状と課題・まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>学期途中でのレポート課題：50%</p> <p>試験：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>レポートを書くために、なるべく実際の学校図書館に見学に行くことが求められます。</p> <p>スマホでYouTubeなどの学校図書館の動画を見るのもいいでしょう。電車の中などで構いません。これも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・学校図書館の見学・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	<p>中村百合子編著『学校経営と学校図書館(司書教諭テキストシリーズII, 1)』, 樹村房, 2015, 978-4883672516</p> <p>野口武悟、前田稔 編著『学校経営と学校図書館』, 放送大学教育振興会, 2017, 978-4595317538</p>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・他の司書教諭の4科目より先に、または同時に履修することが望ましい。 ・授業の中ではただ聞くだけではなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 		
備考	中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	集中
授業科目名	学校図書館メディアの構成		
英訳科目名	Media Collection and Organization in School Libraries		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>学校図書館での本やメディアの整理の方法について学びます。学校図書館でどのようなものを買うべきか・日本十進分類法・目録の意義・コンピュータ目録の作成方法などを扱います。</p> <p>具体的には、「ただ本棚に入れてあるだけだとこれだけしかできないけれど、検索できるようにするとこういう教育が可能になる」「学校図書館でマンガは買うべきか」「公共図書館と本の背ラベルの番号は同じ番号が付いて、本棚には同じ順で並べているけど、それが本当にベストなのか」などを考えていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 紙の本以外にもどのようなものを学校図書館に備えればいいのか、状況に応じて必要かどうか判断しその意図を説明することができる。 学校図書館でも大学図書館などのようにどんな本があるか検索できるようにすると、児童生徒や教員にどのようなメリットがあるか説明することができる。 学校図書館でNDCを用いるメリット・デメリットを説明することができる。 学校図書館資料に3ヶタ程度のNDCを付与し、その意図を説明することができる。 		
授業計画	<p>第1回 学校図書館メディアの種類と特性 (1) 学校図書館メディアの種類</p> <p>第2回 学校図書館メディアの種類と特性 (2) 一般図書と参考図書</p> <p>第3回 学校図書館メディア選択の指針、方針、基準</p> <p>第4回 学校図書館メディアの選択ツール・方法・評価</p> <p>第5回 学校図書館メディアの組織化 (目録の意義と機能)</p> <p>第6回 学校図書館における目録の活用と主題検索の意義</p> <p>第7回 学校図書館における目録の現在の状況</p> <p>第8回 NDCの体系と付与 (1)</p> <p>第9回 NDCの体系と付与 (2)</p> <p>第10回 学校図書館メディアの図書館内での配列</p> <p>第11回 コンピュータ目録における記述目録法</p> <p>第12回 コピーカタロギング</p> <p>第13回 件名標目の体系と付与</p> <p>第14回 コンピュータ目録を用いた学校図書館の授業実践</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>授業内での課題：90%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>「自分は学校図書館でどのような本を読み、どうやって探していたか」「自分が先生になったら学校図書館にどのような本があってほしいか」などを、電車の中などの少しの時間でもいいので考えてみてください。また、書店に行ったら、ちょっとでもいいので、子どもの本コーナーに行き、1冊手にとって見てみてください。こういう日頃の積み重ねはこの授業の予習復習そのものです。</p>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	北克一[ほか]編著 『学校図書館メディアの構成 改訂新版』 放送大学教育振興会, 2016		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 「学校教育と学校図書館」を履修済みであるか、同時に履修することが望ましい。 授業の中ではただ聞くだけでなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 		
備考	中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	情報メディアの活用		
英訳科目名	Information Media for Learning and Teaching		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>学校では、DVD やインターネットを活用した教育が行われています。この科目では、学校図書館や司書教諭がそのような情報メディアを用いた教育や情報リテラシー教育を中心となって担っていくということを学びます。</p> <p>情報の発達と社会変化、情報メディアの種類・特質を踏まえ、情報メディアは学校教育にどう役立つか、司書教諭は情報メディアを使ってどのような教育を行うかなどについて考えます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において、学校図書館が情報メディアを扱う意義について説明することができる。 ・情報メディアの教育における効果的な利用方法について提案することができる。 ・どのような場合に情報メディアが学校内で複製可能か選択することができる。 		
授業計画	<p>第1回 知識基盤社会と人間</p> <p>第2回 情報メディアの特性と選択</p> <p>第3回 授業における視聴覚メディア・コンテンツの活用</p> <p>第4回 授業における ICT の活用</p> <p>第5回 学校教育と情報メディア：視聴覚メディア</p> <p>第6回 学校教育と情報メディア：コンピュータ</p> <p>第7回 学校図書館と情報リテラシー教育</p> <p>第8回 学校教育と情報メディア：インターネット</p> <p>第9回 情報メディアに関する司書教諭と他の分掌との連携</p> <p>第10回 特別な支援を要する児童生徒への活用</p> <p>第11回 情報メディアを活用した学校図書館運営</p> <p>第12回 情報メディアの活用と著作権</p> <p>第13回 学校図書館ホームページ・ソーシャルメディアの活用</p> <p>第14回 情報メディアに関わるトラブルとその対策</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>学期途中でのレポート課題：50%</p> <p>試験：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>「いままで小中高と教室でどんなDVDを見てきたか」「IT機器を使うのではなく、黒板で説明した方がいいときはどういうときがあるか」「情弱・情強とは何なのか」などをふとした時間のすき間に考えてみてください。こういうことを電車の中などで考えるのも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・学校図書館の見学・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	山本順一[ほか]編著『情報メディアの活用』，放送大学教育振興会，2016，978-4595316494		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育と学校図書館」を履修済みであるか、同時に履修することが望ましい。 ・授業の中ではただ聞くだけではなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 		
備考	中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	図書館情報技術論		
英訳科目名	Library Information Techniques		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>パソコンがない時代、利用者はどうやって本を検索し、司書は本を管理していたのでしょうか。インターネットによって図書館の役割や司書の仕事内容はどう変わったのでしょうか。</p> <p>この科目では、図書館で働くときに求められる情報に関する基礎的な知識や機器の操作方法と情報に対する考え方を学びます。コンピュータネットワーク・データベース・検索エンジンなどの図書館に関わる一般的な情報技術、OPACや貸出返却システムなどの図書館業務システムなどの図書館に特化した情報システム、図書館がソーシャルメディアをどう活用しているかなどの情報化時代における図書館の取り組みについて学びます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化がなされていなかった時代の図書館と比較して、それぞれの図書館で行わなくなったこと、新たに行うようになったことを説明することができる。 ・Excelなどの表計算ソフトではなく、データベースを使うメリットを説明することができる。 ・現在図書館が取り組んでいる情報技術に関するトピックについて1つ取り上げ、そのメリットとデメリットを説明することができる。 		
授業計画	<p>第1回 情報化以前の図書館</p> <p>第2回 コンピュータ単体でできたこと</p> <p>第3回 インターネットによってできるようになったこと</p> <p>第4回 WWWの仕組み</p> <p>第5回 サーチエンジンの仕組み</p> <p>第6回 データベースのメリット</p> <p>第7回 データベースの仕組み</p> <p>第8回 図書館業務システムの仕組みと操作</p> <p>第9回 図書館のソーシャルメディアによる情報発信</p> <p>第10回 CiNiiの歴史と電子書籍の管理と貸出</p> <p>第11回 公共図書館の電子図書館やデジタルアーカイブへの取り組み</p> <p>第12回 最新の情報技術への図書館の対応</p> <p>第13回 図書館における情報技術活用の現状</p> <p>第14回 コンピュータシステムの管理</p> <p>第15回 まとめと到達の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>学期途中でのレポート課題：50%</p> <p>試験：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>「スマホの時代、図書館はもっとこういう新しいことができるのではないかなどを、電車の中でちょっと時間があるときになど考えてみてください。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ワードやエクセルなどのパソコンの操作方法について詳しくなるための授業ではありません。 ・授業の中ではただ聞くだけでなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	情報サービス論		
英訳科目名	Introduction to Information Services		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	図書館における情報サービスの意義と実際を解説し、レファレンスサービス等で使用されるレファレンスブック、データベース等のレファレンスツールに関して解説する。 また、情報リテラシーを含む図書館利用者教育・学校図書館における探究学習の支援・パスファインダーなどの発信型情報サービスについても解説する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報サービスの意図やポリシーについて、与えられた場面に応じて自らの対応方法を説明することができる。 ・レファレンスブックとそれ以外について見分け、判断の理由を説明することができる。 ・基本的な参考図書・データベース等について、どのような場合にそのツールを使うべきか選び、自らの評価を説明することができる。 ・パスファインダーを比較し、利用者に応じた情報提供の方法を評価し、提案することができる。 ・学校図書館と公共図書館との違いを説明することができる。 		
授業計画	第1回 公共図書館・学校図書館における情報サービスとは 第2回 情報サービスの意義と種類：レファレンスサービス・レフェラルサービス・カレントアウェアネスサービス 第3回 レファレンスサービスの理論と実践(1)：レファレンスプロセス 第4回 レファレンスサービスの理論と実践(2)：学校図書館における児童生徒及び教職員からの相談・質問への対応 第5回 情報検索サービスの理論と方法(1)：書誌情報検索・文献検索 第6回 情報検索サービスの理論と方法(2)：事実検索 第7回 レファレンス事例の分析(1)：クイックレファレンスの受付と処理 第8回 レファレンス事例の分析(2)：探索質問の受付と処理 第9回 各種情報源の評価と解説 第10回 図書館における情報資源の組織化 第11回 発信型情報サービスの意義と方法 第12回 情報サービスにかかわる知的財産権 第13回 図書館利用者教育と情報リテラシーの育成 第14回 学校図書館における情報サービスの提供による探究的な学習の支援 第15回 まとめと到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	毎回の小テストまたは大福帳：10% 学期途中でのレポート課題：50% 試験：40%		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	復習・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	竹之内 禎 (編) 『情報サービス論 (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望)』 学文社, 2013, 978-4762021947 今まど子・小山 憲司 編著 『図書館情報学基礎資料』 樹村房, 2016, 978-4883672660 大串夏身 『ある図書館相談係の日記—都立中央図書館相談係の記録』 日外アソシエーツ, 1994, 978-4816912269 齊藤泰則 『利用者志向のレファレンスサービス：その原理と方法』 勉誠出版, 2009, 978-4585054269 長澤雅夫・石黒祐子 『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』 日本図書館協会, 2007, 978-4820407027		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館概論」と「図書館サービス概論」を履修しているか同時に履修すること。 ・「情報サービス演習1」「情報サービス演習2」の前にこの科目を履修することが望ましい。 ・授業の中ではただ聞くだけでなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	図書館情報資源概論		
英訳科目名	Introduction to Library Information Resources		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>図書館には紙の本だけでなく、DVD やデータベースなどもあります。このようなものも広く含めて、「情報資源」や「資料」と呼びます。この科目では、情報資源全般について学びます。</p> <p>情報資源の特質や歴史とともに、出版社などでの本の作られ方やいわゆる本の間屋のことなども扱います。また、「図書館はみんなが買えないような高い本や価値のある本を多く買ったほうがいいのか、俗っぽくても利用者からのリクエストが多い本を多めに買ったほうがいいのか」など、図書館がどのような本を揃えていけばいいのかなどについても扱います。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書店では売っていない情報資源の特徴を説明し、それらを図書館が備えないといけない理由を説明することができる。 ・図書館で購入すべきリストを作成し、その理由を説明することができる。 ・図書館が電子書籍などを購入する際の現状の問題点と、その解決方法を提案することができる。 		
授業計画	<p>第1回 知識の性質と情報の性質</p> <p>第2回 図書館情報資源の経緯</p> <p>第3回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質</p> <p>第4回 電子資料, ネットワーク情報資源の類型と特質</p> <p>第5回 地域資料, 行政資料, 灰色文献</p> <p>第6回 情報資源の生産(出版)と流通</p> <p>第7回 図書館業務と情報資源に関する知識</p> <p>第8回 コレクション形成の理論</p> <p>第9回 コレクション形成の方法</p> <p>第10回 人文・社会科学分野の情報資源とその特性</p> <p>第11回 科学技術分野, 生活分野の情報資源とその特性</p> <p>第12回 資料の受入・除籍・保存・管理の実際</p> <p>第13回 情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源</p> <p>第14回 電子書籍, 電子ジャーナル — 図書館情報資源としての意義と課題</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳: 10%</p> <p>学期途中でのレポート課題: 50%</p> <p>試験: 40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>週に1度は相愛の図書館の中で、どこにどのような情報資源があるのか観察してください。また「この本はこちらに移動させたほうがいいのではないか」や「こういうコーナーを作ったほうがいいのではないか」などを考えてみてください。</p> <p>また、大阪市立図書館、大阪府立図書館などの公共図書館に行き、並んでいる本が相愛の図書館とどこが同じでどこが違うかを見てみてください。書店に行ったら、どのような本があり、どのような陳列の方法がされているか観察し、知らない種類の本があれば、積極的に手にとってください。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・公共図書館の訪問・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	<p>授業時、参考資料を随時紹介する。</p> <p>藤田岳久 『図書館情報資源概論 ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8』 学文社 978-4762021985</p>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館概論」を履修していること。 ・授業の中ではただ聞くだけでなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	情報資源組織論 1		
英訳科目名	Information Resources Theory 1		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	情報資源組織論 1 では、記述目録法を中心に、典拠コントロール、目録規則、書誌記述法の基本を学習する。国際目録原則覚書、書誌レコード、典拠レコードの機能要件とそのモデル、標準的な目録規則とそれによる目録記述とアクセスポイントなどについて講義し、演習科目情報資源組織演習 1 への準備学習を企図する。		
到達目標	図書館が取り扱う印刷資料・非印刷資料(媒体型電子資料)とネットワーク情報資源について、資料組織化の意義、理論と技術について基礎的知識と技術を習得し、専門用語を理解できることが目標である。情報資源組織論 1 では、特に記述目録法を中心に取り上げる。		
授業計画	第1回 資料組織化の歴史、意義、目的 第2回 資料組織化の理論と技術 第3回 典拠コントロールの意義、目的、方法 第4回 典拠レコードの機能要件とそのモデルの考え方 第5回 標準的な目録規則とその構造、機能 第6回 記述目録法の基礎 第7回 書誌記述とその実際 第8回 MARCレコードと書誌・典拠データベース 第9回 書誌記述とアクセスポイント 第10回 コンピュータ目録のアクセスポイント 第11回 コンピュータ目録のデータベース-構造、機能- 第12回 総合目録、横断検索のデータベース、検索機能 第13回 ネットワーク情報資源とメタデータ、その実際 第14回 書誌コントロールの展開、図書館目録の将来像 第15回 まとめと到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	毎回の小テストまたは大福帳：10% 学期途中でのレポート課題：50% 試験：40%		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	OPACを使うときは、書名・著者名・請求記号の他にどのようなことが書かれているかを普段から気にしてください。また、相愛のOPACだけではなく、大阪市立図書館・大阪府立図書館・国立国会図書館・Cinii Booksなどの他のOPACに慣れ、相愛のOPACと違うところを見つけてみてください。こういうことも十分な予習復習で学習する必要があります。 予習復習・学校図書館の見学・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。		
課題へのフィードバック	・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	日本図書館研究会『図書館資料の目録と分類』, 日本図書館研究会, 2015, 978-4930992222		
その他	・「情報資源組織演習 1」はこの科目を履修した後に受講すること ・授業の中ではただ聞くだけではなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	情報資源組織論2		
英訳科目名	Information Resources Theory 2		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	情報資源組織論2では、主題索引法を中心に、典拠コントロール、主題索引の手法の基本を学習する。記号体系による主題索引である分類法の考え方、主な分類体系とその標準ツール類について解説を行う。また、語彙の体系による主題索引である件名標目法、シソーラスの考え方とその標準ツール類について講義する。併せて、演習課目情報資源組織演習2への準備学習を企図する。		
到達目標	図書館が取り扱う印刷資料・非印刷資料(媒体型資料)とネットワーク情報資源について、資料組織化の意義、理論と技術について基礎的理解をもつ。 情報資源組織化論IIでは、特に主題索引法に対する基礎的な理解を求める。		
授業計画	第1回 典拠コントロールと主題索引の歴史、意義、目的 第2回 主題分析、主題要約と主題索引 第3回 知識の主題索引と資料の形式 第4回 主題索引の方法論-記号の体系と語彙の体系- 第5回 分類法、分類表—記号の主題索引体系— 第6回 主要な分類表とその構成 第7回 分類表の記号法、区分原理、その展開 第8回 分類表の本表と相関索引 第9回 分類表の補助表、その構成 第10回 件名標目法、シソーラスの考え方 第11回 主要な件名標目表とシソーラス、その構成 第12回 件名標目表の本表と補助表 第13回 コンピュータ目録における主題索引 第14回 主題索引の現在、将来像 第15回 まとめと到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	毎回の小テストまたは大福帳：10% 学期途中でのレポート課題：50% 試験：40%		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この科目の次に受ける「情報資源組織演習2」まで受け終わったときには、だいたいどんな本でも背ラベルの2桁目"までは分類のための本などを見ずに番号が付けられることが理想です。そのため、週に1度は図書館に入り、「歴史は2から始まる」とか「植物図鑑は4から始まるのと6から始まるのとなぜか両方ある」とか、1桁目"から少しずつ覚えていってください。こういうことも十分な予習復習です。 予習復習・公共図書館の訪問・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。		
課題へのフィード バック	・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	日本図書館研究会『図書館資料の目録と分類』, 日本図書館研究会, 2015, 978-4930992222		
その他	・「情報資源組織演習2」はこの科目を履修した後に受講すること ・授業の中ではただ聞くだけでなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期																																													
授業科目名	情報資源組織論																																															
英訳科目名	Introduction to Library Material Organization																																															
担当教員名	岡田 大輔																																															
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2																																														
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4																																														
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6																																														
授業概要・ポイント	<p>図書館情報資源の組織化について、分類、件名、目録の理論と作成方法を習得する。分類には主に『日本十進分類法』、件名は『基本件名標目表』、目録は『日本目録規則』に基づき、それぞれの解説をおこない、知識を深めていく。また、ネットワーク情報資源の組織化についてMARC、メタデータ等の解説をおこない、OPAC、データベース等の仕組み・活用方法に関して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で扱うさまざまな情報資源の組織化の理論と技術について理解する。 ・分類・件名・目録について学習し、書誌データの活用法に関して理解する。 ・MARC、OPAC等のコンピュータ目録の仕組み、ネットワーク情報資源の組織化について理解する。 																																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ定められた方法で資料組織を行うのか、その理由を選択することができる。 ・日本十進分類法の特徴を他の分類法と比較し説明することができる。 ・統制された件名を付与する意義を説明することができる。 ・コピーカタロギングのメリットについて説明することができる。 																																															
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>講義</td><td>情報資源とは・組織とは</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>講義</td><td>書誌コントロールの定義と種類</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>講義</td><td>主題分析の意義と考え方</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>講義</td><td>日本十進分類法(NDC)の概要</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>講義</td><td>分類規程と分類作業</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>講義</td><td>補助表と相関索引</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>講義</td><td>件名法と基本件名標目表</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>講義</td><td>目録と書誌記述法</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>講義</td><td>日本目録規則(NCR)の概要</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>講義</td><td>日本目録規則の構成と特徴</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>講義</td><td>書誌記述と書誌階層</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>講義</td><td>コンピュータ目録の概要：MARC</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>講義</td><td>ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>講義</td><td>多様な情報資源の組織化</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>講義</td><td>まとめと到達度の確認</td></tr> </table>			第1回	講義	情報資源とは・組織とは	第2回	講義	書誌コントロールの定義と種類	第3回	講義	主題分析の意義と考え方	第4回	講義	日本十進分類法(NDC)の概要	第5回	講義	分類規程と分類作業	第6回	講義	補助表と相関索引	第7回	講義	件名法と基本件名標目表	第8回	講義	目録と書誌記述法	第9回	講義	日本目録規則(NCR)の概要	第10回	講義	日本目録規則の構成と特徴	第11回	講義	書誌記述と書誌階層	第12回	講義	コンピュータ目録の概要：MARC	第13回	講義	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ	第14回	講義	多様な情報資源の組織化	第15回	講義	まとめと到達度の確認
第1回	講義	情報資源とは・組織とは																																														
第2回	講義	書誌コントロールの定義と種類																																														
第3回	講義	主題分析の意義と考え方																																														
第4回	講義	日本十進分類法(NDC)の概要																																														
第5回	講義	分類規程と分類作業																																														
第6回	講義	補助表と相関索引																																														
第7回	講義	件名法と基本件名標目表																																														
第8回	講義	目録と書誌記述法																																														
第9回	講義	日本目録規則(NCR)の概要																																														
第10回	講義	日本目録規則の構成と特徴																																														
第11回	講義	書誌記述と書誌階層																																														
第12回	講義	コンピュータ目録の概要：MARC																																														
第13回	講義	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ																																														
第14回	講義	多様な情報資源の組織化																																														
第15回	講義	まとめと到達度の確認																																														
評価方法 (合計100%)	毎回の小テスト：10% 学期途中でのレポート課題：50% 試験：40%																																															
失格条件	3分の1以上欠席した者																																															
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>OPACを使うときは、書名・著者名・請求記号の他にどのようなことが書かれているかを普段から気にしてください。また、相愛のOPACだけではなく、大阪市立図書館・大阪府立図書館・国立国会図書館・Cinii Booksなどの他のOPACに慣れ、相愛のOPACと違うところを見つけてみてください。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>この科目の次に受ける「情報資源組織演習」まで受け終わったときには、だいたいどんな本でも背ラベルの2桁目"までは分類のための本などを見ずに番号が付けられることが理想です。そのため、週に1度は図書館に入り、「歴史は2から始まる」とか「植物図鑑は4から始まるのと6から始まるのとなぜか両方ある」とか、1桁目"から少しずつ覚えていってください。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・公共図書館の訪問・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>																																															
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 																																															
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。																																															
著者名																																																
出版社																																																
参考書																																																
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目を履修しないで「情報資源組織演習」は履修しないこと。 ・授業の中ではただ聞くだけではなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 																																															
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。																																															
科目生への開講	あり																																															

ナンバリング		期間	前期																																													
授業科目名	情報資源組織演習																																															
英訳科目名	Practicum of Library Material Organization																																															
担当教員名	岡田 大輔																																															
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2																																														
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4																																														
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6																																														
授業概要・ポイント	<p>図書館における書誌情報の組織化について、分類作業として、適切な主題把握に基づきNDCを使用した分類記号付与の演習を行う。また、目録作業として、各種資料について日本目録規則に基づいた目録作成を行うとともに、メタデータの構成について理解し、MARCを利用したコンピュータ目録の作成方法について基本的な知識・技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報資源組織論で学習した知識を発展させ、情報資源組織業務に関して実践的な能力を養成する。 ・分類・件名・標目に関して、日本十進分類法(NDC)、基本件名標目表(BSH)、日本目録規則(NCR)を用いた資料の分類・目録作業の方法を習得する。 ・メタデータの作成方法等を通じてネットワーク情報資源の組織化について理解を深める。 																																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・NDCの第1次区分を書くことができる。 ・NDCの冊子を用いてさまざまな資料への分類記号の付与を行い、他に示された分類記号案と比較しどちらが適切か自らの言葉で述べることができる。 ・BSHの冊子を用いてさまざまな資料への件名の付与を行い、他に示された件名案と比較しどちらが適切か自らの言葉で述べることができる。 ・NCRに基づき、基本的な目録を作成することができる。 																																															
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>演習</td><td>情報資源組織化・資料分類の概要</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>演習</td><td>日本十進分類法(NDC)の基本と構成</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>演習</td><td>日本十進分類法に基づく主題の分析</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>演習</td><td>日本十進分類法の基礎演習</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>演習</td><td>日本十進分類法の補助表</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>演習</td><td>日本十進分類法の総合演習</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>演習</td><td>件名標目：統制語とシソーラス</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>演習</td><td>集中化・共同化による書誌データ作成</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>演習</td><td>日本目録規則(NCR)の構成と適用</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>演習</td><td>図書目録作成(1)書誌記述の記録</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>演習</td><td>図書目録作成(2)標目と標目指示</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>演習</td><td>逐次刊行物の目録作成</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>演習</td><td>各種資料の目録作成</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>演習</td><td>ネットワーク情報資源のメタデータ作成</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>演習</td><td>目録総合演習</td></tr> </table>			第1回	演習	情報資源組織化・資料分類の概要	第2回	演習	日本十進分類法(NDC)の基本と構成	第3回	演習	日本十進分類法に基づく主題の分析	第4回	演習	日本十進分類法の基礎演習	第5回	演習	日本十進分類法の補助表	第6回	演習	日本十進分類法の総合演習	第7回	演習	件名標目：統制語とシソーラス	第8回	演習	集中化・共同化による書誌データ作成	第9回	演習	日本目録規則(NCR)の構成と適用	第10回	演習	図書目録作成(1)書誌記述の記録	第11回	演習	図書目録作成(2)標目と標目指示	第12回	演習	逐次刊行物の目録作成	第13回	演習	各種資料の目録作成	第14回	演習	ネットワーク情報資源のメタデータ作成	第15回	演習	目録総合演習
第1回	演習	情報資源組織化・資料分類の概要																																														
第2回	演習	日本十進分類法(NDC)の基本と構成																																														
第3回	演習	日本十進分類法に基づく主題の分析																																														
第4回	演習	日本十進分類法の基礎演習																																														
第5回	演習	日本十進分類法の補助表																																														
第6回	演習	日本十進分類法の総合演習																																														
第7回	演習	件名標目：統制語とシソーラス																																														
第8回	演習	集中化・共同化による書誌データ作成																																														
第9回	演習	日本目録規則(NCR)の構成と適用																																														
第10回	演習	図書目録作成(1)書誌記述の記録																																														
第11回	演習	図書目録作成(2)標目と標目指示																																														
第12回	演習	逐次刊行物の目録作成																																														
第13回	演習	各種資料の目録作成																																														
第14回	演習	ネットワーク情報資源のメタデータ作成																																														
第15回	演習	目録総合演習																																														
評価方法 (合計100%)	毎回の大福帳：10% 毎回の授業内での課題：90%																																															
失格条件	3分の1以上欠席した者																																															
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>OPACを使うときは、書名・著者名・請求記号の他にどのようなことが書かれているかを普段から気にしてください。また、相愛のOPACだけではなく、大阪市立図書館・大阪府立図書館・国立国会図書館・Cinii Booksなどの他のOPACに慣れ、相愛のOPACと違うところを見つけてみてください。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>この科目を受け終われば、だいたいどんな本でも背ラベルの2桁目"までは分類のための本などを見ずに番号が付られることが理想です。そのため、週に1度は図書館に入り、「歴史は2から始まる」とか「植物図鑑は4から始まるのと6から始まるのとなぜか両方ある」とか、「1桁目"から少しずつ覚えていってください。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・公共図書館の訪問・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>																																															
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・課題はその授業内か次回の授業にて確認します。 																																															
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。																																															
著者名																																																
出版社																																																
参考書																																																
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報資源組織論」を履修しているか同時に履修すること。 ・授業の中ではただ聞くだけではなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 																																															
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。																																															
科目生への開講	なし																																															

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	図書・図書館史		
英訳科目名	History of Books and Libraries		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>本科目は、図書館の歴史やメディアの歴史を学ぶ科目である。</p> <p>授業においては、1～5回は記録メディアの歴史を、6～8回は図書館の歴史:世界を、9～14回は図書館の歴史:日本を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>メディアの歴史として、紙以前の記録メディアの誕生から近代のメディアに至る発展の過程を学び、理解することができる。</p> <p>世界及び日本の図書館の歴史として、歴史的な背景や現在に至る状況を学び、理解することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業の概要</p> <p>第2回 記録メディアの歴史(1)紙以前の記録メディア～</p> <p>第3回 記録メディアの歴史(2)大量印刷の時代～</p> <p>第4回 記録メディアの歴史(3)近代のマスメディア～</p> <p>第5回 記録メディアの歴史(4)新しいメディア</p> <p>第6回 図書館の歴史：世界(1)図書館の源流～</p> <p>第7回 図書館の歴史：世界(2)近世の図書館～</p> <p>第8回 図書館の歴史：世界(3)近代日本の図書館</p> <p>第9回 図書館の歴史：日本(1)前近代の図書館～</p> <p>第10回 図書館の歴史：日本(2)デモクラシーと図書館～</p> <p>第11回 図書館の歴史：日本(3)戦後改革と図書館～</p> <p>第12回 図書館の歴史：日本(4)市町村立図書館の振興と住民の図書館～</p> <p>第13回 図書館の歴史：日本(5)子供と読書・図書館～</p> <p>第14回 図書館の歴史：日本(6)科学技術の発達と図書館</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>学期途中でのレポート課題：50%</p> <p>試験：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>ただ状況を受け入れるのではなく、「なぜそうなっているのか」「歴史的経緯は分かったけど、変えても全く問題ないのではないか」など、常に疑問を持ち、改善の方法を考え続けてください。改善の方法を考えることは、予習や復習そのものです。電車の中で短い時間考えるのも十分な学習です。</p> <p>図書館のシーンが出てくる昔の映画などを見たり、図書館が出てくる昔の小説を読んだりするのもいいでしょう。授業でもいくらかは紹介します。</p> <p>予習復習・さまざまな図書館の訪問・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	<p>千錫烈 『図書・図書館史 (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 10)』, 学文社, 978-4762022005</p> <p>高山正也 『歴史に見る日本の図書館: 知の精華の受容と伝承』, 勁草書房, 2016, 978-4326050161</p> <p>岩猿敏雄 『日本図書館史概説』, 日外アソシエーツ, 2007, 978-4816920233</p>		
その他	授業の中ではただ聞くだけではなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	図書館情報資源特論		
英訳科目名	Special Course of Library Information Resources		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>図書館情報資源特論では、図書館OPACの次世代構想とその実装動向を講義する中で、図書等の非継続資料、継続資料、雑誌論文、ネットワーク情報資源などの資源の発生、流通、収集、組織化、保存の各次元を統合した情報資源組織化と統合検索を扱う。</p> <p>また、主題書誌作成とその索引構築法についても併せて学習をする。</p>		
到達目標	<p>図書館が取り扱う印刷資料・非印刷資料(媒体型資料)とネットワーク情報資源について、資料組織化の先端的な事例を扱う。図書館OPACの次世代構想とその実装動向や論文データベースとその索引、リンクト・テクノロジーの機能などを対象とする。また、書誌記述の方法論、書誌索引の基礎と応用なども併せて取り上げる。</p>		
授業計画	<p>第1回 国際目録法原則と書誌の役割、機能 第2回 図書館ポータルと図書館OPACの次世代構想 第3回 主題書誌作成とその索引構築法 第4回 次世代OPACの類型と評価軸 第5回 次世代OPACの実装例とその評価Ⅰ 第6回 次世代OPACの実装例とその評価Ⅱ 第7回 図書館POACと文献データベース、その統合 第8回 検索エンジンとハイパーリンクの解析 第9回 検索エンジンと「ハブ」、「オーソリティ」、「ページランク」手法 第10回 SNSとソーシャルグラフの解析—6次の隔たり、スモールワールド— 第11回 トラフィックエンジンの競合-検索エンジンとSNS- 第12回 情報の生態系とマネタイズエンジン 第13回 電子書籍とそのプラットフォーム 第14回 DOI(Digital Object Identifier)と 文献識別単位 第15回 まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10% 学期途中でのレポート課題：50% 最終レポート：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内で近くの図書館の見学に行くとともに、授業時間外に別の図書館の見学に行くことが求められます ・復習・図書館の見学・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です 		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	・授業の中で発表することが求められます。		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	学校教育概論		
英訳科目名	Introduction to School Education		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「学校司書のモデルカリキュラム」の科目です。 教職課程を履修しない人に向けて、学校での教育の仕組みや児童生徒の心身の発達などについて、基本的なことを学びます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校において、「どこまで法律で定められていて、どこまで各学校で決められるか」などを大まかに判断することができる ・学習指導要領と学習指導要領解説の違いを説明することができる ・小中高校生の一般的な発達段階を踏まえ、より良い接し方を自らの言葉で提案することができる ・特別支援教育の考え方を踏まえ、さまざまな児童生徒に対して、どのような対応がふさわしいか、自らの言葉で提案することができる 		
授業計画	第1回 学校教育の意義と目標1 学校の先生の1日 第2回 学校教育の意義と目標2 小学校・中学校・高校・特別支援学校はどこが違うか 第3回 学校教育の意義と目標3 教育基本法と学校教育法 第4回 教育行政と学校教育1 校長先生・教頭先生の仕事内容 第5回 教育行政と学校教育2 教育委員会とは何か 第6回 教育課程の意義と学習指導要領1 公立の小学校ならどの学校も同じことを教えているか 第7回 学校教育と教科書1 教科書に載っていることは全部教えないといけないか 第8回 教育課程の意義と学習指導要領2 なぜ計画を立てて教えないといけないか 第9回 学校教育と教科書2 教科書と学校図書館の本の内容が違ったらどうしたらいいか 第10回 児童生徒の心身の発達及び学習の過程1 異性を意識し始める歳はそれぞれ 第11回 児童生徒の心身の発達及び学習の過程2 学年に応じた叱り方 第12回 特別の支援を必要とする児童生徒に対する理解1 人はそれぞれ異なるが、特徴を大まかにまとめることはできる 第13回 特別の支援を必要とする児童生徒に対する理解2 こうすればみんなにとってもありがたい 第14回 学校教育に関する現代的諸課題 いつだったら先生に時間をとってもらえるか 第15回 まとめと到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	毎回の小テストまたは大福帳：10% 学期途中でのレポート課題：50% 試験：40%		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	子どもとして、と、大人として、の2つの面から考えることが求められます スマホで学校や教育に関するニュースを見るのもいいでしょう。電車の中などで構いません。これも十分な予習復習です。 予習復習・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。		
課題へのフィードバック	・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	・授業の中ではただ聞くだけではなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。 ・「教育心理学」もしくは「教育心理学（子ども）」のどちらか1科目、それから「教育原論」もしくは「教育原理」のどちらか1科目、そして「教育課程の意義と編成」もしくは「教育課程論」どちらか1科目、さらに「特別支援教育」もしくは「特別支援教育（幼・小）」どちらか1科目、合計4科目を全て履修した場合、「学校教育概論」を履修する必要はありません。		
備考	中学校での専任司書教諭の経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

